2023年度
教職・資格（多摩）
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2023/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

教職関係科目【L3101】教職入門［西牧　たかね］春学期授業/Spring 1
教職関係科目【L3102】教職入門［西牧　たかね］秋学期授業/Fall 2
教職関係科目【L3103】教育原理［御園生　純］春学期授業/Spring 3
教職関係科目【L3105】教育原理［御園生　純］春学期授業/Spring 4
教職関係科目【L3104】教育の制度・経営［平塚　眞樹］春学期授業/Spring 5
教職関係科目【L3106】教育の制度・経営［平塚　眞樹］秋学期授業/Fall 6
教職関係科目【LB102】発達・教育の理論Ⅰ［山下　大厚］春学期授業/Spring 7
教職関係科目【LB103】発達・教育の理論Ⅱ［山下　大厚］秋学期授業/Fall 8
教職関係科目【L3107】教育心理学［安齊　順子］秋学期授業/Fall 9
教職関係科目【L3108】教育心理学［安齊　順子］秋学期授業/Fall 10
教職関係科目【L3109】教育相談［遠藤　裕子］春学期授業/Spring 11
教職関係科目【L3110】教育相談［遠藤　裕子］春学期授業/Spring 12
教職関係科目【L3115】生徒・進路指導論［谷川　由佳］秋学期授業/Fall 13
教職関係科目【L3116】生徒・進路指導論［谷川　由佳］秋学期授業/Fall 14
教職関係科目【L3164】社会・地歴科教育法（1）［本山　明］春学期授業/Spring 15
教職関係科目【L3165】社会・地歴科教育法（2）［本山　明］秋学期授業/Fall 16
教職関係科目【L3166】社会・公民科教育法（1）［松山　尚寿］春学期授業/Spring 17
教職関係科目【L3167】社会・公民科教育法（2）［松山　尚寿］秋学期授業/Fall 18
教職関係科目【L3168】情報科教育法Ⅰ［御園生　純］春学期授業/Spring 19
教職関係科目【L3169】情報科教育法Ⅱ［御園生　純］秋学期授業/Fall 20
教職関係科目【M9010】保健体育科教育法Ⅰ［小林　稔］春学期授業/Spring 21
教職関係科目【M9020】保健体育科教育法Ⅱ［鬼頭　英明］春学期授業/Spring 22
教職関係科目【M9030】保健体育科教育法Ⅲ［小林　稔］春学期授業/Spring 23
教職関係科目【M9040】保健体育科教育法Ⅳ［小田　佳子］秋学期授業/Fall 24
教職関係科目【L3114】道徳教育指導論［石神　真悠子］春学期授業/Spring 25
教職関係科目【L3123】道徳教育指導論［石神　真悠子］秋学期授業/Fall 26
教職関係科目【L3117】特別活動論［桐島　次郎］秋学期授業/Fall 27
教職関係科目【L3118】特別活動論［桐島　次郎］秋学期授業/Fall 28
教職関係科目【L3119】教育課程論［三浦　芳恵］秋学期授業/Fall 29
教職関係科目【L3120】教育課程論［三浦　芳恵］秋学期授業/Fall 30
教職関係科目【L3121】教育方法論（ICT 活用を含む）［地村　茂樹］春学期授業/Spring 31
教職関係科目【L3122】教育方法論（ICT 活用を含む）［地村　茂樹］秋学期授業/Fall 33
教職関係科目【L3160】特別な教育的ニーズの理解と支援［山下　洋児］春学期授業/Spring 35
教職関係科目【L3161】特別な教育的ニーズの理解と支援［山下　洋児］秋学期授業/Fall 36
教職関係科目【L3162】総合的な学習の時間の指導法［本山　明］春学期授業/Spring 37
教職関係科目【L3163】総合的な学習の時間の指導法［本山　明］秋学期授業/Fall 38
教職関係科目【L3136】教育実習（事前指導）［小嶋　常喜］秋学期授業/Fall 39
教職関係科目【L3137】教育実習（事前指導）［平塚　眞樹］秋学期授業/Fall 40
教職関係科目【L3135】教育実習（事前指導）［髙橋　繁］秋学期授業/Fall 41
教職関係科目【L3133】教育実習（事前指導）［御園生　純］秋学期授業/Fall 42
教職関係科目【L3139】教育実習（高）［平塚　眞樹］年間授業/Yearly 43
教職関係科目【L3128】教職実践演習（中・高）［小嶋　常喜］秋学期授業/Fall 44
教職関係科目【L3138】教育実習（中・高）［平塚　眞樹］年間授業/Yearly 45
教職関係科目【L3129】教職実践演習（中・高）［平塚　眞樹］秋学期授業/Fall 46
教職関係科目【L3125】教職実践演習（中・高）［御園生　純］秋学期授業/Fall 47

教職関係科目【L3127】教職実践演習（中・高）［髙橋　繁］秋学期授業/Fall 48
教職関係科目【K5275】日本史Ａ［岩橋　清美］春学期授業/Spring 49
教職関係科目【K5276】日本史Ｂ［岩橋　清美］秋学期授業/Fall 50
教職関係科目【K5277】世界史Ａ［阿曽　歩］春学期授業/Spring 51
教職関係科目【K5278】世界史Ｂ［阿曽　歩］秋学期授業/Fall 52
教職関係科目【K8005】人文地理学Ⅰ［濱田　博之］春学期授業/Spring 53
教職関係科目【K8006】人文地理学Ⅱ［濱田　博之］秋学期授業/Fall 54
教職関係科目【K8007】自然地理学Ⅰ［山川　信之］春学期授業/Spring 55
教職関係科目【K8008】自然地理学Ⅱ［山川　信之］秋学期授業/Fall 57
教職関係科目【K8009】地誌Ⅰ［近藤　章夫］春学期授業/Spring 59
教職関係科目【K8010】地誌Ⅱ［近藤　章夫］秋学期授業/Fall 60
教職関係科目【K5179】哲学Ａ［齋藤　範］春学期授業/Spring 61
教職関係科目【K5180】哲学Ｂ［齋藤　範］秋学期授業/Fall 62
教職関係科目【K5177】倫理学Ａ［齋藤　範］春学期授業/Spring 63
教職関係科目【K5178】倫理学Ｂ［齋藤　範］秋学期授業/Fall 64
教職関係科目【K8015】データベースと情報システム［坂本　憲昭］春学期授業/Spring 65
教職関係科目【K8016】情報メディアと画像処理［坂本　憲昭］秋学期授業/Fall 66
教職関係科目【K8017】情報と職業Ａ［坂本　憲昭］春学期授業/Spring 67
教職関係科目【K8018】情報と職業Ｂ［坂本　憲昭］秋学期授業/Fall 68
教職関係科目【L9007】国際法［妻木　伸之］秋学期授業/Fall 69
教職関係科目【L9010】国際政治論［白鳥　浩］春学期授業/Spring 70
資格関係科目【C6813】学校経営と学校図書館［松田　ユリ子］春学期授業/Spring 71
資格関係科目【C6814】学習指導と学校図書館［松田　ユリ子］春学期授業/Spring 72
資格関係科目【C6812】学校図書館メディアの構成［有山　裕美子］秋学期授業/Fall 73
資格関係科目【C6815】読書と豊かな人間性［有山　裕美子］秋学期授業/Fall 75
資格関係科目【C6816】情報メディアの活用［有山　裕美子］春学期授業/Spring 77
資格関係科目【L9003】社会教育概論Ⅰ／生涯学習論Ⅰ［栗山　究］春学期授業/Spring 79
資格関係科目【L9004】社会教育概論Ⅱ／生涯学習論Ⅱ［栗山　究］秋学期授業/Fall 80
資格関係科目【C6800】図書館情報学概論Ⅰ［山口　洋］春学期授業/Spring 81
資格関係科目【C6801】図書館情報学概論Ⅱ［竹之内　明子］秋学期授業/Fall 82
資格関係科目【C6802】図書館制度・経営論［山口　洋］秋学期授業/Fall 84
資格関係科目【C6803】図書館サービス概論［有山　裕美子］春学期授業/Spring 85
資格関係科目【C6804】児童サービス論［松田　ユリ子］春学期授業/Spring 87
資格関係科目【C6805】情報サービス論［竹之内　明子］春学期授業/Spring 88
資格関係科目【C6806】情報サービス演習［竹之内　禎］年間授業/Yearly 90
資格関係科目【C6807】図書館情報資源概論［山口　洋］春学期授業/Spring 92
資格関係科目【C6808】図書館情報資源特論［山口　洋］秋学期授業/Fall 93
資格関係科目【C6809】情報資源組織論［山口　洋］春学期授業/Spring 94
資格関係科目【C6810】情報資源組織演習［山口　洋］年間授業/Yearly 95
資格関係科目【C6811】図書館演習［山口　洋］年間授業/Yearly 97
資格関係科目【L3151】社会教育経営論［谷岡　重則］年間授業/Yearly 99
資格関係科目【L3152】社会教育総合演習（実習を含む）［谷岡　重則］年間授業/Yearly 100
資格関係科目【L3153】生涯学習支援論［栗山　究］年間授業/Yearly 101
資格関係科目【C6734】博物館概論［金山　喜昭］春学期授業/Spring 103
資格関係科目【C6737】博物館資料論［田中　裕二］秋学期授業/Fall 104
資格関係科目【L3155】視聴覚教育Ⅰ［原田　雅子］秋学期授業/Fall 105
資格関係科目【L3156】視聴覚教育Ⅱ［原田　雅子］秋学期授業/Fall 106
資格関係科目【L9013】グローバル社会のローカリティ／地域社会学［中筋　直哉］秋学期授業/Fall 107
資格関係科目【L9008】マス・コミュニケーション論［藤田　真文］春学期授業/Spring 108
資格関係科目【L9005】福祉社会学Ⅰ［平野　寛弥］春学期授業/Spring 109
資格関係科目【L9006】福祉社会学Ⅱ［平野　寛弥］秋学期授業/Fall 110
資格関係科目【C6735】博物館経営論［金山　喜昭］春学期授業/Spring 111
資格関係科目【C6736】博物館経営論［杉長　敬治］秋学期授業/Fall 112
資格関係科目【C6756】博物館資料保存論［今野　農］春学期授業/Spring 114
資格関係科目【C6757】博物館資料保存論［清水　玲子］秋学期授業/Fall 115
資格関係科目【C6759】博物館展示論［大山　裕］秋学期授業/Fall 116
資格関係科目【C6760】博物館展示論［松丸　裕之］春学期授業/Spring 117

資格関係科目【C6738】博物館教育論［渡邊　祐子］秋学期授業/Fall 118
資格関係科目【C6739】博物館教育論［山下　治子］秋学期授業/Fall 119
資格関係科目【C6763】博物館実習Ⅰ［田中　裕二］年間授業/Yearly 120
資格関係科目【C6764】博物館実習Ⅰ［金山　喜昭］年間授業/Yearly 121
資格関係科目【C6765】博物館実習Ⅱ［小西　雅徳］年間授業/Yearly 122
資格関係科目【C6766】博物館実習Ⅱ［杉山　享司］年間授業/Yearly 124
資格関係科目【C6767】博物館実習Ⅲ［金山　喜昭］年間授業/Yearly 126
資格関係科目【L9011】メディアと人間Ⅰ／比較文化論Ⅰ［李　舜志］春学期授業/Spring 128
資格関係科目【L9012】メディアと人間Ⅱ／比較文化論Ⅱ［李　舜志］秋学期授業/Fall 129
資格関係科目【L9014】表象文化論Ａ［髙橋　愛］春学期授業/Spring 130
資格関係科目【L9015】表象文化論Ｂ［濱中　春］秋学期授業/Fall 131
資格関係科目【A3857】美術史（日本）Ａ［稲本　万里子］春学期授業/Spring 132
資格関係科目【A3858】美術史（日本）Ｂ［稲本　万里子］秋学期授業/Fall 133
資格関係科目【A3853】美術史（西洋）Ａ［安藤　智子］春学期授業/Spring 134
資格関係科目【A3854】美術史（西洋）Ｂ［安藤　智子］秋学期授業/Fall 135
資格関係科目【A3855】考古学概論［古庄　浩明］春学期授業/Spring 136
資格関係科目【A3856】日本考古学［古庄　浩明］秋学期授業/Fall 137
資格関係科目【A3809】民俗学Ⅰ［室井　康成］春学期授業/Spring 138
資格関係科目【A3810】民俗学Ⅱ［室井　康成］秋学期授業/Fall 139

教職入門

西牧　たかね

配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教職（学校の仕事）をめぐる現状と課題、意義と役割を講師の体験や具体的事例を通して伝え、時にグループワークを加えて実践的に考察する。必要に応じて、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、コメントしたり質問に答える時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と 4 年間の学びのイメージ	教職を目指そうとする自分の原点を確認し、大学 4 年間の学びをイメージする。 授業の進め方と課題などの説明
第 2 回	教師という職業の特徴	教師という仕事の難しさとやりがいについて考察する。教師に求められる力（聞く力・観る力・話す力・学ぶ力・創る力・協力する力）について知る。
第 3 回	教職の歴史	第二次世界大戦後、社会の変化に伴い、学校教育に何が求められてきたのか、その変遷をたどり、その中で教師の役割がどのように変わってきたのかを振り返る。
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	自ら学び成長するために必要なこと、学び続けることの難しさ、教師としてのライフステージごとの課題、教師の研修の様々な在り方を学ぶ。
第 5 回	現代の学校と教師の資質・役割	現代の学校が抱える課題を知る。子どもの貧困と格差の広がりを例に、生徒理解を深めるために必要なことを考察する。
第 6 回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教師の権利と義務について、近年の学校に関する報道を通して考える。信頼される教師の姿とは何か、誇りを持って働き続けるために必要なことを学ぶ。
第 7 回	職務の全体像	学校の中で、教師がどのような役割を担っているのか、その全体像を知る。 学級経営・教科指導以外の分野について（分掌・行事担当・部活動など）を知る。
第 8 回	職務内容①：教科指導	２通りの授業を実施し、その授業を受けた立場から、以下の点について考えてみる。 「主体的・対話的な深い学び」の視点からの授業作り。協働的対話的に学ぶ授業を行うときに留意すべきこと。
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	生活・生徒指導とは何か。生活・生徒指導において何が大切なのか、いじめ・非行など具体的な問題を取り上げて考察する。
第 10 回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	進路指導・キャリア教育を行う上で大切な視点。 キャリア教育の全体計画。 「自分を知る」と「職業を知る」の２つのアプローチについて。働く人の話を聞く会と職場体験を企画してみる。
第 11 回	職務内容④：学級経営	学級経営とは何か、以下の視点から考察する。学級担任の仕事。１年間の見通し。新学期のスタート時にあたっての準備。学年内の担任同士の協力体制。
第 12 回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	「チームとしての学校」の在り方。 「チームとしての学校」が求められる背景。 多様な専門性を持つ職員との協力とは。
第 13 回	地域・家庭・多様な専門家との連携	地域にある連携すべき諸機関について知る。具体的なケースを想定して、多様な専門機関や専門家との連携方法について学ぶ。学校外の専門家や機関と連携する際の課題を考察する。
第 14 回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	これまでの授業を振り返り、改めてこれからの学びをイメージする。授業から何を学ぶことができたか、 自分の課題を知ることができたか、を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
次回の授業の内容に即して、事前のアンケートを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
灰谷健次郎『兎の眼』角川文庫、シリーズ子どもの貧困３『教える・学ぶ』（明石書店/2019）竹内常一・佐藤洋作　編著『教育と福祉の出会うところ』（山吹書店/2012）
志水宏吉『公立学校の底力』（筑摩書房/2008 年）稲垣忠彦『シリーズ授業』（岩波書店/1992 年）
学習指導要領、生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）　（PDF でダウンロード可能）
他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、４年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業への参加姿勢・授業への貢献・授業中に提示される課題（RP 用紙）： 70 %、レポート： 30 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
前任の講師からの引き継ぎとして、「グループワーク」の機会を増やすこと、今日的課題を取り入れることを継続する。教職を目指すという目的意識を持って主体的に取り組むと同時に、「グループワーク」を通して協働的に学ぶ姿勢を持って授業に参加することを期待します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the role of teachers, the job as teachers the qualities to be a teacher and so on to students taking this course. The goal of this course is to motivate students to aim to be a teacher.
【Learning Objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend more than one hour to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on following
Reaction paper:70%,Mid-term report:30%,and in-class contribution.

教職入門

西牧　たかね

配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教職（学校の仕事）をめぐる現状と課題、意義と役割を講師の体験や具体的事例を通して伝え、時にグループワークを加えて実践的に考察する。必要に応じて、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、コメントしたり質問に答える時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と４年間の学びのイメージ	教職を目指そうとする自分の原点を確認し、大学４年間の学びをイメージする。 授業の進め方と課題などの説明
第 2 回	教師という職業の特徴	教師という仕事の難しさとやりがいについて考察する。教師に求められる力（聞く力・観る力・話す力・学ぶ力・創る力・協力する力）について知る
第 3 回	教職の歴史	第二次世界大戦後、社会の変化に伴い、学校教育に何が求められてきたのか、その変遷をたどり、その中で、教師の役割がどのように変わってきたのかを振り返る。
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	自ら学び成長するために必要なこと、学び続けることの難しさ、教師としてのライフステージごとの課題、教師の研修の様々な在り方を学ぶ。
第 5 回	現代の学校と教師の資質・役割	現代の学校が抱える課題を知る。子どもの貧困と格差の広がりを例に、生徒理解を深めるために必要なことを考察する。
第 6 回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教師の権利と義務について、近年の学校に関する報道を通して考える。信頼される教師の姿とは何か、誇りを持って働き続けるために必要なことを学ぶ。
第 7 回	職務の全体像	学校の中で、教師がどのような役割を担っているのか、その全体像を知る。学級経営・教科指導以外の分野について（分掌・行事担当・部活動など）を知る。
第 8 回	職務内容①：教科指導	２通りの授業を実施し、その授業を受けた立場から、以下の点について考えてみる。「主体的・対話的な深い学び」の視点からの授業作り、協働的対話的に学ぶ授業を行うときに留意すべきこと。
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	生徒・生活指導とは何か。生徒・生活指導において何が大切なのか、いじめ・非行など具体的な問題を取り上げて考察する。
第 10 回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	進路指導・キャリア教育を行う上で大切な視点。キャリア教育の全体計画。「自分を知る」と「職業を知る」の２つのアプローチについて。働く人の話を聞く会と職場体験を企画してみる。
第 11 回	職務内容④：学級経営	学級経営とは何か、以下の視点から考察する。学級担任の仕事。１年間の見通し。新学期のスタート時にあたっての準備。学年内の担任同士の協力体制。
第 12 回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	「チームとしての学校」の在り方。 「チームとしての学校」が求められる背景。 多様な専門性を持つ職員との協力とは。
第 13 回	地域・家庭・多様な専門家との連携	地域にある連携すべき諸機関について知る。具体的なケースを想定して、多様な専門機関や専門家との連携方法について学ぶ。学校外の専門家や機関と連携する際の課題を考察する。
第 14 回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	これまでの授業を振り返り、改めてこれからの学びをイメージする。授業から何を学ぶことができたか、 自分の課題を知ることができたか、を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。次回の授業の内容に即して、事前のアンケートを実施することがあります。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
灰谷健次郎『兎の眼』角川文庫、シリーズ子どもの貧困３『教える・学ぶ』（明石書店/2019）竹内常一・佐藤洋作　編著『教育と福祉の出会うところ』（山吹書店/2012）
志水宏吉『公立学校の底力』（筑摩書房/2008 年）稲垣忠彦『シリーズ授業』（岩波書店/
1992 年）
学習指導要領、生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）　（PDF でダウンロード可能）
他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、４年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業への参加姿勢・授業への貢献・授業中に提示される課題（RP 用紙）： 70 %、レポート： 30 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
前任の講師からの引き継ぎとして、「グループワーク」の機会を増やすこと、今日的課題を取り入れることを継続する。教職を目指すという目的意識を持って主体的に取り組むと同時に、「グループワーク」を通して協働的に学ぶ姿勢を持って授業に参加することを期待します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the role of teachers, the job as teachers the qualities to be a teacher and so on to students taking this course. The goal of this course is to motivate students to aim to be a teacher.
【Learning Objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend more than one hour to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on following
Reaction paper:70%,Mid-term report:30%,and in-class contribution.

教育原理

御園生　純

配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育や学びの場面は学校の中に限られたものではありません。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していくことを通じて、「関係性の中で学ぶ」ということへの理解を深めていきたい。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することをねらいとしています。

【到達目標】
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学校・教育にかかわる時節的なテーマを取り上げ、それらについてのさまざまな主張や意見の紹介を骨子にした講義形式の授業スタイルです。　また、受講者からの意見もその都度メールなどを利用して集約し、授業中に紹介していきます。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を歴史・現在あわせて紹介し，そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していきます。その際，とりわけ近年注目されている学習理論や教育関係理論、また学校を取り巻く新しい課題「情報化・国際化・人権・環境」といった時節的なテーマを題材にし、それらの現象の理解を深めていきます。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することもねらいとします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育とはなにか？　その起源と学校～近代以前	学校の始まり～ヒマ人の集うところ？
2	教育とはなにか？　その起源と学校～近代以降	なぜ学校が必要だったのか？
3	人間の誕生の特質と発達観	子どもとはなにか？ おとなになるということ
4	発達の多様性と教育の課題	発達を保証するための教育の役割
5	教育思想の源流と現在（西洋）古代から中世～近代そして現代	子どもの発見
6	教育思想の源流と現在（日本）近世から近代そして現代	日本の教育の始まりと発展
7	発達の保障と共生の課題 (1)	発達保障論の系譜
8	発達の保障と共生の課題 (2)	発達保障と共生理論
9	学習理論の歴史と現段階—関係性のなかで学ぶ (1)	なぜ初歩から学ぶのか？
10	学習理論の歴史と現段階—関係性のなかで学ぶ (2)	分かち持たれる知性
11	教育関係論の過去と現在—おとなと子どもの関係論	おとなと子どもの境界線
12	教育関係論の過去と現在—発達段階と教育保障	発達論から関係論へ
13	学校教育の機能と役割を問う (1)	学校の相対化
14	学校教育の機能と役割を問う (2)	IT 技術と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにありません。授業中に配布するプリント類は重要かもしれませんが、プリントさえ手に入れば授業を受けなくても何とかなる、というものでもありません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業毎の課題　３０％
レポート　　７０％

【学生の意見等からの気づき】
双方向性を重視し、問題提起型の授業により受講者に考察可能な実際の学校で起こっている教育にかかわる諸問題の解決方法を討議の対象とする。また、講義と同期した twitter のハッシュタグ等を利用したリアルタイムポストなども実施していきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Educational and learning situations are not limited to schools. In this lecture, we will introduce learning opportunities in various situations that live in society, and by discussing the situation as a common subject among those who aim to become teachers, "learning in a relationship". I want to deepen my understanding of. It also aims to understand the concept of past educational theory through re-examining the schools and education that the students have experienced from various angles.
【Learning Objectives】
In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.
【Learning activities outside of classroom】
The prints distributed during class are important, but they cannot be understood by themselves. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Tasks for each lecture 30%
Report 70%

教育原理

御園生　純

配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育や学びの場面は学校の中に限られたものではありません。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していくことを通じて、「関係性の中で学ぶ」ということへの理解を深めていきたい。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することをねらいとしています。

【到達目標】
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学校・教育にかかわる時節的なテーマを取り上げ、それらについてのさまざまな主張や意見の紹介を骨子にした講義形式の授業スタイルです。　また、受講者からの意見もその都度メールなどを利用して集約し、授業中に紹介していきます。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を歴史・現在あわせて紹介し，そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していきます。その際，とりわけ近年注目されている学習理論や教育関係理論、また学校を取り巻く新しい課題「情報化・国際化・人権・環境」といった時節的なテーマを題材にし、それらの現象の理解を深めていきます。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することもねらいとします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育とはなにか？　その起源と学校～近代以前	学校の始まり～ヒマ人の集うところ？
2	教育とはなにか？　その起源と学校～近代以降	なぜ学校が必要だったのか？
3	人間の誕生の特質と発達観	子どもとはなにか？ おとなになるということ
4	発達の多様性と教育の課題	発達を保証するための教育の役割
5	教育思想の源流と現在（西洋）古代から中世～近代そして現代	子どもの発見
6	教育思想の源流と現在（日本）近世から近代そして現代	日本の教育の始まりと発展
7	発達の保障と共生の課題 (1)	発達保障論の系譜
8	発達の保障と共生の課題 (2)	発達保障と共生理論
9	学習理論の歴史と現段階—関係性のなかで学ぶ (1)	なぜ初歩から学ぶのか？
10	学習理論の歴史と現段階—関係性のなかで学ぶ (2)	分かち持たれる知性
11	教育関係論の過去と現在—おとなと子どもの関係論	おとなと子どもの境界線
12	教育関係論の過去と現在—発達段階と教育保障	発達論から関係論へ
13	学校教育の機能と役割を問う (1)	学校の相対化
14	学校教育の機能と役割を問う (2)	IT 技術と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにありません。授業中に配布するプリント類は重要かもしれませんが、プリントさえ手に入れば授業を受けなくても何とかなる、というものでもありません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業毎の課題　３０％
レポート　　７０％

【学生の意見等からの気づき】
双方向性を重視し、問題提起型の授業により受講者に考察可能な実際の学校で起こっている教育にかかわる諸問題の解決方法を討議の対象とする。また、講義と同期した twitter のハッシュタグ等を利用したリアルタイムポストなども実施していきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Educational and learning situations are not limited to schools. In this lecture, we will introduce learning opportunities in various situations that live in society, and by discussing the situation as a common subject among those who aim to become teachers, "learning in a relationship". I want to deepen my understanding of. It also aims to understand the concept of past educational theory through re-examining the schools and education that the students have experienced from various angles.
【Learning Objectives】
In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.
【Learning activities outside of classroom】
The prints distributed during class are important, but they cannot be understood by themselves. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Tasks for each lecture 30%
Report 70%

教育の制度・経営

平塚　眞樹

配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では原則として毎回のテーマに即して問いを投げかけ、受講生に考え、時に論じ合い、ロールプレイなどを行い、コメントを書いてもらうなど、できるだけアクティブな学びに取り組む。その後、出された声に可能な形で応答しながら、講義を進める。毎回の授業後にリアクションを提出いただき、次回にその概要を紹介しフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	いま学校の何が問われているのか、考える
第 2 回	子どもの人権と学校	学校・教育制度における子どもの位置を考える
第 3 回	憲法・教育基本法	日本の教育は法にどのように記されているのか、オンライン教材にもとづき学ぶ
第 4 回	教育行政のしくみ	学校・教育の仕組みを誰がどのように決めるのか考える
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育の中身を誰がどのように決めるのか考える
第 6 回	教育財政制度と無償化	教育にかかる費用を誰がどのように負担するのか考える
第 7 回	世界の教育改革	世界はいま教育の何を変えようとしているのか、様々なオンライン情報も交えて学ぶ
第 8 回	学校組織の法としくみ	学校はどのように規律されているのか学ぶ
第 9 回	学級経営	様々な視点で、どのようにしてクラスという場がつくられるのか考える
第 10 回	「チームとしての学校」	学校という場に必要なチームワークとはなにか考える
第 11 回	学校と教員の評価	学校と教師を誰がどう評価するのか
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校が危機に直面したとき誰が何をするのか。オンラインによるグループワークを試み、考える
第 13 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校という場を開く価値とジレンマについて考える
第 14 回	教員の成長と同僚性	これまでの授業を踏まえてまとめのレポートを書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
決まったテキスト（教科書）は特に使用しない。

【参考書】
勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学 (改訂新版)』学文社
小川正人・勝野正章『改定版　教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、客観的知識やデータの裏付けをもって自らの知見について論述できるか評価する。授業後に提出を求めるコメント（40 %程度）、期末レポート (60 %程度) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業後に提出を求めている google フォームによるリアクション・コメントは、毎回、多様でかつ示唆的な内容が多く、授業内容の深化・豊富化に大いに役だっており、またどのような説明が伝わりやすく、伝わりにくいか、教員がふりかえる重要な手立てにもなっており、とてもありがたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム、google 共有フォルダを利用する。オンライン形式で授業・学習を実施する回があるため情報機器を必要とする。

【Outline (in English)】
Course outline : The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance.
The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community,
It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.
Learning Objectives ： Students will be required to understand the fundamental knowledges not only on the education laws and institutions in Japan public education system, but also on the school organizations and managements including both the school and community collaborations,and the safeties and risk managements.
Learning activities outside of classroom : Your required study time is at least 2 hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policy : Students will be evaluated not only on their understanding of basic knowledge, but also on their ability to discuss their own findings with objective knowledge and data evidence. Evaluation will be made on the basis of in-class comment papers (approx. 40%) and the final report (approx. 60%).

教育の制度・経営

平塚　眞樹

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では原則として毎回のテーマに即して問いを投げかけ、受講生に考え、時に論じ合い、ロールプレイなどを行い、コメントを書いてもらうなど、できるだけアクティブな学びに取り組む。その後、出された声に可能な形で応答しながら、講義を進める。毎回の授業後にリアクションを提出いただき、次回にその概要を紹介しフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	いま学校の何が問われているのか、考える
第 2 回	子どもの人権と学校	学校・教育制度における子どもの位置を考える
第 3 回	憲法・教育基本法	日本の教育は法にどのように記されているのか、オンライン教材にもとづき学ぶ
第 4 回	教育行政のしくみ	学校・教育の仕組みを誰がどのように決めるのか考える
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育の中身を誰がどのように決めるのか考える
第 6 回	教育財政制度と無償化	教育にかかる費用を誰がどのように負担するのか考える
第 7 回	世界の教育改革	世界はいま教育の何を変えようとしているのか、様々なオンライン情報も交えて学ぶ
第 8 回	学校組織の法としくみ	学校はどのように規律されているのか学ぶ
第 9 回	学級経営	様々な視点で、どのようにしてクラスという場がつくられるのか考える
第 10 回	「チームとしての学校」	学校という場に必要なチームワークとはなにか考える
第 11 回	学校と教員の評価	学校と教師を誰がどう評価するのか
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校が危機に直面したとき誰が何をするのか。オンラインによるグループワークを試み、考える
第 13 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校という場を開く価値とジレンマについて考える
第 14 回	教員の成長と同僚性	これまでの授業を踏まえてまとめのレポートを書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
決まったテキスト（教科書）は特に使用しない。

【参考書】
勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学 (改訂新版)』学文社
小川正人・勝野正章『改定版　教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、客観的知識やデータの裏付けをもって自らの知見について論述できるか評価する。授業後に提出を求めるコメント（40 %程度）、期末レポート (60 %程度) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業後に提出を求めている google フォームによるリアクション・コメントは、毎回、多様でかつ示唆的な内容が多く、授業内容の深化・豊富化に大いに役だっており、またどのような説明が伝わりやすく、伝わりにくいか、教員がふりかえる重要な手立てにもなっており、とてもありがたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム、google 共有フォルダを利用する。オンライン形式で授業・学習を実施する回があるため情報機器を必要とする。

【Outline (in English)】
Course outline : The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance.
The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community,
It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.
Learning Objectives ： Students will be required to understand the fundamental knowledges not only on the education laws and institutions in Japan public education system, but also on the school organizations and managements including both the school and community collaborations,and the safeties and risk managements.
Learning activities outside of classroom : Your required study time is at least 2 hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policy : Students will be evaluated not only on their understanding of basic knowledge, but also on their ability to discuss their own findings with objective knowledge and data evidence. Evaluation will be made on the basis of in-class comment papers (approx. 40%) and the final report (approx. 60%).

発達・教育の理論Ⅰ

山下　大厚

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の歴史と思想、および人間発達の理論の形成と展開について学ぶ。

【到達目標】
主要な教育哲学、発達論の思潮のあらましをつかみ、教育実践における重要性を理解する。近代の教育制度の特質を理解し、歴史の中で子どもたちの処遇はどう変化し、今またどうあるべきなのか、考える手立てを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストなどに対する講評、解説は採点後、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと受講上の注意	education の語源と「発達」／教育を受ける権利 と 子どもの権利条約
第 2 回	人間の発達とは何か	人類史と霊長類研究における人の発達
第 3 回	子ども（観）の歴史	前近代の産育／ルソーの「子どもの発見」とアリエスの「子どもの誕生」
第 4 回	児童中心主義の展開	ペスタロッチ/オーエン/フレーベル/エレン・ケイ/モンテッソーリ
第 5 回	近代公教育の展開	国民国家と義務教育/ヘルバルト派と新教育
第 6 回	近世, 近代日本の教育思想	世阿弥/貝原益軒/福沢諭吉/森有礼
第 7 回	進歩主義教育の展開	デュルケーム/デューイ/ラッセル
第 8 回	戦中・戦後の教育と人間観	戦時下の教育/戦後教育改革/高度経済成長と人的能力開発
第 9 回	発達の科学のはじまり	ダーウィン/ビネー/ワトソン/ゲゼル
第 10 回	発達の諸理論（1）	ピアジェ/ヴィゴツキー/ブルーナー
第 11 回	発達の諸理論（2）	バンデューラ/ボウルビィ/クライン
第 12 回	発達の諸理論（3）	M. ミード/A. フロイト/エリクソン
第 13 回	近代学校教育への批判	再生産、脱学校、フリースクールほか
第 14 回	教育における今日的課題	神経科学時代の子どもと教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。講義スライド、参考資料、参考文献を活用した準備・復習により理解を深めること。また、普段から子ども・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】
上笙一郎ほか編, 1977,『日本子どもの歴史１〜７』第一法規. ジョージ・バターワース, ハリス・マーガレット, 1997,『発達心理学の基本を学ぶ：人間発達の生物学的・文化的基盤』ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
評価の方法とウェイト：中間レポート (50%) と期末テスト (50%)、およびリアクションペーパーなどによる授業への貢献を加味する。
評価の基準：中間レポートは、出題されたテーマを適切に理解し、調べたことだけでなく、自らの考察・思惟が述べられているか評価する。期末テストは、学習内容の理解・修得度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は受講生の要望を受け、オンデマンドにも対応したが、録画を見た人はほとんどいないようであった。今年度は対面授業となり（ハイフレックス／オンデマンド対応は未定）講義毎にいただいた質問や感想にも答えていくので、感染対策に留意しつつ多くの方が出席することを期待する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には連絡の取れるメールアドレスを必ず登録すること。

【その他の重要事項】
質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。なお、この科目は発達・教育の理論Ⅱと併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
〔Course Outline〕
This course introduces the modern/premodern history of education, philosophy of education, and developmental theories to students taking this course.
〔Learning Objectives〕
By the end of the course, students should be able to do the followings:
・Understand the significance of educational and developmental theories in the practices,
・Outline the trend of philosophy of education and developmental theories,
・Compare and contrast the modern educational system and others.
〔Learning activities outside of classroom〕
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, reference material, and reference books.
〔Grading Criteria〕
Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (50%), term-end examination (50%), and a fraction of in-class contribution.

発達・教育の理論Ⅱ

山下　大厚

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新たな学習・学力、地域との連携、危機管理、多様性の包摂など「改革」が学校教育に求められる背景と課題、公教育を支える教育行政、学校経営、教員の役割に生じた新たな課題などについて理解する。

【到達目標】
社会の変化と課題、あるいはまた地域に対して「開かれた学校」であることが求められ、その対応が、学校の社会的・制度的・経営的課題となっている。「開かれた学校」づくりの意味と課題、問題点について理解を深める。憲法、教育基本法の教育を受ける権利について理解し、説明することができる。子ども・若者をめぐる諸問題と、社会や大人の役割について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストなどに対する講評、解説は採点後、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと受講上の注意	公教育を取り巻く現代的課題と「改革」を迫られる学校
第 2 回	公教育制度の基盤	公教育の原理と理念、教育法体系
第 3 回	公教育制度の行政と組織	教育行政機構及び学校組織と教員組織
第 4 回	学力とカリキュラム行政	「新しい学力」と教育課程行政
第 5 回	教育機会の保障と基盤	改正教育基本法と教育財政
第 6 回	教職員の働き方改革	改革のポイントと問題点
第 7 回	学校のガバナンス	学校経営とアカウンタビリティ
第 8 回	地域と連携協働する学校	コミュニティスクールの目的と課題
第 9 回	学級制度と学級経営	担任の職務と学級経営の課題
第 10 回	危機管理と安全教育	事故災害, いじめ, ハラスメントの対応
第 11 回	多様性の包摂と機会保障	不登校、LGBT、外国籍などへの対応
第 12 回	インクルーシブ教育	特別の支援や配慮が必要な子どもたち
第 13 回	非行少年の社会的包摂	自立支援、更生を支える仕組みと課題
第 14 回	学習指導要領の変遷	昭和と平成の教育は何を求めてきたか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。講義スライド、参考資料、参考文献を活用した準備・復習により理解を深めること。また、普段から子ども・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】
中学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領 (最新版 文部科学省) ／佐藤晴雄,2017,『コミュニティ-・スクールの成果と展望:スクール・ガバナンスとソーシャル・キャピタルとしての役割』ミネルヴァ書房／グループ・ディダクティカ編,2012,『教師になること、教師であり続けること―困難の中の希望―』勁草書房／田中正博, 佐藤晴雄,2013,『教育のリスクマネジメント―子ども・学校を危機から守るために』時事通信出版局

【成績評価の方法と基準】
評価の方法とウェイト：中間レポート (50%) と期末テスト (50%)、およびリアクションペーパーなどによる授業への貢献を加味する。
評価の基準：中間レポートは、出題されたテーマを適切に理解し、調べたことだけでなく、自らの考察・思惟が述べられているか評価する。期末テストは、学習内容の理解・修得度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は受講生の要望を受け、オンデマンドにも対応したが、録画を見た人はほとんどいないようであった。今年度は対面授業となり（ハイフレックス／オンデマンド対応は未定）講義毎にいただいた質問や感想にも答えていくので、感染対策に留意しつつ多くの方が出席することを期待する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には連絡の取れるメールアドレスを必ず登録すること。

【その他の重要事項】
質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。この授業は、発達・教育の理論Ⅰと併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
〔Course Outline〕
This course introduces the education reform in present-day Japan and the discussion of its social background and problems to students taking this course.
〔Learning Objectives〕
By the end of the course, students should be able to do the followings:
・Understand and explain the Right to Education of the Constitution of Japan and Basic Act on Education,
・Outline the educational problem and reform trend in present-day Japan,
・Discuss the problems of children and youth, and the role of adults and society.
〔Learning activities outside of classroom〕
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, reference material, and reference books.
〔Grading Criteria〕
Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (50%), term-end examination (50%), and a fraction of in-class contribution.

教育心理学

安齊　順子

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストとパソコンを利用した講義、資料の配布等で実施する。
基本的には対面で実施するが、授業形態は感染症の流行状態により変化する可能性がある。
方向性は大学に準ずる。変更等は掲示やホッピー等で知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「使える」教育心理学　服部環、安齊順子他著　北樹出版

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原　雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版　会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回プリントを配布して、やりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline (in English)】
The　goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Learning Objectives
The students are supposed to gain familiarity with psychological knowledge and application to education.
Learning activities outside of the classroom
To enhance effective learning, students are encouraged to spend approximately 100 minutes preparing for class and another 100 minutes reviewing class content afterward (including assignments) for each class.
They should do so by referring to textbooks and other course material.
Grading Criteria /Policy
The Final examination counts for 70%. In-class participation accounts for 30%.

教育心理学

安齊　順子

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストとパソコンを利用した講義や資料の配布を中心として対面で行う。基本的には対面授業を行うが、授業形態は感染症の流行状態により、変化する可能性がある。方向性は大学の方針に準ずる。変更等は掲示、ホッピー等で知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「使える」教育心理学　服部環、安齊順子他著　北樹出版

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原　雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版　会沢信彦・安齊順子編著

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline (in English)】
The　goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Learning Objectives
The students are supposed to gain familiarity with psychological knowledge and application to education.
Learning activities outside of the classroom
To enhance effective learning, students are encouraged to spend approximately 100 minutes preparing for class and another 100 minutes reviewing class content afterward (including assignments) for each class.
They should do so by referring to textbooks and other course material.
Grading Criteria /Policy
The Final examination counts for 70%. In-class participation accounts for 30%.

教育相談

遠藤　裕子

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切にした授業を行います。講義の他、文献講読、グループセッション、授業内での発表などを取り入れて、主体的に学ぶことができるようにします。
オンデマンド教材の提供を行います。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
1.【教育相談の意義及び理論】(第 1 回～第 4 回)
・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
2.【教育相談の方法】（第 5 回～第 6 回）
・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
3.【教育相談の展開】（第 7 回～第 14 回）
・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 3 回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 4 回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第 5 回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第 6 回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第 7 回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 11 回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第 13 回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に文献を読む、また授業中に取り組んだワークシートを用いて復習する必要が生じる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、必要に応じて、文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】
「教育相談の理論と方法」　会沢信彦編著　北樹出版
文部科学省　『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
毎時間のリアクションペーパーや課題 (80%)、最終レポート (20%) を総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】
学生のリアクションペーパーに、さまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気で授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】
授業者は、小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、関連して、本授業では事例的トピックも取り上げ、可能な限り具体的な対応についても検討します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling
Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.
Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.

教育相談

遠藤　裕子

配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切にした授業を行います。講義の他、文献講読、グループセッション、授業内での発表などを取り入れて、主体的に学ぶことができるようにします。
オンデマンド教材の提供を行います。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
1.【教育相談の意義及び理論】(第 1 回～第 4 回)
・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
2.【教育相談の方法】（第 5 回～第 6 回）
・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
3.【教育相談の展開】（第 7 回～第 14 回）
・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 3 回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 4 回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第 5 回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第 6 回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第 7 回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 11 回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第 13 回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に文献を読む、また授業中に取り組んだワークシートを用いて復習する必要が生じる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、必要に応じて、文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】
「教育相談の理論と方法」　会沢信彦編著　北樹出版
文部科学省　『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
毎時間のリアクションペーパーや課題 (80%)、最終レポート (20%) を総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】
学生のリアクションペーパーに、さまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気で授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】
授業者は、小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、関連して、本授業では事例的トピックも取り上げ、可能な限り具体的な対応についても検討します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling
Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.
Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.

生徒・進路指導論

谷川　由佳

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式となる。授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。
授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とガイダンス	授業の概要，成績評価等についての説明 学校体験を振り返る（これまで受けた生徒指導と進路指導）
2	生徒指導の意義と役割	教育課程における生徒指導の位置付け
3	生徒指導の方法	生徒指導の基本的な考え方，方法
4	生徒指導における集団指導	生活集団と学習集団
5	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導における今日的課題と期待される実践
6	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	「不登校」の現在と生徒指導の考え方
7	生徒指導における個別指導（暴力行為，いじめ等への対処）	いじめの問題にどう取り組むのか
8	進路指導の意義と役割	進路指導の基本的な考え方
9	進路指導の歴史と方法	進路指導の歴史的変遷，方法
10	キャリア教育の意義と役割	学校間接続・学校から仕事への移行とキャリア教育
11	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	現代の若者の進学と労働のあり方を踏まえた進路指導・キャリア教育
12	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	キャリア・カウンセリングの意義と内容
13	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	進路指導・キャリア教育における今日的課題と期待される実践
14	集団指導の組織的な推進体制	生徒・進路指導と学校外の機関との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業時にレジュメや資料を配布する。

【参考書】
折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』学文社，2014 年
林尚示・伊藤秀樹編『生徒指導・進路指導 第 2 版:理論と方法』学文社，2018 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
提出物（中間レポートを予定）40 %，期末レポート 60%で，総合的に判断して成績評価を行う。
成績評価の詳細は，初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
授業リアクションペーパーのフィードバックがあることで授業理解が深まるという意見が多いため，今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業では Zoom を利用する。
また、課題提出には学習支援システムを利用する場合がある。
そのため，パソコン等の機器が利用できることが望ましい。

【その他の重要事項】
授業時にリアクションペーパーの提出を求める。また，その内容は匿名化したうえで授業内で紹介することがある。

【Outline (in English)】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.
【Learning Objectives】
The purpose of this class is to understand the theory and method of student
guidance and career guidance including basic matters of career education.
【Methods】
This course will be mostly lectures.
The feedback for the reaction paper will be done in every lecture.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Textbook】
No textbook will be used.
Handouts and reading materials will be provided by lecturer.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term report ： 40 %、Term-end report: 60%

生徒・進路指導論

谷川　由佳

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式となる。授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。
授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とガイダンス	授業の概要，成績評価等についての説明 学校体験を振り返る（これまで受けた生徒指導と進路指導）
2	生徒指導の意義と役割	教育課程における生徒指導の位置付け
3	生徒指導の方法	生徒指導の基本的な考え方，方法
4	生徒指導における集団指導	生活集団と学習集団
5	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導における今日的課題と期待される実践
6	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	「不登校」の現在と生徒指導の考え方
7	生徒指導における個別指導（暴力行為，いじめ等への対処）	いじめの問題にどう取り組むのか
8	進路指導の意義と役割	進路指導の基本的な考え方
9	進路指導の歴史と方法	進路指導の歴史的変遷，方法
10	キャリア教育の意義と役割	学校間接続・学校から仕事への移行とキャリア教育
11	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	現代の若者の進学と労働のあり方を踏まえた進路指導・キャリア教育
12	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	キャリア・カウンセリングの意義と内容
13	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	進路指導・キャリア教育における今日的課題と期待される実践
14	集団指導の組織的な推進体制	生徒・進路指導と学校外の機関との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業時にレジュメや資料を配布する。

【参考書】
折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』学文社，2014 年
林尚示・伊藤秀樹編『生徒指導・進路指導 第 2 版:理論と方法』学文社，2018 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
提出物（中間レポートを予定）40 %，期末レポート 60%で，総合的に判断して成績評価を行う。
成績評価の詳細は，初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
授業リアクションペーパーのフィードバックがあることで授業理解が深まるという意見が多いため，今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業では Zoom を利用する。
また、課題提出には学習支援システムを利用する場合がある。
そのため，パソコン等の機器が利用できることが望ましい。

【その他の重要事項】
授業時にリアクションペーパーの提出を求める。また，その内容は匿名化したうえで授業内で紹介することがある。

【Outline (in English)】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.
【Learning Objectives】
The purpose of this class is to understand the theory and method of student
guidance and career guidance including basic matters of career education.
【Methods】
This course will be mostly lectures.
The feedback for the reaction paper will be done in every lecture.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Textbook】
No textbook will be used.
Handouts and reading materials will be provided by lecturer.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term report ： 40 %、Term-end report: 60%

社会・地歴科教育法（1）

本山　明

サブタイトル：**社会・地歴科教育法**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学びます。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身につけます。ITC 機器の活用を学ぶ。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は主に社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、秋学期は具体的な授業テーマ（歴史が軸になります）をとりあげ、教科書と学習方法などを具体的に学びます。授業は ICT 教育を配慮し、講義と討議、模擬授業、学生による発表です。状況により授業形態・計画の変更もあります。提出物・レポート・試験などについては適宜授業で講評・解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の授業予定の確認	1 年間の授業計画の提示やアンケート、現在の社会と教育の問題をとりあげる。
第 2 回	社会・地歴科とは何か	社会・地歴科教育の現状と課題をとりあげる。
第 3 回	社会科前史	近代教育の出発と国定教科書をとりあげる。
第 4 回	戦争と教科書	戦争と教育とのつながりを考える。
第 5 回	敗戦と教育	敗戦がもたらしたものと戦後教育の出発点を考える。
第 6 回	社会科の成立	教育改革と社会科、学習指導要領の成立を考える。
第 7 回	戦後の社会科	日本の教育、社会科の変化を冷戦という視点から考える。
第 8 回	社会科のあゆみ	学習指導要領の変遷と教科書の変化をとりあげる。
第 9 回	教科書問題	「うれうべき教科書の問題」などを社会の変化から考える。
第 10 回	教科書裁判	家永教科書裁判と検定の問題をとりあげる。
第 11 回	社会科の課題	80 年代以降の社会科につながる問題をとりあげる。
第 12 回	地歴科の課題	今日につながる歴史認識にかかわる問題をとりあげる。
第 13 回	授業案の作成 ITC 機器の活用を学ぶ。	歴史の授業をどうつくっていくのか模擬授業も含め考える。ITC 機器の活用事例を学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめとテストの実施	春学期のまとめと確認テストをおこない、夏季課題の説明をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められます。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてください。日本や世界で今おこっている様々なことを説明できますか。鋭い歴史認識・現代認識を身につけてください。授業中に紹介した文献も読んでみましょう。本を読むことは教員の仕事の一つともいえます。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。授業中の文献を紹介、プリントを配布します。

【参考書】
学習指導要領や中高の教科書は研究・検討の対象になります。

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。
毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

平常点・授業内レポート　50 %
最終レポート　50 %

【学生の意見等からの気づき】
実践的な役に立つ授業を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがあります。

【授業中に求められる学習活動】
毎授業時の講義は教員と学生との双方の対話が大切であるので、積極的な授業参加を期待します。

【授業中に求められる学習活動】
授業時の視聴覚学習やレポートには意欲的にとりくむ姿勢が求められます。

【Outline (in English)】
(Course outline)
While studying the history of social studies and understanding the goals and contents of the course of study,
Learn the basics of teaching materials, learning methods and evaluation methods in the field of history. In addition, studies
We created a training instruction plan and implemented simulated lessons (Learning Objectives)
In addition to thinking and understanding the goals and contents of the curriculum guidelines in the fields of geography and history in junior high school and high school, you will acquire the knowledge, qualities, and abilities necessary for subject guidance and lesson design.
The goals of this course are to A, B, and C.
(Learning activities outside of classroom)
Teachers of social studies and geography are required to have a wealth of knowledge and familiarity with various information. Be interested in what's happening in the world every day and try to read, read newspapers, watch TV news, and more. Can you explain the various things that are happening in Japan and around the world? Please acquire a keen historical awareness and modern awareness. Let's also read the literature introduced during the class. Reading a book is one of the jobs of a teacher. If the reports and summer assignments you submit each time are inadequate, you may be asked to resubmit. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on the attitude of participation in the lesson (10%), impressions submitted every hour, learning guidance plan, mock lesson (30%), and examination (60%). It may change depending on the class format.

社会・地歴科教育法（2）

本山　明

サブタイトル：**社会・地歴科教育法**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学びます。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身につけます。ITC 機器の活用を学ぶ。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は主に社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、秋学期は具体的な授業テーマ（歴史が軸になります）をとりあげ、教科書と学習方法などを具体的に学びます。授業は ICT 教育を配慮し、講義と質疑、模擬授業、学生による発表です。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の授業予定の確認	後期授業の進め方についてのオリエンテーションをおこなう。
第 2 回	現代をどうとらえるか	社会・地歴科の授業につながる現在の世界と日本の出来事について考える。
第 3 回	学習指導案と授業	夏季課題の授業案と模擬授業を含め授業の検討を行なう。
第 4 回	授業研究　その 1 日本とアジア	指導案の実例と検討を アジアからの視点でおこなう。
第 5 回	授業研究　その 2 アジアと世界	指導案の実例と検討を アジアと世界の視点でおこなう。
第 6 回	授業研究　その 3 民族問題	指導案の実例と検討を 民族という視点からおこなう。
第 7 回	授業研究　その 4 植民地支配	指導案の実例と検討を 植民地支配をあげて世界と日本からおこなう。
第 8 回	授業研究　その 5 第一次世界大戦	指導案の事例と検討を 帝国主義という視点から考える。
第 9 回	授業研究　その 6 民族運動	指導案の実例と検討を アジアの民族運動という視点からおこなう。
第 10 回	授業研究　その 7 ファシズムの問題	指導案の実例と検討を現代的・政治的な視点からおこなう。
第 11 回	授業研究　その 8 第二次世界大戦	指導案の実例と検討を戦争の加害と被害という視点からおこなう。
第 12 回	実践授業研究　その 1 戦後史の模擬授業 ITC 機器の活用を学ぶ。	指導案と模擬授業の検討を日本の敗戦と戦後の出発点から考える。
第 13 回	実践授業研究　その 2 現代世界の模擬授業 ITC 機器の活用を学ぶ。	指導案と模擬授業の検討を現在世界でおこっている出来事から考える。
第 14 回	秋学期のまとめ	授業のふりかえりと確認テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められます。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてください。日本や世界で今おこっている様々なことを説明できますか。鋭い歴史認識・現代認識を身につけてください。授業中に紹介した文献も読んでみましょう。本を読むことは教員の仕事の一つともいえます。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中の文献を紹介、プリントを配布します。テキストは特に指定しません。

【参考書】
学習指導要領や中高の教科書は研究・検討の対象になります。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢（10 %）、毎時間提出の感想・レポート・学習指導案の提出（30 %）、試験（60 %）を総合的に勘案して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実践的な役に立つ授業を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがあります。

【授業中に求められる学習活動】
毎授業時の講義は教員と学生との双方の対話が大切であるので、積極的な授業参加を期待します。

【授業中に求められる学習活動】
授業時の視聴覚学習やレポートには意欲的にとりくむ姿勢が求められます。

【Outline (in English)】
(Course outline)
While studying the history of social studies and understanding the goals and contents of the course of study,
Learn the basics of teaching materials, learning methods and evaluation methods in the field of history. In addition, studies
We created a training instruction plan and implemented simulated lessons
Through returning to learn perspective of improving classes.
(Learning Objectives)
In addition to thinking and understanding the goals and contents of the curriculum guidelines in the fields of geography and history in junior high school and high school, you will acquire the knowledge, qualities, and abilities necessary for subject guidance and lesson design.
The goals of this course are to A, B, and C.
(Learning activities outside of classroom)
Teachers of social studies and geography are required to have a wealth of knowledge and familiarity with various information. Be interested in what's happening in the world every day and try to read, read newspapers, watch TV news, and more. Can you explain the various things that are happening in Japan and around the world? Please acquire a keen historical awareness and modern awareness. Let's also read the literature introduced during the class. Reading a book is one of the jobs of a teacher. If the reports and summer assignments you submit each time are inadequate, you may be asked to resubmit. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on the attitude of participation in the lesson (10%), impressions submitted every hour, learning guidance plan, mock lesson (30%), and examination (60%). It may change depending on the class format.

社会・公民科教育法（1）

松山　尚寿

サブタイトル：**社会・公民科教育法**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについ ての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行 う。 社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについ ての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬 授業の実施と振り返りなどを行う。また情報通信技術（ICT）を活用するスキルを身につける。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏 まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科教育の歴史と現状をまずおさえ、問題点と課題をさぐり、実践的な内容と方法の検討へと進 めていく予定です。授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフ ィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	公民科と教師の力量形成
2	公民教育の意義と役割	公民的資質とは何か
3	公民教育の歴史	学習指導要領の変遷
4	学習指導要領と公民科	社会科、地理歴史科、公民科の全体構造
5	公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討 (1)	中学校公民的分野
7	実践事例の検討 (2)	高等学校公民科
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材研究・教材開発の視点・方法	教材とは
10	学習指導の工夫	情報機器及び教材の効果的な活用
11	学習指導の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討 (1)	中学校公民的分野
13	学習指導案の検討 (2)	高等学校公民科
14	前期のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。次の授業への課題を時々出します。その課題にはしっかりと取り組んでください。また、社会科教 師をめざす学生として、日常的に世界と日本の動向・問題点・課題に関心をもち、報道や論説に注 目するようにしてほしいと思います。世の中の重要な問題について、関心や自分の意見がないよう では困ります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは指定せず、教材プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
文部科学省「中学校、高等学校学習指導要領　社会、公民」（最新版）
大月書店「未来の市民を育む『公共』の授業」杉浦真理他編

【成績評価の方法と基準】
平常点（25 %）、宿題・予習課題（40 %）、夏期・冬期のレポート課題（35 %）によって総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生の問題関心に配慮しながら、少しずつ要求水準を引き上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用します。また Google のアプリ「Classroom」を授業で活用します。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【授業中に求められる学習活動】
None.

【Outline (in English)】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

社会・公民科教育法（2）

松山　尚寿

サブタイトル：**社会・公民科教育法**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについ ての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。 社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについ ての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。また情報通信技術（ICT）のスキルを身につける。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科教育の歴史と現状をまずおさえ、問題点と課題をさぐり、実践的な内容と方法の検討へと進めていく予定です。授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
2	実践研究	中学校公民的分野 グループによる提案と質疑
3	実践研究	高等学校「公民」 グループによる提案と質疑
4	実践研究	高等学校「倫理」 グループによる提案と質疑
5	実践研究	高等学校「政治・経済」 グループによる提案と質疑
6	模擬授業	中学校公民的分野 現代社会を捉える視点
7	模擬授業	中学校公民的分野 社会にみられる課題の解決
8	模擬授業	高等学校「公共」 人間と社会のあり方
9	模擬授業	高等学校「公共」 公共的な空間に見られる課題の解決
10	模擬授業	高等学校「倫理」 人間としてのあり方生き方
11	模擬授業	高等学校「倫理」 現代の倫理的諸課題の解決
12	模擬授業	高等学校「政治・経済」 社会のあり方
13	模擬授業	高等学校「政治・経済」 社会に見られる課題の解決
14	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
次の授業への課題を時々出します。その課題にはしっかりと取り組んでください。また、社会科教 師をめざす学生として、日常的に世界と日本の動向・問題点・課題に関心をもち、報道や論説に注 目するようにしてほしいと思います。世の中の重要な問題について、関心や自分の意見がないようでは困ります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは指定せず、教材プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
文部科学省「中学校、高等学校学習指導要領　社会、公民」（最新版）
大月書店「未来の市民を育む『公共』の授業」杉浦真理他編

【成績評価の方法と基準】
平常点（25 %）、宿題・予習課題（40 %）、夏期・冬期のレポート課題（35 %）によって総合評 価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生の問題関心に配慮しながら、少しずつ要求水準を引き上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用します。また Google のアプリ「Classroom」を活用して授業を行います。

【その他の重要事項】
秋学期の授業は春学期の履修を前提に進めるので、春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【授業中に求められる学習活動】
None.

【Outline (in English)】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

情報科教育法Ⅰ

御園生　純

サブタイトル：**情報科教育法**
配当年次／単位：**2～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報及び情報通信技術（ICT）を活用するための知識と技能を習得し，情報に関する科学的な見方や考え方や情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度である「情報活用能力」を養うための授業運営の理論および実践方法の習得を目指す。

【到達目標】
・教科「情報」設置の理念と社会的背景・高等学校全体の教育課程における位置づけを学ぶ。
・共通教科「情報」と専門教科「情報」の違い、および共通教科「情報」と他教科との関連等について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。秋学期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。
　また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、情報倫理（他者の作成した情報を活用する際のルール等）などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教科情報設置の経緯とその精神について	なぜ教科「情報」が設けられたのか、その背景と社会的状況について理解する。
2	ディスカッション：高校時代に受けた教科「情報」とはどんな授業だったか？	高校での情報の授業がその後の社会生活でどのように機能しているのかについて
3	普通科目「情報」と専門科目「情報」比較	他科目・高等学校の教育課程全体との関係の構造的理解
4	普通教科情報の３つの観点と授業内容～情報活用能力とは	何を教えるのか？ そのためにどんな知識・技能が必要なのか？
5	問題解決と課題解決の授業の観念的・理論的理解	問題解決の理論と論理的思考について
6	情報通信技術 (ICT) の理論と活用①	ネットワーク通信を利用した情報や知識の共有について
7	情報通信技術 (ICT) の理論と活用②	スマートフォンや IoT を利用した情報の伝達、共有が行える環境について
8	「情報の科学」の授業例～情報 A・B との相違点を中心に	学習指導要領改訂の目的の理解と情報テクノロジーの変遷について
9	「情報 A」「情報Ｃ」から「社会と情報」への変更点	「情報の科学」「社会と情報」の各々の到達点と授業運営についての理解
10	「社会と情報」の内容と指導計画の概要	授業内容の理解と把握
11	「社会と情報」の授業例～情報 C との相違点を中心に	社会における情報技術の活用の実際とその問題点について
12	「情報」教員に求められるスキル、学習指導案の考え方・書き方	授業設計のデザインと単元の組み立てについて
13	メディアリテラシーの概念と指導法	各種ソーシャルメディアや情報受発信に必要なリテラシーについて。とりわけ情報の流用とそのルール・関係法規についての理解（小テスト実施）
14	Web とユーザビリティ、ユニバーサルデザインの理論、SNS の光と影	SNS などの活用と実際の問題状況について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします
学習指導要領・高等学校「情報編」をあらかじめ精読しておくこと

【テキスト（教科書）】
学習指導要領・高等学校「情報編」

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
■評価配分
授業への参加度及び出席　４０％
課題　６０％（年間指導計画・単元計画の作成等）

【学生の意見等からの気づき】
ありません。

【学生が準備すべき機器他】
ありません

【その他の重要事項】
ありません

【Outline (in English)】
● Course outline
The course of Teaching Method of Information Sciences (Joho-ka Kyoiku-ho)is made up of the two classes, Teaching Method I and II. The objectives of Teaching Method I are mainly for students to learn the basic knowledges and skills on information and information technologies, and to understand the goals of the subject and its positioning in the Course of Study for high schools.
● Learning Objectives
・ Learn the policy and social background of setting up the subject "Information" and its position in the curriculum of the entire high school.
・ Understand the difference between the common subject "information" and the specialized subject "information", and the relationship between the common subject "information" and other subjects.
● Learning activities outside of classroom
A、The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
B、Carefully read the Course of Study / High School "Information" in advance.
● Grading criteria
Participation and attendance in class 40%
Assignment 60% (creation of annual guidance plan, unit plan, etc.)

情報科教育法Ⅱ

御園生　純

サブタイトル：**情報科教育法**
配当年次／単位：**2～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ⅰ．教科「情報」の概要と意義
Ⅱ．ICT(情報通信技術）の理解と実践力・情報の科学的理解
Ⅲ．情報化社会に参画する態度
Ⅳ．教科「情報」における学習指導
Ⅴ．教科「情報」のカリキュラム・指導計画作成
以上 5 つの項目について、以下授業の構成の内容で講義・実習をおこなう。

【到達目標】
１、実際に高校での授業運営が可能な実践的な教職能力の習得
２、授業指導案の作成能力の獲得
３、実際の教室運営と指導観の涵養

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。後期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。
また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	情報社会に参画する態度Ⅰ～受益者・受信者として。	E コマースなどの消費者としての取り組み
第 16 回	情報社会に参画する態度Ⅱ～発信者として。	SNS などの発信者としての取り組みと問題。
第 17 回	メディアリテラシー、電子コミュニケーション	SNS などの活用と実際
第 18 回	情報と職業	IT 技術によって労働の形態がどのように変わっていくのか？
第 19 回	あたらしい労職業専門性と労働のスタイル、電子決済や仮想通貨について	消費者教育としての情報教育
第 20 回	情報教育の理論～キーコンピテンシーとしての情報教育	あたらしい基礎リテラシーとしての ICT（情報通信技術）
第 21 回	情報テクノロジーの進化と教職の変化	教職専門性と情報技術について
第 22 回	問題解決能力について	論理的思考と問題解決の手法
第 23 回	教科「情報」と「総合的な学習の時間」	教育課程全体における情報科の位置づけ
第 24 回	他教科との連携と協働、プレゼンテーションとディスカッション・コラボレーション	プレゼンテーションツールの利用方法について
第 25 回	情報教育における評価方法	授業評価（生徒の評価と授業の評価の関係について）
第 26 回	教師の自己点検と授業評価、学習環境の整備と保守	クラス全体を評価する～偏差値の重要性
第 27 回	「情報」の授業のイメージ作り	授業の入り口と出口～なにを習得させるのか？
第 28 回	学習計画の作成	年間指導計画の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
高校教科「情報」がどのような経緯で設置されたのか、目的とその歴史的経緯などについては web 等で調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
高等学校学習指導要領「総則」編
高等学校学習指導要領「情報」編

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
日常的課題　３０％
レポート（発表プレゼン含む）　４０％
模擬授業　３０％

【学生の意見等からの気づき】
理論だけでなく、実際に教壇に立った時に必要となる実践的な授業運営方法について模擬授業などを通じて学びます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
I.Outline and significance of the subject "Information"
II.Understanding of ICT (Information and Communication Technology) and practical ability・ Scientific understanding of information
III.Attitude to participate in the information society
IV.Curriculum guidelines in the subject "Information"
V.Creating a curriculum and teaching plan for the subject "Information"
Lectures and practical training will be given on the above five items according to the contents of the lesson structure below.
【Learning Objectives】
1. Acquisition of practical teaching ability that enables class management in high school
2. Acquisition of ability to create lesson guidance plans
3. Fostering actual classroom management and teaching views
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Check the web etc. for the background of the high school subject "Information", the purpose and its historical background.
【Grading Criteria /Policy】
Weekly tasks 30%
Report (including presentation) 40%
Simulated lesson 30%

保健体育科教育法Ⅰ

小林　稔

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育の法的根拠である学習指導要領（保健体育）の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領（中学校・高等学校）に示される目標・内容・学習指導計画・指導評価などについて理解し、修得する。
加えて、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育 (分野) 学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。
講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについてする。
※本講義は対面型を基本とし、新型コロナ感染症の拡大状況によりオンライン型に切り替えるなど柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とは何か
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、 生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷 (1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・ 学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷 (2)	戦前から現在の体育の 捉え方
6	学習指導要領 要点 (1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点 (2)	領域及び内容の取扱い 授業時数 小テスト
8	授業づくり①	A 体つくり運動 B 器械運動
9	授業づくり②	C 陸上競技 D 水泳
10	授業づくり③	E 球技 F 武道
11	授業づくり④	G ダンス H 体育理論
12	学習指導案作成 (1)	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理) 学習評価のねらい、方法
13	学習指導案作成 (2)	単元目標・単元時間計画/ 単元における評価規準の設定方法
14	まとめ → 期末試験	学習指導案の提出 学習指導要領の理解確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
(Each class should have a one-page A4 summary of the content.)
・学習指導要領の各領域について熟読すること
（Read carefully each area of the Courses of Study）
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。
（The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.）

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説 (平成 29 年告示)　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説 (平成 30 年告示)　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【参考書】
・保健体育科教育法（大修館書店）
・新版体育科教育学入門 (大修館書店)

【成績評価の方法と基準】
・試験 50%（小テスト 20 %，期末テスト 30 %）
〔Examination ： 50% (mini test ： 20%, final test ： 30%)〕
・課題レポート・発表 30%
〔Assignment Report and Presentation ： 30 %〕
・学習指導案 20%
〔proposed plan of study and instruction ： 20 %〕

【学生の意見等からの気づき】
・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など毎回の授業に精一杯参加すること

【その他の重要事項】
・授業の展開によっては、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course introduces physical education goals, learning content and programme of teaching to students taking this course.
[Learning objectives]
The goals of this course are to understanding the objectives and content of the Courses of Study.
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to read carefully about each area of the courses of Study. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading criteria/policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、proposed plan of study and instruction: 20%

保健体育科教育法Ⅱ

鬼頭　英明

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校の学習指導要領「保健」が果たすべき役割とは何か、保健で何をどのように学ぶことが効果的か、「保健」の授業を通じて育成すべき資質・能力とは何か、を理解し、指導実践につなげられる指導力を育成することを目指す。

【到達目標】
保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容及び学習内容の取扱い、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学ぶ。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指すとともに、生徒が保健の「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「保健」の指導内容や効果的な指導法などについて理解を進めるとともに、教材活用や授業づくりのためのポイントについても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	保健科教育とは何か	学校保健の中の保健科教育
2	保健科教育のあゆみ	教育課程における位置づけ、歴史的変遷と考え方
3	カリキュラム	3 校種のカリキュラム構成と系統性
4	中学校学習指導要領の目標	三つの目標の考え方
5	高等学校学習指導要領の目標	ヘルスプロモーションの考え方
6	中学校における大単元の内容	中学校 (4 単元) における ねらいとポイント
7	高等学校における大単元の内容	高等学校 (4 単元) における 主なねらいとポイント
8	授業づくり①	様々な指導方法 多様な授業スタイル
9	授業づくり②	ICT 活用 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり③	評価方法
11	授業づくり④	年間指導計画と単元計画
12	指導上の課題	現状と問題点、連携の在り方
13	学習指導案作成 (1)	単元目標と単元における 評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案と 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度のレポートを作成すること。
・中学校及び高等学校の保健の教科書は熟読することを求める。
・日常的に保健の授業内容に関わる関連情報について敏感に収集し、発言できるように
　しておくこと。
　準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説 (平成 29 年告示)　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説 (平成 30 年告示)　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)

【参考書】
保健科教育法入門　日本保健科教育学会編　大修館書店
保健科教育法　森良一編著　東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】
・試験 50 %
・小レポート・小テスト 20 %
・学習指導案 20 %
・授業への積極的な取り組み 10%

【学生の意見等からの気づき】
積極的な取り組みと発言を期待する

【その他の重要事項】
授業の進展状況に応じ、内容の若干の変更が予想されるので、進捗状況について留意すること。

【Outline (in English)】
(Course outline)These lectures will make you understand, purpose, learning contents, educational guidance and learning evaluation of health education. In these lectures I talk about the basic knowledge of health education making use of ICT and teaching materials. To acquire the knowledge, the ability and most important attitude needed for becoming a skillful health and physical education teacher.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand and to teach the contents of health education for students effectively.
(learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hours for a class.
(Grading Criteria/Policies)
・Your overall grade in the class will be decided based on the following term-end examination(50 %),Short reports(20%), making guidance for class(20%), in class contribution(10%)

保健体育科教育法Ⅲ

小林　稔

配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校・高等学校における体育科教育法について、模擬授業を通した具体的な授業づくりと実践的指導力の養成を目指す。

【到達目標】
学習指導案の作成、評価法等の検討ができるようになるとともに、模擬授業を通して、説明力やコミュニケーション能力の向上等、実践につながる指導力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①グループによって選択した運動領域について、目標の設定、教材・教具、指導法、評価法等を検討し、単元計画を踏まえた学習指導案の作成を行う。②グループごとで指導案にもとづいた模擬授業を実施し、受講者全員による振り返りによって各模擬授業を評価し合う。それらを踏まえ、最終的に各自が改善した学習指導案を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明、グループ分け
2	模擬授業①「陸上（ハードル走）」	グループ①による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
3	模擬授業②「陸上（リレー）」	グループ②による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
4	模擬授業③「サッカー」	グループ③による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
5	模擬授業④「ソフトボール」	グループ④による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
6	模擬授業⑤「武道（剣道）」	グループ⑤による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
7	模擬授業⑥「武道（柔道）」	グループ⑥による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
8	模擬授業⑦「バスケットボール」	グループ⑦による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
9	模擬授業⑧「バレーボール」	グループ⑧による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
10	模擬授業⑨「器械運動（マット）」	グループ⑨による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
11	模擬授業⑩「器械運動（跳び箱）」	グループ⑩による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
12	模擬授業⑪「ダンス（現代的なリズム）」	グループ⑪による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
13	模擬授業⑫「体つくり運動（動きを高める運動）」	グループ⑫による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
14	模擬授業⑬「体つくり運動（体ほぐし）」	グループ⑬による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案の作成、模擬授業の準備についてはグループ毎で授業時間外も打ち合わせを必要とする。模擬授業の実施後、グループ毎で授業評価、授業記録等にもとづいた振り返りを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各4 時間 を標準とします。〔Each group will be required to meet outside of class hours to prepare a learning instructional plan and mock class.After conducting the mock class, each group should reflect on the class based on class evaluations, class records, etc.The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.〕

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）
中学保健体育　(学研)
最新高等保健体育　(大修館書店)

【参考書】
体育科教育学入門（大修館書店）
保健体育科教育法（大修館書店）
体育授業を観察評価する（明和出版）
内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）
体育の教材を創る（大修館書店）
楽しい体育理論の授業をつくろう（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
参加状況・態度による平常点（５０％）
プレゼンテーション【主に模擬授業】（３０％）、
レポート点【主に学習指導案】（２０％）により評価する。
Ordinary points based on participation and attitude(50 ％)
Presentations [mainly mock classes〕(30 ％)
report [mainly proposed plan of study and instruction 〕(20 ％)

【学生の意見等からの気づき】
今年度も受講生が積極的に参加しながら理解を深めることができる授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出については授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
「保健体育科教育法Ⅰ」を履修していること。本授業計画は履修者数や授業展開によって若干の変更があり得る。また、事前ガイダンスにおいて、指導案作成（課題）がある。

【Outline (in English)】
[Course outline]
The aim of this course is to help students acquire lesson planning and to develop teaching skills.
[Learning objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
be able to develop learning and teaching plans and evaluate methods of physical education teaching.
improvement of expository and communication skills through mock classes.
develop teaching skills that lead to practical application through mock lessons.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to discuss the preparation of the mock lesson. Your study time will be more than four hours for a class.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following presentation: 30%、Short reports : 20%、in class contribution: 50%

保健体育科教育法Ⅳ

小田　佳子

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校「保健」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などを踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業の経験を通して教師の資質や能力，責任などを認識・理解する。

【到達目標】
保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解した上で、実際に「保健」における学習指導計画の作成及び授業展開を行うことで、教育的実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
中学校及び高等学校「保健」において、学習指導要領の示す目標・指導内容・評価などを踏まえて、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎知識など保健体育科教育法Ⅱで学んだ内容を発展・具体化して学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。ただし、授業法の基本である板書や教材づくりの工夫を大切にする。
その後、互いに授業評価をして振返りを行い、教師としての資質・能力、責任などを認識・理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方 成績評価 各担当単元の班編成 学習指導案立案手順方法
2	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元計画・単元における評価規準の設定方法、教材観・生徒観・指導観の記述方法
3	学習指導案作成 (2)	教材 (実習・実験を行うために必要な ICT 活用、グループワーク、討議法)、指導方法、指導形態の選定
4	模擬授業準備	黒板や教壇、教材を用いた模擬授業のシミュレーション及び学習指導案の修正
5	模擬授業及び省察①	健康の考え方、生活習慣病 (中学校 1 単元 高等学校 1 単元)
6	模擬授業及び省察②	飲酒・喫煙、薬物乱用 (中学校 1 単元　高等学校 1 単元)
7	模擬授業及び省察③	性への関心、性行動 (中学校 2 単元　高等学校 3 単元)
8	模擬授業及び省察④	妊娠・出産、結婚生活 (中学校 2 単元)
9	模擬授業及び省察⑤	妊娠・出産、結婚生活 (高等学校 3 単元)
10	模擬授業及び省察⑥	応急手当、心肺蘇生法 (中学校 3 単元　高等学校 2 単元)
11	模擬授業及び省察⑦	労働、加齢 (高等学校 3 単元)
12	模擬授業及び省察⑧	大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、ごみ処理・上下水道、食品安全 (中学校 4 単元　高等学校 4 単元)
13	模擬授業振り返り	各模擬授業後に課した学生への授業評価記録や録画による分析・検討
14	まとめ	各班における模擬授業反省のプレゼンテーション、振り返りを踏まえた学習指導案の修正作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学校及び高等学校における学習指導要領及び教科書 (保健部分) を熟読し、担当分野の資料を常日頃から収集しておくこと
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【参考書】
・保健科教育の基礎　(教育出版)

【成績評価の方法と基準】
・学習指導案 (模擬授業前/振り返り後)30%
・模擬授業に対する意欲・態度及び教材の工夫と実践 30%
・模擬授業者への授業評価 (コメント)20%
・模擬授業反省と指導案修正 10%
・毎回の授業への参加態度 10%

【学生の意見等からの気づき】
・模擬授業時間と振り返りの時間確保
・模擬授業を受ける学生は、毎回の授業者が行う授業より、
　参考になったこと (良かった点)、改善すべきこと (改善点) を
　具体的に見つけながら参加すること

【その他の重要事項】
授業の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る
夏休み中に事前の履修ガイダンスを実施し、模擬授業の指導案作成（課題）を提示する

【Outline (in English)】
To create the "health education" teaching plans based on the goals, contents, learning guidance plan and learning evaluation through the course of study for junior high school and high school.
Then students can recognize and understand teachers' qualities, abilities, and responsibilities through the experience of mock lessons.
(learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
・Your overall grade in the class will be decided based on the following
Class guide plane: before and after(30 %), Teaching skill and Attitude for the class(30%), Feedback for others(20%), in class contribution and feedback(10%)

道徳教育指導論

石神　真悠子

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式とするが、模擬授業やグループワーク等の機会を設ける。また、コメントシートの提出を必須とし、授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	道徳教育を学ぶ意義について	授業の目的や進め方、評価方法についてガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義を検討する。
2	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領を踏まえて、道徳の教科化とその学習評価について検討する。
3	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育を検討する。
4	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえて、「心の教育」について検討する。
5	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	学習指導要領を踏まえて、「いのちの教育」について検討する。
6	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえて、「人権教育」について検討する。
7	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論を踏まえて、道徳性が発達するとはどのようなことかを検討する。
8	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
9	情報モラル	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育について検討する。
10	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育と道徳教育の重なりとずれを検討する。
11	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の道徳教育について、その意義と課題を検討する。
12	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案作成のポイントについて検討する。
13	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
14	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃より道徳教育に関わる新聞記事や文献等に目を通し、「道徳」とは何は、「道徳を教育する」とはどういうことかについて考えを深める。
また、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業におけるコメントシート（30%）、中間課題（30 %）と期末課題（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。また授業の内容についても、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.
Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.
Please read newspapers and literature related to moral education on a daily basis and deepen your thoughts on what "morality" is and what it means to "educate morality."
Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

道徳教育指導論

石神　真悠子

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式とするが、模擬授業やグループワーク等の機会を設ける。また、コメントシートの提出を必須とし、授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	道徳教育を学ぶ意義について	授業の目的や進め方、評価方法についてガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義を検討する。
2	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領を踏まえて、道徳の教科化とその学習評価について検討する。
3	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育を検討する。
4	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえて、「心の教育」について検討する。
5	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	学習指導要領を踏まえて、「いのちの教育」について検討する。
6	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえて、「人権教育」について検討する。
7	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論を踏まえて、道徳性が発達するとはどのようなことかを検討する。
8	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
9	情報モラル	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育について検討する。
10	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育と道徳教育の重なりとずれを検討する。
11	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の道徳教育について、その意義と課題を検討する。
12	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案作成のポイントについて検討する。
13	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
14	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃より道徳教育に関わる新聞記事や文献等に目を通し、「道徳」とは何は、「道徳を教育する」とはどういうことかについて考えを深める。
また、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業におけるコメントシート（30%）、中間課題（30 %）と期末課題（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。また授業の内容についても、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.
Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.
Please read newspapers and literature related to moral education on a daily basis and deepen your thoughts on what "morality" is and what it means to "educate morality."
Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

特別活動論

桐島　次郎

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、これからの特別活動のあり方を考える上で必要となる文献、実践等を紹介し、検討していく。毎回授業の最後に、各自の意見、論点をコメントペーパーにまとめ提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方等の説明
2	教育課程の中の特別活動	特別活動の教育課程における位置づけ、およびその指導の特徴について考える。
3	特別活動の歴史	特別活動の変遷をたどり、今日の特別活動へと引き継がれている内容について考える。
4	学習指導要領と特別活動	特別活動に求められる新たな視点、および各教科等との関連性について考える。
5	特別活動の目標と展開	特別活動の目標についての理解を深め、実践を展開する上で必要な観点について考える。
6	特別活動の評価と改善	特別活動にふさわしい評価のあり方、また改善のすすめ方について考える。
7	話合い活動とその指導	対話と討論を通じた相互理解と合意形成にむけて、指導の課題を考える。
8	学級・ホームルーム活動	信頼関係に基づく学級づくり、仲間づくりの意義と方法について考える。
9	児童会・生徒会活動	参画と自治、協同性によって学校生活をより良いものへとつくり変えていくために必要な能力について考える。
10	学校行事	発見と共感、創造性によって運営される学校行事固有の魅力、特性について考える。
11	部活動	「文化」の共有をとおして仲間とつながり、その成果を地域社会へとひろげていく部活動の可能性について考える。
12	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	ボランティア学習、社会への貢献的活動等を通じて育まれていく「市民性」の意味について考える。
13	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	学習の成果を社会の課題とつなぎ、自己の実現とよりよい集団の形成を達成していくための方法を考える。
14	まとめ：特別活動の課題と可能性	講義全体を振り返り、特別活動の展望と課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業において配付する関連資料を次回までに読了する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編
（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーと参加姿勢（６０％）、課題レポートの内容（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
授業後に提出してもらうコメントペーパーのいくつかを毎回授業のはじめに紹介し、前回の授業の内容等に関する「気づき」について述べる。

【Outline (in English)】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.Extra-curricular activities are carried out in various groups, to discover and solve problems, and to build a better group and school life. The aim of this class is to understand the significance of extra-curricular activities in school education, and to acquire the knowledge and background necessary for guiding such activities. For that purpose students have to learn the perspectives of "human relations" "social participation" and "self-realization" in pupils' developmental process, and also the perspective of "school staff as a team" in teachers' systematic and collaborative guidance process. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports:60%、Term-end report:40%

特別活動論

桐島　次郎

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、これからの特別活動のあり方を考える上で必要となる文献、実践等を紹介し、検討していく。毎回授業の最後に、各自の意見、論点をコメントペーパーにまとめ提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方等の説明
2	教育課程の中の特別活動	特別活動の教育課程における位置づけ、およびその指導の特徴について考える。
3	特別活動の歴史	特別活動の変遷をたどり、今日の特別活動へと引き継がれている内容について考える。
4	学習指導要領と特別活動	特別活動に求められる新たな視点、および各教科等との関連性について考える。
5	特別活動の目標と展開	特別活動の目標についての理解を深め、実践を展開する上で必要な観点について考える。
6	特別活動の評価と改善	特別活動にふさわしい評価のあり方、また改善のすすめ方について考える。
7	話合い活動とその指導	対話と討論を通じた相互理解と合意形成にむけて、指導の課題を考える。
8	学級・ホームルーム活動	信頼関係に基づく学級づくり、仲間づくりの意義と方法について考える。
9	児童会・生徒会活動	参画と自治、協同性によって学校生活をより良いものへとつくり変えていくために必要な能力について考える。
10	学校行事	発見と共感、創造性によって運営される学校行事固有の魅力、特性について考える。
11	部活動	「文化」の共有をとおして仲間とつながり、その成果を地域社会へとひろげていく部活動の可能性について考える。
12	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	ボランティア学習、社会への貢献的活動等を通じて育まれていく「市民性」の意味について考える。
13	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	学習の成果を社会の課題とつなぎ、自己の実現とよりよい集団の形成を達成していくための方法を考える。
14	まとめ：特別活動の課題と可能性	講義全体を振り返り、特別活動の展望と課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業において配付する関連資料を次回までに読了する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編
（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーと参加姿勢（６０％）、課題レポートの内容（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
授業後に提出してもらうコメントペーパーのいくつかを毎回授業のはじめに紹介し、前回の授業の内容等に関する「気づき」について述べる。

【Outline (in English)】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.Extra-curricular activities are carried out in various groups, to discover and solve problems, and to build a better group and school life. The aim of this class is to understand the significance of extra-curricular activities in school education, and to acquire the knowledge and background necessary for guiding such activities. For that purpose students have to learn the perspectives of "human relations" "social participation" and "self-realization" in pupils' developmental process, and also the perspective of "school staff as a team" in teachers' systematic and collaborative guidance process.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports:60%、Term-end report:40%

教育課程論

三浦　芳恵

配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解します。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式・リアクションペーパー提出あり

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業の概要について説明をします。
2	カリキュラムとは	カリキュラムの概念について学びます。
3	教育内容の組織化	経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラムなど、カリキュラムの組織化の種類について把握し、検討します。
4	カリキュラムデザインを支える学習理論	現行学習指導要領における学習理論の転換について
5	教育課程の意義と位置づけ	教育課程関連制度の基本的な枠組みについて学びます。
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷について把握します。
7	学力論の系譜	「ゆとり教育」導入時の学力をめぐる議論を中心に、学力とは何かを検討します。
8	学習指導要領改訂の要点	現行の学習指導要領に関する分析を行います。
9	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの概念について、教育実践の事例から検討します。
10	社会に開かれた教育課程	高校の教育実践から、地域に開かれた教育課程づくりの意義について検討します。
11	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	中学校の総合的な学習の時間に関する実践について検討します。
12	教育課程と指導計画－通時性と共時性	キャリア教育の実践から、長期的な教育計画について検討します。
13	カリキュラム評価	近年の教育課程評価の動向について、実際の事例から検討します。
14	授業のまとめ	この授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマに関連するような文献（新聞・雑誌・専門書など）を読み、自分なりの関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。適宜資料を配布します。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明（2018）『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社。
山内紀幸・本田伊克 (2022)『新時代の教育課程論』一藝社。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー（30 %）、期末試験（70 %）をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
回によっては授業の難易度が高いこともあったため、内容の見直しを行います。

【Outline (in English)】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.

教育課程論

三浦　芳恵

配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解します。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式・リアクションペーパー提出あり

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業の概要について説明をします。
2	カリキュラムとは	カリキュラムの概念について学びます。
3	教育内容の組織化	経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラムなど、カリキュラムの組織化の種類について把握し、検討します。
4	カリキュラムデザインを支える学習理論	現行学習指導要領における学習理論の転換について
5	教育課程の意義と位置づけ	教育課程関連制度の基本的な枠組みについて学びます。
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷について把握します。
7	学力論の系譜	「ゆとり教育」導入時の学力をめぐる議論を中心に、学力とは何かを検討します。
8	学習指導要領改訂の要点	現行の学習指導要領に関する分析を行います。
9	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの概念について、教育実践の事例から検討します。
10	社会に開かれた教育課程	高校の教育実践から、地域に開かれた教育課程づくりの意義について検討します。
11	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	中学校の総合的な学習の時間に関する実践について検討します。
12	教育課程と指導計画－通時性と共時性	キャリア教育の実践から、長期的な教育計画について検討します。
13	カリキュラム評価	近年の教育課程評価の動向について、実際の事例から検討します。
14	授業のまとめ	この授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマに関連するような文献（新聞・雑誌・専門書など）を読み、自分なりの関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。適宜資料を配布します。

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明（2018）『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社。
山内紀幸・本田伊克 (2022)『新時代の教育課程論』一藝社。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー（30 %）、期末試験（70 %）をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
回によっては授業の難易度が高いこともあったため、内容の見直しを行います。

【Outline (in English)】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.

教育方法論（ICT 活用を含む）

地村　茂樹

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この講義では、アクティブラーニングの授業実践例をご紹介し、分析・評価をしていきます。その中で授業づくりの段取りや技術、教材の活用方法、板書の要領、プリントの作成など個別具体的な事項についてもご説明します。
授業実践例としては、受講生の取得希望免許科目と私の経験的制約のため、情報科、社会科系の授業のご紹介が多くなります。福祉科、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする皆さんには出来るだけ多くの授業事例を紹介することでお許しいただきたいと思います。そして、ご紹介した授業実践例に対しては毎回小レポートをお書きいただきます。
また、評価の主要部分となるのは最終レポート＝大レポート（1時間分の指導案）と模擬授業です。設定されたテーマに沿って各チーム（教科別、4〜5名）で1時間分の指導計画を議論・検討し、模擬授業をしていただきます。
さらに、社会科系の科目はいうまでもなく、福祉・保健・健康・情報各科にかかわる問題も、世界の動き、政治・経済・文化等と密接なかかわりを持っています。教員がそのような世界の動向に関心を持ち、相当の理解を持っていることは、優れた指導者として教壇に立つための前提であると私は考えています。そのため、この講義の受講生には現代の社会の動きにより関心を持っていただくため、講義の中では日本や世界の様々な時事問題を取りあげ、現代の社会にかかわる著作も随時ご紹介していきたいと考えています。（教室授業が不可能になった場合は、授業計画の変更があり得ますので予めご了承ください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の予定、最終レポート（大レポート）とプレゼンについて説明します。
2	「本当に教職は専門職か？」	学校の特色と教師の専門性について考えます。
3	「あなたにとっての理想の教育とは何か？」	人工知能 (AI) やロボットが生活に浸透していく 21 世紀の子ども達にとって必要な教育とはどのようなものかを考えます。
4	新学習指導要領と教育方法	学習指導要領の変遷と歴史、そしてその特徴を考えます。
5	情報通信技術の活用の意義と理論	「情報通信技術」ICT の活用を含む「情報」の授業とアクティブラーニングの目的や具体的な方法を説明します。
6	「異文化理解」「差別をどのように教えるか」	「Barnga」「青い目と茶色い目」を利用した「気づき」の授業を考えます。
7	「主体的・対話的で深い学び」	「テキスト分析」「絵画分析」の授業実践例を紹介しながら主体的・対話的で深い学びとは何かを考えていきます。
8	「SNS をどのように使うか」「自分ごとにする授業」とは何か？	「当事者意識を持たせる」授業に実践例を紹介します。
9	個に応じた指導の工夫	外部講師によるスクールコーチング「TALK」を体験します。
10	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	実践例を紹介しながら、ICT を利用した授業の構成、指導案の書き方とチェックするべき視点などについて解説します。
11	模擬授業（1）	「チーム A・B」による模擬授業と学生による相互評価
12	模擬授業（2）	「チーム C・D」による模擬授業と学生による相互評価
13	模擬授業（3）	「チーム E・F」による模擬授業と学生による相互評価
14	模擬授業の振り返り	「理想の教師とは何か」を模擬授業の振り返りとともに考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、免許を取得する教科について、深く広く学習すること。各種新聞をできるだけ毎日読み、インターネットやテレビのニュースなどを視聴すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
石井英真『授業づくりの深め方』2020 年刊　ミネルヴァ書房　￥2800(税別)

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社
『新版　社会・地歴・公民の教育』大森正・石渡延男編著　2009 年　梓出版刊
『よい授業とは何か』川田龍哉著　2019 年　学文社刊

【成績評価の方法と基準】
「指導案」を主とする最終レポート＝大レポートと模擬授業が最も大きな評価の材料となります (60 %) 。また、毎回提出いただく小レポートは 40 %の評価材料となる。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、インターネット送受信能力、オフィスのワードとエクセルのソフト

【その他の重要事項】
★必要に応じて自由に判断して記述してください★

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire education methods and techniques.
【Learning Objectives】Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are
further able to design lesson plans effectively for competency building.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to learn deeply and broadly about the subjects for which they will be licensed. Read various newspapers every day as much as possible and watch news on the Internet and TV. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policies】

The final report, which mainly consists of a "teaching plan", and mock lessons are the most important materials for evaluation (70%). In addition, the small report submitted every time will be about 15% of the evaluation material.

教育方法論（ICT 活用を含む）

地村　茂樹

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この講義では、アクティブラーニングの授業実践例をご紹介し、分析・評価をしていきます。その中で授業づくりの段取りや技術、教材の活用方法、板書の要領、プリントの作成など個別具体的な事項についてもご説明します。
授業実践例としては、受講生の取得希望免許科目と私の経験的制約のため、情報科、社会科系の授業のご紹介が多くなります。福祉科、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする皆さんには出来るだけ多くの授業事例を紹介することでお許しいただきたいと思います。そして、ご紹介した授業実践例に対しては毎回小レポートをお書きいただきます。
また、評価の主要部分となるのは最終レポート＝大レポート（1時間分の指導案）と模擬授業です。設定されたテーマに沿って各チーム（教科別、4〜5名）で1時間分の指導計画を議論・検討し、模擬授業をしていただきます。
さらに、社会科系の科目はいうまでもなく、福祉・保健・健康・情報各科にかかわる問題も、世界の動き、政治・経済・文化等と密接なかかわりを持っています。教員がそのような世界の動向に関心を持ち、相当の理解を持っていることは、優れた指導者として教壇に立つための前提であると私は考えています。そのため、この講義の受講生には現代の社会の動きにより関心を持っていただくため、講義の中では日本や世界の様々な時事問題を取りあげ、現代の社会にかかわる著作も随時ご紹介していきたいと考えています。（教室授業が不可能になった場合は、授業計画の変更があり得ますので予めご了承ください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の予定、最終レポート（大レポート）とプレゼンについて説明します。
2	「本当に教職は専門職か？」	学校の特色と教師の専門性について考えます。
3	「あなたにとっての理想の教育とは何か？」	人工知能 (AI) やロボットが生活に浸透していく 21 世紀の子ども達にとって必要な教育とはどのようなものかを考えます。
4	新学習指導要領と教育方法	学習指導要領の変遷と歴史、そしてその特徴を考えます。
5	情報通信技術の活用の意義と理論	「情報通信技術」ICT の活用を含む「情報」の授業とアクティブラーニングの目的や具体的な方法を説明します。
6	「異文化理解」「差別をどのように教えるか」	「Barnga」「青い目と茶色い目」を利用した「気づき」の授業を考えます。
7	「主体的・対話的で深い学び」	「テキスト分析」「絵画分析」の授業実践例を紹介しながら主体的・対話的で深い学びとは何かを考えていきます。
8	「SNS をどのように使うか」「自分ごとにする授業」とは何か？	「当事者意識を持たせる」授業に実践例を紹介します。
9	個に応じた指導の工夫	外部講師によるスクールコーチング「TALK」を体験します。
10	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	実践例を紹介しながら、ICT を利用した授業の構成、指導案の書き方とチェックするべき視点などについて解説します。
11	模擬授業（1）	「チーム A・B」による模擬授業と学生による相互評価
12	模擬授業（2）	「チーム C・D」による模擬授業と学生による相互評価
13	模擬授業（3）	「チーム E・F」による模擬授業と学生による相互評価
14	模擬授業の振り返り	「理想の教師とは何か」を模擬授業の振り返りとともに考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、免許を取得する教科について、深く広く学習すること。各種新聞をできるだけ毎日読み、インターネットやテレビのニュースなどを視聴すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
石井英真『授業づくりの深め方』2020 年刊　ミネルヴァ書房　￥2800(税別)

【参考書】
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社
『新版　社会・地歴・公民の教育』大森正・石渡延男編著　2009 年　梓出版刊
『よい授業とは何か』川田龍哉著　2019 年　学文社刊

【成績評価の方法と基準】
「指導案」を主とする最終レポート＝大レポートと模擬授業が最も大きな評価の材料となります (60 %) 。また、毎回提出いただく小レポートは 40 %の評価材料となる。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、インターネット送受信能力、オフィスのワードとエクセルのソフト

【その他の重要事項】
★必要に応じて自由に判断して記述してください★

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire education methods and techniques.
【Learning Objectives】Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are
further able to design lesson plans effectively for competency building.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to learn deeply and broadly about the subjects for which they will be licensed. Read various newspapers every day as much as possible and watch news on the Internet and TV. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policies】

The final report, which mainly consists of a "teaching plan", and mock lessons are the most important materials for evaluation (70%). In addition, the small report submitted every time will be about 15% of the evaluation material.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下　洋児

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感をもち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第 2 回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第 3 回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第 4 回	自閉スペクトラム症 (ASD) の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第 5 回	注意欠如多動症 (ADHD) の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第 6 回	学習障害 (LD) の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第 7 回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第 8 回	肢体不自由・病弱の子どもの理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第 9 回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、1 回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後にていねいに読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015 年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70 %＋最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日的な課題についての授業を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.
【Learning Objectives】
The goal is to understand (or acquire):
◇ the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.
◇ the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.
◇ the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,
◇ the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.
◇ the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.
◇ infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report:30%, and in-class contribution(reaction paper):70%.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下　洋児

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感をもち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第 2 回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第 3 回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第 4 回	自閉スペクトラム症 (ASD) の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第 5 回	注意欠如多動症 (ADHD) の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第 6 回	学習障害 (LD) の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第 7 回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第 8 回	肢体不自由・病弱の子どもの理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第 9 回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、1 回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後にていねいに読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015 年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70 %＋最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日的な課題についての授業を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.
【Learning Objectives】
The goal is to understand (or acquire):
◇ the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.
◇ the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.
◇ the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,
◇ the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.
◇ the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.
◇ infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report:30%, and in-class contribution(reaction paper):70%.

総合的な学習の時間の指導法

本山　明

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】
探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「総合的な学習の時間」な学習指導理論を理解し、学習指導案の内容を子どもの認識や思考、学力などの実態に沿ったものに作成できるようにする。また模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。「総合的な学習の時間」における実践研究の動向を紹介し、グループワーク・問題解決学習など主体的・対話的で深い学びの授業設計の向上に取り組めるようにする。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。
対面授業とする。対面授業に出ないときは欠席。オンラインの補講はしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	学生の「総合的な学習の時間」の体験を振り返り、その意義について共有化をはかる。
第 2 回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	戦後の学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」戦後初期のコア・カリキュラムの示唆するもの
第 3 回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	教育課程と校内体制。指導計画の基本的考え方。SDGs と「総合的な学習の時間」
第 4 回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動・情報活用能力・シティズンシップ教育・地域との連携（フィールドワークを含む）
第 5 回	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習・参加型学習・探究的な学習・他者と協同して取り組む学習の実際
第 6 回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	公正な社会世界・共生を創る実践と評価
第 7 回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	循環型社会・気候変動を中心にした実践と評価
第 8 回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と育成を目指す資質・能力。評価の方法・ポイント
第 9 回	年間計画と指導案作成の理解	クラス・学年・学校を単位とした年間計画と指導案
第 10 回	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントと思考ツールの使用による協同学習
第 11 回	指導案改善の観点と方法	課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現の観点と方法を改善する
第 12 回	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合い学習視点での指導案の改善
第 13 回	授業指導案の発表と講評（中学校）	中学校における授業指導案の発表と講評
第 14 回	授業指導案の発表と講評（高校)	高校における授業指導案の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「総合的な学習の時間」のテーマを考える上で、毎日、新聞を 30 分以上読み、新聞スクラップブックを作成する。定型用紙は授業者が用意し、そこに自分のコメントを書き込み提出する。新聞が手元に無い場合は、図書館の新聞をコピーし使用する事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。適宜、指示する。

【参考書】
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
文部科学省『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』

【成績評価の方法と基準】
平常点（各時間の提出レポート・新聞スクラップの中で授業者が評価に必要であるとしたもの）50 %
最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
社会世界的な課題と学生の関心を大事にした授業を組み立てたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要な時は指示する。

【その他の重要事項】
質問事項などは、授業後お願いします。1999 年より公立中学校で 15 年間、「総合的な学習の時間」の責任者を経験。現場の実践に役立つ授業をしていく。

【授業中に求められ学習活動】
広く豊かな社会認識を身につけるため積極的な発言、対話を期待する。

【Outline (in English)】
Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, the flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, the way of evaluation of students grades.
To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities about "the Period for Integrated Study."
In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.
Grading Criteria [14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

総合的な学習の時間の指導法

本山　明

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】
探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「総合的な学習の時間」な学習指導理論を理解し、学習指導案の内容を子どもの認識や思考、学力などの実態に沿ったものに作成できるようにする。また模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。「総合的な学習の時間」における実践研究の動向を紹介し、グループワーク・問題解決学習など主体的・対話的で深い学びの授業設計の向上に取り組めるようにする。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

対面授業とする。対面授業に出ないときは欠席。オンラインの補講はしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	学生の「総合的な学習の時間」の体験を振り返り、その意義について共有化をはかる。
第 2 回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	戦後の学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」戦後初期のコア・カリキュラムの示唆するもの
第 3 回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	教育課程と校内体制。指導計画の基本的考え方。SDGs と「総合的な学習の時間」
第 4 回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動・情報活用能力・シティズンシップ教育・地域との連携（フィールドワークを含む）
第 5 回	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習・参加型学習・探究的な学習・他者と協同して取り組む学習の実際
第 6 回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	公正な社会世界・共生を創る実践と評価
第 7 回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	循環型社会・気候変動を中心にした実践と評価
第 8 回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と育成を目指す資質・能力。評価の方法・ポイント
第 9 回	年間計画と指導案作成の理解	クラス・学年・学校を単位とした年間計画と指導案
第 10 回	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントと思考ツールの使用による協同学習
第 11 回	指導案改善の観点と方法	課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現の観点と方法を改善する
第 12 回	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合い学習視点での指導案の改善
第 13 回	授業指導案の発表と講評（中学校）	中学校における授業指導案の発表と講評
第 14 回	授業指導案の発表と講評（高校）	高校における授業指導案の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「総合的な学習の時間」のテーマを考える上で、毎日、新聞を 30 分以上読み、新聞スクラップブックを作成する。定型用紙は授業者が用意し、そこに自分のコメントを書き込み提出する。新聞が手元に無い場合は、図書館の新聞をコピーし使用する事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。適宜、指示する。

【参考書】
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
文部科学省『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。
毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート　50 %
最終レポート　50 %

【学生の意見等からの気づき】
社会世界的な課題と学生の関心を大事にした授業を組み立てたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要な時は指示する。

【その他の重要事項】
質問事項などは、授業支援システムで行います。1999 年より公立中学校で 15 年間、「総合的な学習の時間」の責任者を経験。現場の実践に役立つ授業をしていく。

【授業中に求められ学習活動】
広く豊かな社会認識を身につけるため積極的な発言、対話を期待する。

【Outline (in English)】
Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, the flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, and the way of evaluating students' grades.
To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities in relation to "the Period for Integrated Study."
In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.
Grading Criteria [14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

教育実習（事前指導）

小嶋　常喜

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また７月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】
次年度の教育実習を前に、実習がもつ様ざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	ガイダンス
第 2 回	教育実習の実際と実習に向けての準備のあり方	教育実習の意味と目的について
第 3 回	授業の進め方や実習に向けての準備・心構えについて	中学・高校教員に求められる資質とは
第 4 回	実習ガイダンス 生活指導について	生活指導のあり方について
第 5 回	実習ガイダンス 2　教育実習全般の注意	実習期間中の過ごし方
第 6 回	実習ガイダンス 3　校務分掌	教職員の服務　生徒指導
第 7 回	実習ガイダンス 4　学校運営全体における情報科担当教員の役割	左記のとおり
第 8 回	教科指導　授業の事前準備の方法	年間計画と単元計画
第 9 回	教科指導　学習指導案の作成	副教材の作成方法
第 10 回	教科指導　学習指導案に即して	発問・板書・まとめ・考査の方法
第 11 回	教科指導　模擬授業の実施と検討	授業を演出する意味について
第 12 回	担任指導	生活・進路指導
第 13 回	ホームルーム指導の実際	生徒指導の実際例を引いてその効果的な指導方法などをまなぶ
第 14 回	特別活動の指導	HR や行事の教育的な効果について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。
模擬授業についてはこれとは別に十分な準備時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
「中学校学習指導要領」(社会) およびその「解説」
「高等学校学習指導要領」(地歴・公民) およびその「解説」

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導は、不合格の評価を受けると次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。
模擬授業の運営と、それにかかわる準備・授業計画の立案等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実際に授業ができる。
様々な局面における適切な生徒指導ができる。

【学生が準備すべき機器他】
模擬授業の際に自分が必要な教材、機材。対面での授業参加が基本となるが、課題提出のために学習支援システムを利用する。また、様々な状況に対応しかつより充実した授業にするために、会議システム (Zoom) や Google Classroom を使っての取り組みに対応できる環境があることが望ましい。

【その他の重要事項】
・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、４月に実施される３年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
・７月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.
【Learning Objectives】
Students will be expected to conduct mock classes in group. You are required to work for preparing class plan and teaching materials and so on. Those activities enable you to understand the importance of teaching practice in the schools and to acquire necessary skills and knowledge for the practice next year.
【Learning activities outside of classroom】
Student will be requested to work intensively for the preparation of mock class.
【Grading Criteria / Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Attendance in the class.
Contribution in the class.
Performance in you mock class.

教育実習（事前指導）

平塚　眞樹

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度に教育実習を行うにあたり、これまで学んだ教職課程の集大成として、教員に求められる資質を身につけるとともに、授業の構成の方法・生徒指導のあり方などを、各自の模擬授業を通して実践的かつ総合的に学びます。

【到達目標】
次年度の教育実習を前に、実習がもつ様ざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。授業内で行った模擬授業や発表に対して毎回フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（グループ編成・夏休み提出課題の提示）	授業の目的と方法や全体の概要、今後の予定を説明します。
2	夏休み提出課題の返却、講評	提出課題の特徴と注意点を説明します。
3	授業研究（4 年生との交流授業）	授業の方法、展開の仕方、授業案の作成について説明します。
4	生活指導研究（4 年生との交流授業）	生徒とのコミュニケーションの取り方について説明します。
5	模擬授業準備のグループワーク	模擬授業の準備をします。
6	模擬授業とその評価①	模擬授業を行い、全体で批評します。
7	模擬授業とその評価②	模擬授業を行い、全体で批評します。
8	模擬授業とその評価③	模擬授業を行い、全体で批評します。
9	模擬授業とその評価④	模擬授業を行い、全体で批評します。
10	模擬授業とその評価⑤	模擬授業を行い、全体で批評します。
11	模擬授業とその評価⑥	模擬授業を行い、全体で批評します。
12	模擬授業とその評価⑦	模擬授業を行い、全体で批評します
13	模擬授業のふりかえり ふりかえりレポートの作成	模擬授業の到達点と課題を確認します
14	実習経験者・実習予定者の交流学習	教育実習経験者と討議を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①夏休み中課題への取り組み、②後期授業でおこなうグループ模擬授業の準備とふりかえり、③次の時間帯に設けられている「教職実践演習」クラスに数回参加し、教育実習修了者（４年生）の経験から学ぶ学習、以上含めて、本授業の準備学習・復習時間は合わせて毎回最低 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
７月に実施予定のオリエンテーション時に配布します。

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導は、○と × で評価をおこないます。× の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんとのインタラクティブな授業ですので、毎回そのやりとりを通じて、授業の進行を見直すことができ、とてもありがたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
模擬授業は、実施グループがビデオで撮影することを予定しています。

【その他の重要事項】
・次年度に教育実習を実施するためには、この授業に合格することが条件となっており本科目は教職課程履修上特別な位置づけにあります。その点は、4 月に実施される３年生対象のオリエンテーションでも提示されますので必ず確認ください。
・７月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。
・この授業では、授業支援システムの利用を予定しています。

【Outline (in English)】
Course outline : The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.
Learning Objectives : Students are required to recognise and understand the importance and responsibilities of the following year's teacher training, to learn and master the minimum requirements for teamwork, research of teaching materials, preparation of lesson plans.
Learning activities outside of classroom : Your required study time is at least one hour for each class meeting、including work on summer assignments, preparation for and review of mock lessons, and participation in presentations by the class of students who have completed teacher training
Grading Criteria /Policy : The evaluation of this class is indicated by ○ and ×. If you receive a grade of ×, you will not be able to do your teacher training in the following year. The assessment will be based strictly on attendance, active participation in the class, and the performance of the work.

教育実習（事前指導）

髙橋　繁

配当年次／単位：**3〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また７月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】
次年度の教育実習を前に、実習がもつ様ざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。授業計画は授業の展開によって、若干の変更はあり得ます。課題に対する講評と解説は授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	グループ編成・夏休み提出課題の提示
第 2 回	学習指導案の書き方	夏休み提出課題の返却と講評。グループ研究。
第 3 回	授業研究	４年生による模擬授業と交流
第 4 回	生活指導研究	４年生による発表と交流
第 5 回	模擬授業１	第 1 グループによる模擬授業および批評会
第 6 回	模擬授業２	第２グループの模擬授業と批評会
第 7 回	模擬授業３	第３グループの模擬授業と批評会
第 8 回	模擬授業４	第４グループの模擬授業と批評会
第 9 回	模擬授業５	第５グループの模擬授業と批評会
第 10 回	模擬授業６	第６グループの模擬授業と批評会
第 11 回	模擬授業７	第７グループの模擬授業と批評会
第 12 回	模擬授業のふりかえり	模擬授業で学んだことをまとめる
第 13 回	現代の教育課題	実習経験者・実習予定者の交流学習 ４年生の発表を聞く
第 14 回	まとめ	実習経験者・実習予定者の交流学習 教育実習までに準備しておくことをまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
７月に実施するオリエンテーション（初回授業）で提示する夏休み課題への取り組み
後期授業でおこなうグループ模擬授業の準備・反省
教育実習修了者（４年生）の学習発表への参加
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
中学校・高等学校の各種教科書および指導関連の図書が図書館にありますので、積極的に利用してください。
必要文献、資料などを適宜紹介、あるいは配布します。

【成績評価の方法と基準】
　教育実習事前指導は、○と × で評価をおこないます。× の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】
　模擬授業のグループ分けや準備方法を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
　模擬授業は、実施グループがビデオで撮影することを予定しています。
そのため、後期の冒頭、授業開始前にビデオ講習（撮影のみ）を受講してもらいます。

【その他の重要事項】
　この授業では、学習支援システムの利用を予定しています。

【授業中に求められる学習活動】
・教職課程履修上この授業の特別な位置づけについて、３年次生対象の４月のオリエンテーションでお話します。
・７月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意してください

【Outline (in English)】
Course outline : The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.
Learning Objectives : Students are required to recognise and understand the importance and responsibilities of the following year's teacher training, to learn and master the minimum requirements for teamwork, research of teaching materials, preparation of lesson plans.
Learning activities outside of classroom : Your required study time is at least one hour for each class meeting, including work on summer assignments, preparation for and review of mock lessons, and participation in presentations by the class of students who have completed teacher training
Grading Criteria /Policy : The evaluation of this class is indicated by ○ and ×. If you receive a grade of ×, you will not be able to do your teacher training in the following year. The assessment will be based strictly on attendance, active participation in the class, and the performance of the work.

教育実習（事前指導）

御園生　純

配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また７月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】
次年度の教育実習を前に、実習がもつ様々な意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。プレゼンテーション及び各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	ガイダンス
第 2 回	教育実習の実際と実習に向けての準備のあり方	教育実習の意味と目的について
第 3 回	授業の進め方や実習に向けての準備・心構えについて	高校教員に求められる資質とは
第 4 回	実習ガイダンス　生活指導について	生活指導のあり方について
第 5 回	実習ガイダンス 2　教育実習全般の注意	実習期間中の過ごし方
第 6 回	実習ガイダンス 3　校務分掌	教職員の服務　生徒指導
第 7 回	実習ガイダンス 4　学校運営全体における情報科担当教員の役割	左記のとおり
第 8 回	教科指導　授業の事前準備の方法	年間計画と単元計画
第 9 回	教科指導　学習指導案の作成	副教材の作成方法
第 10 回	教科指導　学習指導案に即して	発問・板書・まとめ・考査の方法
第 11 回	教科指導　模擬授業の実施と検討	授業を演出する意味について
第 12 回	担任指導	生活・進路指導
第 13 回	ホームルーム指導の実際	生徒指導の実際例を引いてその効果的な指導方法などをまなぶ
第 14 回	特別活動の指導	HR や行事の教育的な効果について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高等学校学習指導要領　情報編

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導は、不合格の評価を受けると次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、
■授業への積極的参加、貢献度　30%
■課題（指導案等）の提出　40%
■授業計画のプレゼンテーション　30%

【学生の意見等からの気づき】
実際に授業ができる。
様々な局面における適切な生徒指導ができる。

【その他の重要事項】
・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、４月に実施される３年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
・７月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。
・この授業では、授業支援システムの利用を予定しています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This lecture serves as a barrier and hurdle for practical training in the next year. Therefore, please be aware in advance that attendance and submission of assignments will have to be treated very rigorously. In July, we will hold an orientation as the first class and present summer vacation assignments. Participation in the orientation is a condition of attendance.
【Learning Objectives】
Teamwork necessary for educational practice through the recognition and understanding of the weights and responsibilities of the training in various ways before the next year's training, and more specifically, by conducting mock lessons through group work. The goal is to learn and acquire the minimum requirements for studying teaching materials, creating lesson plans, and conducting teaching practice. ・ Submission and feedback of assignments will be carried out using the "learning support system".
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
■ Active participation in classes, 30% contribution
■ Submission of issues (guidance proposals, etc.) 40%
■ Presentation of lesson plans 30%

教育実習（高）

平塚　眞樹

配当年次／単位：**4 年次／ 3 単位**
開講時期：**年間授業**/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際の高等学校に赴き、教育実習生として 2 週間ないし 3 週間にわたり、授業、学級運営、課外活動指導などにあたる。

【到達目標】
教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して，「教育」の重要性・困難性，人間性（生徒）と接し，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には，①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む），②中学校・高等学校での実習，③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第 3 年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は，模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義、教育実習指導教員からの教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色，指導方針等の確認，指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習（2 週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後，実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	事後指導は，教育実習の体験を総括し，共有することで，今後教壇に立つための更なる課題を自覚することを目的とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する授業の授業案の作成など本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各プロセスで指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
実習校の採点を主とし，実習日誌の評価，実習後にまとめる実習リポートの採点および事後指導の結果を加味して，総合的に出される。なお，評価は，この両者を総合評価するが，それぞれに一定の基準を満たさなければ，教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】
該当しない

【Outline (in English)】
Course outline: This course is teaching practice in secondary schools for 2 or 3 weeks. Students will work on teaching, class management and extra curricular activities as trainees.
Learning Objectives : By experiencing a variety of the work of teachers in senior high schools, students are exposed to the importance and difficulties of education and the humanity of students, and develop the basic competencies of future teachers and establish their responsibility and awareness.
Learning activities outside of classroom : Students are expected to prepare lesson plans for your classes. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policy : Students will be graded comprehensively, mainly by the score by the school of educational training, but also by taking into account the evaluation of its diary, its reports, and the post-training guidance. If you do not meet certain standards for each of these, you will not receive credit.

教職実践演習（中・高）

小嶋　常喜

配当年次／単位：**4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、以下のいくつかの観点から、将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、４年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】
①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化、
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、
④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定、
⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能 (ICT の活用を含む) 向上、
の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、最終報告 (プレゼンテーションや報告) の発表会などによって構成されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	本講義の目標と性格について	本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポート (1500 字程度) の提出（あるいはその指示）。 ②本「演習」の期末課題に関する説明。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
2	①各自のふりかえり交流（１回目） ②期末課題のテーマ登録	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
3	各自のふりかえり交流（２回目）	前回に引き続き、提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行い、そのまとめを踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する
4	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	教育実習に向けて準備をしている 3 年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3 年生との応答をおこなう。(グループ分けによって多くの学生の報告を可能にする)
5	①「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐる講義ならびにグループディスカッションのテーマの起案 ②　期末課題の計画書提出	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
6	グループディスカッション①	グループディスカッションに向けた準備作業。
7	グループディスカッション②	「教科教育」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論
8	グループディスカッション③	「生徒指導・学校・学級運営」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論
9	期末課題製作作業①	第 12 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
10	期末課題製作作業②	第 13 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
11	期末課題製作作業③	第 14 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
12	期末課題発表会①	成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。以下第 13 回、14 回も同様。
13	期末課題発表会②	期末課題発表会②
14	期末課題発表会③	期末課題発表会③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリエンテーション時に提示した課題への取り組み
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しない

【参考書】
必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】
教職実践演習は通常の評価をおこないます。実習教科ですので、評価にあたっては、出席、授業への積極的参加・発言、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。評価の割合と基準は以下の通りです。
(1) 教育実習後レポート（20%）：教育実習を基本的な振り返りができたか。
(2) 授業内での発表・取り組み（40%）：自らの実習体験を 3 年生に有用な形で伝えることができたか。
(3) 修了作品（40%）：教育実習の成果と課題をまとめることができたか。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業への相互の講評を今後も大事にしたい。動画撮影した 3 年生のすべての模擬授業について、オンラインで講評・アドヴァイスできる環境を整備する。

【学生が準備すべき機器他】
対面での授業参加が基本となるが、課題提出のために学習支援システムを利用する。また、様々な状況に対応しかつより充実した授業にするために、会議システム (Zoom) や Google Classroom を使っての取り組みに対応できる環境があることが望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.
【Learning Objectives】
1 To enhance class planning and practical teaching skills in school.
2 To enhance skills of conducting research and preparing teaching materials in the subject areas.
3 To understand students and their classes and schools.
4 To enhance their own motivation and to set their own targets to be educational professionals.
5 To enhance skills of communication with students and of presentation by using new information and communication technologies.
【Learning Activities outside of classroom】
You will be expected to provide necessary information and advices based on your experiences with 3rd year students so that the 3rd year students can conduct their mock classes successfully. You also will be expected to complete and submit a final report of teacher training course.
【Grading Criteria】
Your overall grade in the class will be decided on the following
Short Report expected to submit just after your teaching practice in school: 20%
Contribution in the class: 40%
Final report: 40%

教育実習（中・高）

平塚　眞樹

配当年次／単位：**4 年次／ 5 単位**
開講時期：**年間授業**/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際の中学校・高等学校に赴き、教育実習生として 2 週間ないし 3 週間にわたり、授業、学級運営、課外活動指導などにあたる。

【到達目標】
教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して，「教育」の重要性・困難性，人間性（生徒）と接し，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には，①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む），②中学校・高等学校での実習，③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第 3 年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は，模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義、教育実習指導教員からの教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色，指導方針等の確認，指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習（３週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後，実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	事後指導は，教育実習の体験を総括し，共有することで，今後教壇に立つための更なる課題を自覚することを目的とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する授業の授業案の作成など本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各プロセスで指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
実習校の採点を主とし，実習日誌の評価，実習後にまとめる実習リポートの採点および事後指導の結果を加味して，総合的に出される。なお，評価は，この両者を総合評価するが，それぞれに一定の基準を満たさなければ，教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】
該当しない

【Outline (in English)】
Course outline :This course is teaching practice in secondary schools for 2 or 3 weeks. Students will work on teaching, class management and extra curricular activities as trainees.
Learning Objectives : By experiencing a variety of the work of teachers in junior and senior high schools, students are exposed to the importance and difficulties of education and the humanity of students, and develop the basic competencies of future teachers and establish their responsibility and awareness.
Learning activities outside of classroom : Students are expected to prepare lesson plans for your classes. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policy : Students will be graded comprehensively, mainly by the score by the school of educational training, but also by taking into account the evaluation of its diary, its reports, and the post-training guidance. If you do not meet certain standards for each of these, you will not receive credit.

教職実践演習（中・高）

平塚　眞樹

配当年次／単位：**4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、教職の仕事を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】
①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
④教育職に向けた教育観の深化
⑤コミュニケーションと ICT の活用含めたプレゼンテーション技能の向上
の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式でおこない、本授業の期末課題の成果作成グループ学習、次年度教育実習予定者への経験報告や模擬授業づくりのアドバイス、ICT を活用した成果プレゼンテーションなどによって構成されます。授業内で出された質問にはその都度応え、プレゼンテーションに対してその都度フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	①本講義の目標と性格について――本講義の性格、課題、到達目標の確認②本「演習」の期末課題に関する説明	「教職課程履修のリフレクション」レポートの提出指示。期末課題「教職課程履修をふりかえり後輩に伝えるデジタル・ストーリーテリング」制作に関する説明
第 2 回	①各自のリフレクション交流（1 回目）②期末課題のテーマ、タイトル仮登録	提出された「リフレクション」を素材に発表、交流を行う。期末課題のテーマ、タイトルの仮登録を行う。
第 3 回	各自のふりかえり交流（2 回目）	提出された「リフレクション」を素材にした発表、交流を深める。
第 4 回	次年度実習予定者に向けた教育実習経験報告	次年度教育実習予定者に対して、教育実習への準備、指導案作成、授業運営などの経験を伝える。
第 5 回	期末課題の企画書提出、報告、検討	「教職課程履修をふりかえり後輩に伝える「ストーリーテリング」課題の企画書を各自提出し相互に報告、検討する
第 6 回	期末課題準備	期末課題の中間報告に向けた準備作業を始める。
第 7 回	期末課題準備	期末課題の中間報告に向けた準備作業をまとめる
第 8 回	期末課題中間報告・検討①	期末課題の中間報告を行い、完成に向けた検討をおこなう
第 9 回	期末課題中間報告・検討②	期末課題の中間報告を行い、完成に向けた検討をおこなう
第 10 回	期末課題提出準備	ICT の活用含めて期末課題の完成に向けた準備をおこなう
第 11 回	期末課題提出準備	ICT の活用含めて期末課題の完成に向けた準備をおこなう
第 12 回	期末課題発表・批評会	完成した期末課題の発表会をおこない、次年度教育実習予定者含めた相互批評をおこなう
第 13 回	期末課題発表・批評会	完成した期末課題の発表会をおこない、次年度教育実習予定者含めた相互批評をおこなう
第 14 回	期末課題の発表まとめ、課題提出	期末課題発表会をふりかえり、本授業のまとめめをおこない、期末課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・7 月に実施するオリエンテーションへの参加
・期末課題の作成時の、ICT の活用、必要に応じたフィールドワーク活動。
・次年度教育実習予定者のクラス（数回参加）、模擬授業作成プロセスにおける後輩の支援・指導。
上記含めて、本授業の準備学習・復習時間は最低限各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・特に指定しません。毎回必要文献、資料など指定、あるいは配布します。

【参考書】
・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】
①期末課題とその発表に対する評価、②演習への積極的参加と貢献を総合的に評価します。最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。平常点 50 %、期末課題 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんとのインタラクティブな授業にて、毎回のやりとりから、授業の進行を都度見直すことができ、とてもありがたいと思っています。

【その他の重要事項】
上記以外に別途、次年度教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」クラス並びに、同クラスにおける模擬授業づくりプロセスへの各自数回参加・サポートをおこなう。

【Outline (in English)】
Course outline : The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.
Learning Objectives : (1) Deepening of lesson planning in the school setting, (2) Understanding on specialist subjects and development of teaching materials, (3) Understanding of children and class/school, (4) development the educational perspective for the teaching profession (5) Improvement of communication and presentation skills, including the use of ICT.
Learning activities outside of classroom : Students are required to have study time for this class is 2 hours each, including participation in the orientation, use of ICT and fieldwork activities as necessary, and support and guidance for junior students.
Grading Criteria /Policy : The final assessment is based on the following criteria: (1) evaluation of the final project and its presentation, and (2) active participation and contribution to the class. For the final assessment, an individual assessment interview may be held if necessary. Ordinary points 50%, final assignment 50%.

教職実践演習（中・高）

御園生　純

配当年次／単位：4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、将来の教育専門職に相応しい知識、技能などの理解を深め、4年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。情報倫理や ICT（情報通信技術）の日常生活への援用のための方法を理解します。

【到達目標】
学習の目標は以下の通りです。
①学校現場における授業づくりの実践力量の深化、
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
③生徒理解や学級・学校運営に関する実践力量の深化、
④教育職に関する理解の深化と各自の目標の設定、
⑤教育専門職としての他者との関わり・自己表現の深化、
⑥情報通信技術（ICT）の基礎的理解と活用の実際

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同学習、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、期末報告の発表会などによって構成されます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス　本講義の目的と位置づけ	①本講義の性格、課題、到達目標の確認。②本演習の期末課題に関する説明。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
2	教職課程のふりかえり交流（１回目）	これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、報告と討論を行う。
3	教職課程のふりかえり交流（２回目）	前回の報告と討論を踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する。
4	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	次年度教育実習予定者に対して、教育実習への準備の在り方、授業づくりのあり方、実習授業の展開などを伝える。
5	グループディスカッションに向けた準備作業。	これからの教職実践の問い（授業づくり、生徒理解）を出し合い、グループディスカッションのテーマを決め、準備をおこなう。
6	グループディスカッション①	「授業づくり」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるディベート形式の討論。
7	グループディスカッション②	「生徒理解」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるディベート形式の討論。
8	期末課題のテーマの起案と計画書の提出	期末課題の計画書を作成・提出する
9	期末課題製作作業①	第 12 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
10	期末課題製作作業②	第 13 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
11	期末課題製作作業③	第 14 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
12	期末課題発表会①	完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者など教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、コメントを受ける。
13	期末課題発表会②	各自の発表に対する講評と問題点や改善点の抽出。
14	期末課題発表会③	前回の授業を踏まえて加筆修正した最終課題の再発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・７月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。
・期末課題の作成には、グループワークが必要になります。
・次年度教育実習予定者のクラスに何度か参加して、後輩の支援・指導にあたります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・特に指定しません。必要に応じて、文献や資料などを指定あるいは配布します。

【参考書】
・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
・教育実践記録（講義の最初に提示します）
・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度）　２０％
授業指導案　４０％
模擬授業　　４０％

【学生の意見等からの気づき】
現時点では特にありませんが、授業期間の途中でも、積極的な意見を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
この授業では授業支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】
７月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。

【授業中に求められる学習活動】
学生がつくる授業ですので授業への積極的な参加が要求されます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class is a course that deepens the understanding of knowledge and skills suitable for future education professions, and completes the course of teaching profession at the university for 4 years. Understand information ethics and methods for applying ICT (Information and Communication Technology) to daily life.
【Learning Objectives】
The learning goals are as follows:
① Deepening the practical ability of class making at school sites, (② Deepening the ability to create educational research and teaching materials in specialized subject areas, ③ Deepening of practical skills related to student understanding and class / school management, ④ Deepening understanding of educators and setting their own goals, ⑤ Relationship with others as an education profession ・ Deepening self-expression, ⑥ Practical understanding and utilization of information and communication technology (ICT)
【Learning activities outside of classroom】
・ The orientation will be held in July, so please be sure to participate. ・ Group work is required to create term-end assignments. ・ Participate in the classes of those who are planning to practice next year several times to support and instruct juniors. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
degree of participation in class 20%
Lesson Guidance 40%
Simulated classes 40%

教職実践演習（中・高）

髙橋　繁

配当年次／単位：**4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、４年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】
①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
④教育職に向けた教育観の深化
⑤コミュニケーションと ICT の活用を含めたプレゼンテーション技能の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、期末課題の発表会などによって構成されます。授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。課題に対する講評と解説は、授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①本講義の概要説明。「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポートの提出の指示。②本演習の期末課題に関する説明。
第 2 回	各自のふりかえり交流	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
第 3 回	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	３年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などをＩＣＴを活用して伝え、応答をおこなう。
第 4 回	「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐるグループディスカッションのテーマの起案。	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
第 5 回	グループディスカッション準備	ディスカッションに向けた準備。
第 6 回	グループディスカッション①	「教科教育」を通した専門職性をめぐる討論。テーマは、「主体的対話的で深い学び」「ＩＣＴの活用」など。
第 7 回	グループディスカッション②	「生徒指導・学校・学級運営」を通した専門職性をめぐる討論
第 8 回	期末課題製作作業①	第 11 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこなう。
第 9 回	期末課題製作作業②	第 12 回発表予定者は中間報告
第 10 回	期末課題製作作業③	第 13 回発表予定者は中間報告
第 11 回	期末課題発表会①	期末課題の発表会。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。
第 12 回	期末課題発表会②	前回に続き、期末課題の発表を行う。
第 13 回	期末課題発表会③	前回に続き、期末課題の発表を行う。あわせて、後期に教育実習を行った学生の報告も行う。
第 14 回	まとめ	これまでの授業をふりかえるとともに、課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・７月にオリエンテーションを行いますので必ず参加下さい。
・期末課題の作成には、学外でのフィールドワークなど課外活動が必要になります。
・教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」に数回参加して、模範授業の実施、後輩の模擬授業づくりへのサポートをおこないます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
・必要文献、資料などを適宜指定、紹介、あるいは配布します。

【成績評価の方法と基準】
①期末課題とその発表・報告に対する評価（50 %）②演習への参加と積極的な役割の遂行や討論への参加状況（40 %）③レポート課題（10 %）を総合的に勘案して評価をおこないます。なお、最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションなどを通して、目標がより深化するよう努めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
この授業では学習支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline : The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.
Learning Objectives : (1) Deepening of lesson planning in the school setting, (2) Understanding on specialist subjects and development of teaching materials, (3) Understanding of children and class/school, (4) development the educational perspective for the teaching profession (5) Improvement of communication and presentation skills, including the use of ICT.
Learning activities outside of classroom : Students are required to have study time for this class is 2 hours each, including participation in the orientation, use of ICT and fieldwork activities as necessary, and support and guidance for junior students.
Grading Criteria /Policy : The final assessment is based on the following criteria: (1) evaluation of the final project and its presentation, and (2) active participation and contribution to the class. For the final assessment, an individual assessment interview may be held if necessary. Ordinary points 50%, final assignment 50%.

日本史 A

岩橋　清美

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史の調べ方、歴史的なものの見方や考え方を養うことをめざす。教科書の記述のもとになった学説を取り上げ、関連史料を読み解きながら、日本史の大きな流れを把握するとともに、歴史を学ぶ意義を考える。

【到達目標】
日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。具体的には、先行研究や関連文献・史料を読み解きながら歴史像を構築できるようになる。指導案（教案）作成に必要な知識やスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、政治史を中心としながら、国際環境や地理的条件などと関連づけながら講義する。各時代の特色とその変遷の総合的な考察を通じて日本社会の特質を考える。授業は講義を中心に進め、基本的な知識の習得につとめるとともに、近年の日本史研究の成果も紹介し、より専門的な事柄についても学ぶ。史料や文献の調べ方、読み方、および文献・史料に基づいて歴史像を構築する力を養うために、授業中に、適宜、史料を提示し、解読を行う。毎回、リアクションペーパーを提出してもらう。毎回、授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのいくつかを紹介し、意見交換を行う。課題提出および課題に対するフィードバックには学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	本授業のガイダンス・無文字社会の特質	授業の進め方／「歴史総合」・「日本史探究」が目指すもの／日本列島への人類の到来／遺跡から見た旧石器時代／遺跡から見た縄文時代／地域間ネットワーク
2	古墳の創出と展開	鉄がもたらす社会の変化／古墳を読み解く／副葬品が意味するもの／巨大古墳はなぜつくられたのか
3	律令国家の成立と展開	乙巳の変／壬申の乱と天皇権力の高まり／大宝律令と古代官僚制／地方行政と民衆の負担／「大化の改新」の評価をめぐって
4	摂関政治と地方の争乱	摂関政治の成立と構造／地震・噴火・洪水の脅威／東国の自立と武士の成長
5	鎌倉幕府と中世国家	東国国家の成立／幕府と御家人／承久の乱／執権政治の確立
6	織豊政権	太閤検地／刀狩令／自検断権と自力救済権／惣無事令
7	東アジアと近世社会	「鎖国」とは？ ／通商国オランダ・中国／通信国朝鮮／琉球と蝦夷／日本型華夷秩序の成立
8	近世社会の成熟	人命尊重から見た近世社会/綱吉政権と捨子政策/吉宗と医療情報/寛政改革と町会所
9	グローバルヒストリーで読み解く幕末	ペリー来航／日米情報比較/戊辰戦争と西洋列強/シュネル兄弟と東北諸藩
10	近代国家の成立	近世国家の解体/国民の形成/憲法制定と国会開設/日清・日露戦争
11	第一次世界大戦と日本	大正政変／政党政治の成立／ワシントン体制と協調外交
12	満州事変から日中戦争へ	満蒙権益をめぐる外交戦略と認識の相違/満州事変/国連脱退の経緯/盧溝橋事件
13	アジア・太平洋戦争	開戦当時の世論/開戦決定の背景/戦局の展開/戦争の諸相
14	占領から国際社会への復帰	占領政策/日本国憲法制定をめぐる動き/サンフランシスコ条約と日米安全保障条約

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①レポートの作成。
②授業中に提示した参考文献に目を通しておくこと。
③図書館や博物館などを利用して史料を収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成にむけた準備を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、学習支援システムに資料と授業の内容（講義内容をまとめたもの・レジメ）をアップしておきますので、必ず確認して下さい。

【参考書】
『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館、2003～2004 年）、歴史科学協議会編『歴史の「常識」をよむ』（東京大学出版会、2015 年）、歴史教育者協議会編『日本社会の歴史』上・下（大月書店、2012 年）、『岩波講座　日本歴史』全 22 巻（岩波書店、2013～2015 年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験　６０％
課題レポート提出　３０％
平常点　　１０％

【学生の意見等からの気づき】
日本史の専門用語や学説について、できるだけ、わかりやすい説明を行います。
基本的な文献の探し方、教案（授業案）作成に必要な文献についても紹介します。

【その他の重要事項】
本授業は教職課程を履修している学生を対象にしていますが、日本史・歴史学に興味のある学生を歓迎します。

【Outline (in English)】
We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

日本史Ｂ

岩橋　清美

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は中学校社会科・高等学校地理歴史の教員を目指すにあたり、必要な専門的知識の習得と諸資料を用いて歴史像を構築する力を養うことを目的とする。教科書記述のもとになった学説および近年の新しい研究成果を紹介しながら、日本史の大きな流れを把握するとともに、歴史を学ぶ意義を考える。

【到達目標】
日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。
先行論文や諸資料などを読み解きながら歴史像を構築できるようになる。
大きな歴史の流れを理解すると同時に、各時代の特質をとらえられるようになる。指導案（教案）作成に必要な知識やスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、社会経済史・文化史を中心にしながら国際環境や地理的条件などと関連づけながら考える。各時代の特色とその変遷の統合的な考察を通じて、日本の伝統文化の形成過程を学ぶ。教科書記述の基盤となっている学説の紹介、さらには近年の新しい研究成果も取り上げ、一つの歴史事実に対して様々な見方や考え方があることを学ぶ。また、文献史料だけではなく、絵画や地図・写真などを用いて文化財・文化遺産に関する理解を深める。毎回、リアクションペーパーを提出してもらう。毎回、授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのいくつかを紹介し、意見交換を行う。課題提出および課題に対するフィードバックは学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・日本文化の黎明	授業の進め方/「歴史総合」・「日本史探究」がめざすもの/縄文土器が示す心性/鉄の需要と社会の変化/古墳の発生
2	律令国家と天平文化	7～9 世紀の東アジア情勢と遣唐使／正倉院宝物にみる東西交流
3	摂関政治と国風文化	災害と疫病/神仏習合/末法思想
4	中世社会と民衆	百姓の権利/紀伊国阿弓河荘民の訴状に見る村社会/「一遍上人絵伝」にみる都市の賑わい/女性と子ども
5	室町幕府と東アジア	前期倭寇と明の海禁/室町幕府と朝鮮・明との外交/足利義満の「日本国王」冊封/足利義教の遣明船再興/大内氏の貿易独占/琉球と蝦夷ヶ島
6	村から見た戦国の争乱	『雑兵物語』が伝える戦場/商人と情報操作/百姓の平和/刀狩令/喧嘩停止令/海賊停止令
7	村から見た近世社会	百姓は農民か？ /山村の暮らし/漁村の暮らし/物流ネットワークの拡大
8	都市から見た近世社会	巨大都市「江戸」/町役人と町の運営/町会所の設置
9	幕末の民衆文化	メディアが伝える民衆の心性/安政江戸大地震と鯰絵/コレラ・麻疹の流行と錦絵/世直しの思想
10	国民国家の形成	近代国民国家とは？ /文明開化と殖産興業/教育の普及/立憲制と近代天皇制
11	戦間期の日本	大戦景気と恐慌/都市と農村/関東大震災
12	アジア・太平洋戦争	兵士たちの戦争/勤労動員日誌にみるこどもたち/満州開拓民の暮らし/「加害」に実態
13	占領期の日本	民主化政策の諸相/生活の混乱と闇市/言論・思想の民主化
14	高度経済成長の時代	朝鮮特需と経済復興／高度経済成長／大衆消費社会の出現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①レポートの作成
②授業時に提示した参考文献に目を通しておくこと。
③図書館等を利用して史料の収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成に向けた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムに資料と授業の内容（講義内容をまとめたもの・レジメ）をアップしておきますので、確認してください。

【参考書】
『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館、2003～2004 年）、歴史科学協議会編『歴史の「常識」を読む』（東京大学出版会、2015 年）、歴史教育者協議会編『日本社会の歴史』上・下（大月書店、2012 年）、『岩波講座　日本歴史』全 22 巻（岩波書店、2013～2015 年）。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　６０％
課題レポート提出　３０％
平常点　１０％

【学生の意見等からの気づき】
歴史学の専門用語や研究史等で難解なものがあるので、わかりやすく説明します。
文献や史料の探し方について指導し、教案（授業案）作成にむけた知識とスキルの習得をめざします。

【その他の重要事項】
本授業は教職課程を履修している学生を対象にしていますが、日本史・歴史学に興味を持っている学生を歓迎します。

【Outline (in English)】
We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

世界史 A

阿曽　歩

サブタイトル：**外国史 A**
配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、中学校・高等学校の授業を念頭に、世界の歴史を学ぶことの意義、方法、そして楽しさについて受講生と共に考える。また、2022 年から新たに始まった「歴史総合」と「世界史探究」においては、自らが主体となり「問い」を考えることが重要となる。そのため、史料（映像含む）を用いた世界史教育の方法や史料の読解スキル、映像を利用する際に必要なメディアリテラシーについても実践的に学ぶ。今学期は「世界史における人やモノの移動」を軸に近代までの政治・社会・経済の変化、思想・文化の展開を中心に学ぶ。

【到達目標】
　この授業は、高校新学習指導要領を踏まえ、歴史的思考力を養う歴史教育の方法を身につけることを目標とする。具体的には、（1）歴史への関心を引き出す方法、（2）史料を使った歴史教育の方法、（3）世界史の大きな流れの理解、の３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とディスカッションの組み合わせで進める。各回ごとにあらかじめ史料を配布し、新科目「歴史総合」と「世界史探究」を念頭に、史料の読解・解釈を中心に進める。出席確認を兼ねて、毎回、リアクション・ペーパーの提出を求める。リアクション・ペーパーへのフィードバックは、次回授業時に口頭で行う。
講義とは別に、小レポート課題２本と映画評の提出を課す。それぞれ、授業内でグループに分かれての発表を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明。
第 2 回	歴史教育の移り変わり	「世界史」科目の変遷と新学習指導要領の理念について。
第 3 回	史料から考える世界史	史料を使った世界史教育の方法について。
第 4 回	歴史認識とは何か	映画鑑賞。歴史の捉え方について。
第 5 回	大航海時代以前の世界	各地における様々な交易。
第 6 回	大航海時代の始まり	「世界の一体化」とアメリカ大陸。
第 7 回	アジアにおける交易	ポルトガルによる香辛料貿易。
第 8 回	近世ヨーロッパと宗教	宗教改革とイエズス会の海外伝道。
第 9 回	近世ヨーロッパと戦争	主権国家体制の成立、オランダの独立とイギリスの海外進出。
第 10 回	オランダの覇権	オランダ東インド会社による香辛料貿易。
第 11 回	人の移動と病	感染症と医学の発展。
第 12 回	科学革命と啓蒙主義	科学技術の発展と啓蒙思想家の活動。
第 13 回	近代以前の家族・女性・子ども	ヨーロッパとアジアの比較。
第 14 回	まとめ（小レポート発表）	今学期の内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として、あらかじめ配布した史料を読み込み、授業でのディスカッションに備えておくことが求められる。また、授業前後に高校で使用した世界史教科書もあわせて読んでおくことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。適宜配布する。

【参考書】
・各自の高等学校世界史教科書
・小川幸司ほか編『岩波講座　世界歴史 01　世界史とは何か』岩波書店、2021 年
・金沢周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年
・北村厚『教養のグローバル・ヒストリー　大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018 年
・南塚信吾、秋田茂、高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史　アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年
・歴史学研究会編『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年
・歴史学研究会編『「歴史総合」をつむぐ　新しい歴史実践へのいざない』東京大学出版会、2022 年
・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学』ミネルヴァ書房、2022 年
その他、授業内でその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
（1）授業への取り組み（ディスカッションへの参加、リアクション・ペーパー含む） 60%（2）小レポート 30%（3）映画評 10%。なお、期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
高校で世界史を履修していない受講者にも配慮して授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で学習支援システムを使用する場合があるので、ノートパソコンやタブレットなどの持参を推奨する。

【その他の重要事項】
（1）この授業は教職資格取得を目指す学生を対象とするが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎する。
（2）この授業では出席を重視する。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡すること。やむを得ない場合は、事後でも可。
（3）秋学期開講の「世界史 B」も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】
【Course outline）】
The purpose of this class is to think and learn together with the students about (1) the significance, (2) the methods, (3) the fun of studying world history.
【Learning Objectives】
The course aims to enable students to:
(1) how to draw out students' interest in history,
(2) how to use historical documents in history education,
(3) how to understand the major trends in world history.
【Learning activities outside of classroom】
240 minutes per week.
【Grading Criteria /Policy】
(1) Class work (including response sheets): 60% (2) Film comments: 10%
(3) Small reports: 30%.

世界史Ｂ

阿曽　歩

サブタイトル：**外国史Ｂ**
配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、中学校・高等学校の授業を念頭に、世界の歴史を学ぶことの意義、方法、そして楽しさについて受講生と共に考える。また、2022 年から新たに始まった「歴史総合」と「世界史探究」においては、自らが主体となり「問い」を考えることが重要となる。そのため、史料（映像含む）を用いた世界史教育の方法や史料の読解スキル、映像を利用する際に必要なメディアリテラシーについても実践的に学ぶ。今学期は「世界史における日本」を軸に近代以降の世界史の中に日本を位置づけながら、人の移動、人種、ジェンダー、歴史認識などの視点から世界各地の政治・社会・経済の変化、思想・文化の展開を中心に学ぶ。

【到達目標】
この授業は、高校新学習指導要領を踏まえ、歴史的思考力を養う歴史教育の方法を身につけることを目標とする。具体的には、（1）歴史への関心を引き出す方法、（2）史料を使った歴史教育の方法、（3）世界史の大きな流れの理解、の３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とディスカッションの組み合わせで進める。各回ごとにあらかじめ史料を配布し、新科目「歴史総合」と「世界史探究」を念頭に、史料の読解・解釈を中心に進める。出席確認を兼ねて、毎回、リアクション・ペーパーの提出を求める。リアクション・ペーパーへのフィードバックは、次回授業時に口頭で行う。
講義とは別に、小レポート課題２本と映画評の提出を課す。それぞれ、授業内でグループに分かれての発表を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明。
第 2 回	「世界史」科目の誕生と新学習指導要領	「世界史」科目の変遷と新学習指導要領の「歴史的思考力」について。
第 3 回	「グローバルヒストリー」とは何か	グローバル・ヒストリーの視点で歴史を考える。
第 4 回	世界史における近代・現代	時代区分について。
第 5 回	国民とは誰か？	国民国家の誕生と「国民意識」。
第 6 回	アメリカ合衆国の発展	アメリカ大陸への様々な移民。
第 7 回	アジアの植民地化	ヨーロッパの進出と東南アジア、南アジア、東アジア。
第 8 回	帝国主義の展開	アフリカの植民地化と人種主義。
第 9 回	日本から世界への眼差し	明治維新後の日本、日清・日露戦争、韓国併合。
第 10 回	映画鑑賞	映画「未来を花束にして」（2015）。
第 11 回	女性の活動領域の拡大	第一次世界大戦、女性参政権運動。
第 12 回	さまざまな民族運動	民族運動、ナチス、優生学。
第 13 回	戦争と平和を考える	第二次世界大戦。
第 14 回	まとめ（小レポート発表）	今学期の内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として、あらかじめ配布した史料を読み込み、授業でのディスカッションに備えておくことが求められる。また、授業前後に高校で使用した世界史教科書もあわせて読んでおくことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。適宜配布する。

【参考書】
・各自の高等学校世界史教科書
・小川幸司ほか編『岩波講座　世界歴史 01　世界史とは何か』岩波書店、2021 年
・金沢周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年
・北村厚『教養のグローバル・ヒストリー　大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018 年
・北村厚『20 世紀のグローバル・ヒストリー　大人のための現代史入門』ミネルヴァ書房、2021 年
・木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波書店、2014 年
・南塚信吾、秋田茂、高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史　アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年
・歴史学研究会編『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年
・歴史学研究会編『「歴史総合」をつむぐ　新しい歴史実践へのいざない』東京大学出版会、2022 年
・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学』ミネルヴァ書房、2022 年
その他、授業内でその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
（1）授業への取り組み（ディスカッションへの参加、リアクション・ペーパー含む） 60%（2）小レポート 30% （3）映画評 10%。なお、期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
高校で世界史を履修していない受講者にも配慮して授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
（1）この授業は教職資格取得を目指す学生を対象とするが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎する。
（2）この授業では出席を重視する。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡すること。やむを得ない場合は、事後でも可。
（3）春学期開講の「世界史 A」も履修することを推奨する。
（1）この授業は教職資格取得を目指す学生を対象とするが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎する。
（2）この授業では出席を重視する。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡すること。やむを得ない場合は、事後でも可。
（3）春学期開講の「世界史 A」も履修することを推奨する。

【その他の重要事項】
（1）この授業は教職資格取得を目指す学生を対象とするが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎する。
（2）この授業では出席を重視する。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡すること。やむを得ない場合は、事後でも可。
（3）春学期開講の「世界史 A」も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to think and learn together with the students about (1) the significance, (2) the methods, (3) the fun of studying world history.
【Learning Objectives】
The course aims to enable students to:
(1) how to draw out students' interest in history,
(2) how to use historical documents in history education,
(3) how to understand the major trends in world history.
【Learning activities outside of classroom】
240 minutes per week.
【Grading Criteria /Policy】
(1) Class work (including response sheets): 60% (2) Film comments: 10% (3) Small reports from the textbook: 30%.

人文地理学Ⅰ

濱田　博之

サブタイトル：**人文地理学A**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では中学社会および高校地歴の地理的分野を学ぶにあたって基本となる、地図に関する知識や技能の習得を目標とする。

【到達目標】
中学校や高等学校における「地理」は地図の利用が前提とされており、指導にあたっては地図に関する深い造詣が求められる。本講義では読図など地図の利用に関する技能のみならず、地図利用の意義を歴史的な経緯を含め深く学んでいく。さらに統計資料などをもとに地図を作成し地域理解に利用する手法や、情報通信ネットワークや GIS（地理情報システム）等の活用が重視されている現状から、これらの技術的な概説と利用についても触れていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は教室での講義を基本とし、毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める。学期末にはまとめとして試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	中学校・高等学校における地理の指導と地図活用の現状
2	方向感覚と空間認知	人間や他の動物における原始的なナヴィゲーション
3	地図の原理Ⅰ	緯度経度や時差など地球上での位置決定における基礎事項
4	地図の原理Ⅱ	球体である地球を平面で表現するのに用いられる地図投影法
5	地図の歴史Ⅰ	古代ギリシア〜ルネサンス期の主にヨーロッパにおける地球観と地図
6	地図の歴史Ⅱ	仏教の影響を強く受けた室町時代以前の日本における地球観と地図
7	地図の歴史Ⅲ	主に江戸幕府による地図作成事業と庶民の間に流布した地図
8	測量技術の発展Ⅰ	三角測量に代表される近現代の測量とそれにより作成された地図
9	測量技術の発展Ⅱ	航空機や人工衛星を用いることで正確さを増した現代の測量技術
10	地図とコンピュータⅠ	GIS に関する技術的な概説と実生活における利用
11	地図とコンピュータⅡ	主に教育現場における GIS 活用の利点と実践事例
12	国家の領域Ⅰ	地図を用いることで決定される国家の領域と現代の国際関係
13	国家の領域Ⅱ	日本の国土の範囲と周辺に存在する領土問題
14	まとめと試験	これまでの内容の復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は求めない。毎講義ごとに前回の復習を簡単に行うが、理解を深めるためにも、各自が積極的に復習をしてほしい。本授業の復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
地図の歴史については、織田武雄『地図の歴史 世界編・日本編』講談社現代新書などが参考となる。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー (50%)、学期末の試験 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】
教育現場等における地図やコンピュータの活用について、実際の事例を紹介していきたい。

【Outline (in English)】
This course deals with cartography.
The goal of this course is to provide students with an understanding of cartographic techniques and the history of maps, as well as a basic knowledge of GIS.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%.

人文地理学Ⅱ

濱田　博之

サブタイトル：**人文地理学B**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では人間が活動するにあたって欠かせない様々な資源を切り口として、地域の概況や諸課題について明らかにしていく。

【到達目標】
世界各地の人間活動の地域性についての理解を深めることを目標とする。ただし単に地域ごとにその特徴をみていくのではなく、様々な資源を切り口として、その偏在性やそのメカニズム、そこから派生する経済活動などについて多角的に検討していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は教室での講義を基本とし、毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める。学期末にはまとめとして試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	資源についての概説
2	エネルギー資源Ⅰ	石炭からみた地域
3	エネルギー資源Ⅱ	石油からみた地域
4	エネルギー資源Ⅲ	ウランからみた地域
5	エネルギー資源Ⅳ	電力からみた地域
6	鉱産資源Ⅰ	鉄からみた地域
7	鉱産資源Ⅱ	銅からみた地域
8	鉱産資源Ⅲ	金からみた地域
9	鉱産資源Ⅳ	レアメタルからみた地域
10	その他の資源Ⅰ	木材からみた地域
11	その他の資源Ⅱ	砂からみた地域
12	その他の資源Ⅲ	塩からみた地域
13	その他の資源Ⅳ	水からみた地域
14	まとめと試験	これまでの内容の復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は求めない。毎講義ごとに前回の復習を簡単に行うが、理解を深めるためにも、各自が積極的に復習をしてほしい。本授業の復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
中藤康俊・松原宏編著 (2012)『現代日本の資源問題』古今書院

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー (50%)、学期末の試験 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】
我々の生活など、身近な視点との関連について注意を払いながら、それぞれの資源の特性などについて紹介していきたい。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire regional issues with a focus on resources.
The goals of this course are to provide an overview of various natural resources and an understanding of the regional problems they cause.
Students are expected to have completed the required assignments after each class. Study time will be a minimum of 4 hours per class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%.

自然地理学Ⅰ

山川　信之

サブタイトル：**自然地理学A**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中学校課程および高校課程で扱う自然地理学分野について学習する。自然地理学は、自然環境の諸要素である地形、気候、植生、土壌の成り立ちを明らかにする学問である。その中から自然地理学Ⅰでは、おもに気候と気候に関連した土壌および植生帯について学習する。また、気象災害にも目を向け、防災に対する意識を身に着ける。

【到達目標】
以下の 3 点を到達目標とする。
①中学課程および高校課程の自然地理的分野の学習指導に対応できる知識と能力を身につける。
②気候の成り立ちと世界及び日本の気候環境に関する基本的な知識を身につける。
③自然地理学的立場から防災や減災についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教員による講義を中心とする。講義では学習資料とパワーポイントを使いながら毎回の講義内容の基礎知識や重要事項の整理を行う。学習資料は、学習支援システムの教材欄にアップする。毎回配布する学習資料はワークシートになっているのでフィードバックとして次回の学習資料にて解説と解答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自然環境の捉え方	ガイダンスとしてさまざまな自然景観や自然現象を取り上げ、それがどのようにして成り立っているのかについて学習する。それにより自然環境は、一つの要素だけで成り立っているのではなく、様々な要素から成り立っていることを理解する。
2	気候の成り立ち	気温、降水量、風という気候要素に対し、緯度や隔海度、標高、海流、地形などの気候因子にどのような影響を及ぼすかについて学習する。それによりさまざまな気象現象や気候が生じることを理解する。
3	ケッペンの気候区分と気候区分の基本的な考え方	中高の教育課程で用いられるケッペンの気候区分について学習する。それによりケッペンの気候区分の基本的な考え方として気温と降水量に加え、植生帯も気候区分の重要な指標になる事ことを理解する。
4	熱帯・乾燥帯の気候	熱帯および乾燥帯に属するさまざまな気候について学習する。それにより熱帯および乾燥帯の気温、降水量の分布とそれを規定する要因およびそれぞれの気候環境下でみられる自然の特色について理解する。
5	温帯・亜寒帯・寒帯の気候	温帯、亜寒帯および寒帯に属するさまざまな気候について学習する。それにより温帯、亜寒帯および寒帯の気候区の気温、降水量の分布とそれを規定する要因やそれぞれの気候環境下でみられる自然の特色について理解する。
6	日本の気候と気候区分	日本の気候と気候区分について学習する。それにより日本の気候の全般的な特色や各気候区の特色および日本の気候に影響を与える気団や気象現象について理解する。
7	気象災害	日本における台風、雪崩、集中豪雨などの気象災害について学習する。また、異常気象や都市気候についても言及する。それにより気象災害がどのようなメカニズムで発生するのかについて理解する。
8	第四紀の気候変動	第四紀に起きた氷河期や小氷期、亜間氷期の気候変動でどのような環境が生じたのかについて学習する。それによって現在の自然環境が、気候変動を経て成り立っていることを理解する。
9	土壌の形成過程	土壌の生成過程について学習する。それにより土壌の生成には基盤岩の風化だけでなく、生物的および化学的変質を受けながら層位に分化した土壌層を形成することを理解する。また、成帯土壌の生成過程では、気候や植物の影響が大きいことを理解する。
10	熱帯・乾燥帯の土壌	熱帯および乾燥帯に分布する成帯土壌と成帯内性土壌（間帯土壌）について学習する。それにより熱帯および乾燥帯に分布するさまざまな土壌の性質と特徴について理解する。
11	温帯・亜寒帯・寒帯の土壌	温帯、亜寒帯および寒帯に分布する成帯土壌と成帯内性土壌（間帯土壌）について学習する。それにより温帯、亜寒帯および寒帯に分布するさまざまな土壌の性質と特徴について理解する。
12	日本の土壌	日本に分布する土壌とその特質について学習する。それにより日本の土壌分布は、複雑な地形と多様な気候環境および異なる性質の母材によって規定されていることを理解する。
13	日本の植生帯	日本の植生帯とその成り立ちについて学習する。それにより日本の植生帯は気候環境に対応した水平分布と標高によって成り立つ垂直分布があることを理解する。
14	試験・まとめと解説	前期のまとめと理解度の確認として試験を行う。また、試験後にはフィードバックとして解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で配布する学習資料の最後に復習のためのワークがあるので、それを完成させる。フィードバックとして次回に配布する学習資料に解答と解説を掲載する。予習については、各回の授業の終わりに指示する。復習と予習に要する時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。教科書の代わりに毎回の授業で学習資料を配布し、学習資料に基づいて授業を行う。

【参考書】
「環境気候学」　吉野正敏・福岡義隆編著，東京大学出版会。
「最新気象百科」　ドナルド・アーレン, 丸善。
「日本の気候景観」増補版　青山高義他編，古今書院。
「日本気候百科」　日下博幸・藤部文昭編，丸善出版。
「気象・防災情報の見方と使い方」　平井信行，第一法規。
「自然地理学概論」　高橋日出夫・小泉武栄編著，朝倉書店
「土壌地理学序説」　松井健，築地書館

【成績評価の方法と基準】
①平常点 10 %
毎回の授業で配布する学習資料がワークシートになっています。出席は毎回取りますが、ワークシートを完成させることが平常点となります。
②中間課題 30 %
8 回目の講義あたりで、それまでの講義内容に基づいた中間課題を出します。
③試験 60 %
第 14 回目の授業ですべての授業内容を出題範囲とした試験を行います。試験終了後、フィードバックとして解答と解説を行います。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容に対する質問や要望がある場合は、出席票の裏面に書いてください。次回の授業の最初に回答します。

【学生が準備すべき機器他】
機器等の準備は必要ありませんが、高校で使用した地図帳があれば持参してください。

【その他の重要事項】
授業内容の構成から、前期の自然地理学Ⅰを受講した者は、後期の自然地理学Ⅱを合わせて受講することが望ましい。また、授業の展開によっては多少の授業計画の変更があることを了解してください。

【Outline (in English)】
In this class, students will learn about the physical geography fields of junior high school and high school courses. Physical geography is a discipline that landform, climate, vegetation, and soil, which are various elements of the natural environment. In physical geography I, students learn about soils and vegetation zones, which are mostly related to climate and climate. In addition, we will look at weather disasters and acquire awareness of disaster prevention.
The three goals to be achieved are as follows.
(1) Acquire the knowledge and ability to respond to learning guidance in the field of natural geography in junior high and high school courses.
(2) Acquire basic knowledge of the formation of topography and the natural environment of the world and Japan.

(3) To deepen understanding of disaster risk reduction and environmental conservation in the world and Japan from a physical geographical perspective.
Classes are conducted mainly by lectures by faculty members. In the lectures, learning materials and PowerPoint are used to organize the basic knowledge and important matters of each lecture content. The learning materials will be uploaded to the teaching materials column of the learning support system. The study materials distributed each time are worksheets, so we will explain and answer them in the next study material as feedback.
At the end of the study materials distributed in each class, there is a review work, so complete it. Post answers and explanations in the next study material as feedback. Instructions will be given at the end of each class, but study materials will be delivered by the day before the class, so be sure to read them as preparation. The standard time required for review and preparation is 2 hours each, for a total of about 4 hours.
The grading method is as follows.
(1) Normal point 10%
The study materials distributed in each class are worksheets. Attendance is required every time, but completing the worksheet is the usual goal.
(2) Interim issues: 30%
Around the eighth lecture, you will be given an intermediate assignment based on the content of the lecture so far.
(3) Test 60%
In the 14th class, we will conduct an examination with all class contents as the scope of the questions. After the exam, we will give you answers and explanations as feedback. However, depending on the status of the new coronavirus infection, we may switch to a report.
(4) Standards
As a general rule, we use the raw score standard (absolute evaluation) indicated by the university.

自然地理学Ⅱ

山川　信之

サブタイトル：**自然地理学Ｂ**
配当年次／単位：**2～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中学校課程および高校課程で扱う自然地理学分野について学習する。自然地理学は、自然環境の諸要素である地形、気候、植生、土壌の成り立ちを明らかにする学問である。その中から自然地理学Ⅱでは、おもに地形の成り立ちについて学習する。また、地震や火山による災害、環境破壊にも目を向け、防災や環境問題に対する意識を身に着ける。

【到達目標】
①中学および高校課程における自然地理的分野の学習指導に対応できる知識と能力を身につける。
②地形の成り立ちと世界および日本の自然環境に関する基本的な知識を身につける。
③自然地理学的立場から世界および日本の防災や環境保全についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教員による講義を中心とする。講義では学習資料とパワーポイントを使いながら毎回の講義内容の基礎知識や重要事項の整理を行う。学習資料は、学習支援システムの教材欄にアップする。毎回配布する学習資料はワークシートになっているのでフィードバックとして次回の学習資料にて解説と解答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	世界の大地形	ガイダンスとして大陸移動や大山脈の形成など地球内部のエネルギーによって起こるさまざまな現象について学習する。それにより地球の陸地が３つの形成時代の異なる地形に分けられることについて理解する。
2	地震と災害	地震が引き起こされるメカニズムと災害について学習する。それにより日本が変動帯に位置し、世界の中でも地震による災害が多い国であることを理解する。
3	火山がつくる地形	火山の噴火形式や火山がつくるさまざまな地形について学習する。また、火山の噴火によって起こるさまざまな災害について学習する。それにより日本が変動帯に位置し、世界有数の火山国であることを理解する。
4	河川がつくる地形	河川の流域に形成される河岸段丘や扇状地、三角州などの地形や氾濫原の微地形について学習する。それにより河川の地形形成作用と人々が地形を巧みに利用して生活してきたことを理解する。
5	海岸地形	砂浜海岸やリアス海岸などの海岸地形について学習する。また、人々がそれらの地形をどのように利用してきたかについても言及する。それにより海岸地形の形成過程や人々がそれらの地形を巧みに利用して生活してきたことを理解する。
6	氷河時代の環境と氷河地形	第四紀の気候変動の中で起こったヴュルム氷期に焦点を当て、氷河作用によって形成された地形や氷河時代の環境について学習する。それにより氷河時代の環境変化が現在の自然環境に大きな影響を及ぼしたことを理解する。
7	永久凍土と周氷河環境	北極海沿岸や高山帯における地形形成作用と永久凍土がつくる地形について学習する。それにより地球上には周氷河帯とよばれる特殊な地形形成作用が働く地域があることを理解する。
8	乾燥帯の地形	砂漠の形態や砂漠に見られる微地形について学習する。また、乾燥帯での人々の生活と関連付けて砂漠化などの環境問題にも言及する。それによって乾燥帯における地形形成のメカニズムや乾燥帯で暮らす人々の生活について理解する。
9	石灰岩がつくるカルスト地形	石灰岩の溶食によって形成されるさまざまな地形について学習する。また、石灰岩地域に分布する土壌についても言及する。それによって石灰岩の溶食は異なる気候環境では個別に働き、その気候環境特有のカルスト地形が形成されることを理解する。
10	年代を測る・古環境を知る	火山灰や炭素の同位体を用いた編年法や花粉分析、プラントオパール分析など古環境の復元方法について学習する。それにより地形の形成時代や古環境が復元されていることを理解する。
11	地球温暖化と自然環境への影響	地球温暖化のメカニズムと地球温暖化によって起こるさまざまな自然環境への影響について学習する。それにより温暖化を防止することが地球レベルの重要な課題であることを理解する。
12	人為が引き起こすさまざまな環境問題	熱帯雨林の縮小と砂漠化、過度な灌漑による塩地化、自然改変によるアラル海の縮小など人間の経済活動によって引き起こされたさまざまな環境問題について学習する。それにより人為的影響が自然環境の破壊につながっていることついて理解する。
13	中高における自然地理学の取り扱い方の違いと自然地理学の課題	新課程における中学と高校課程での自然地理学的分野の扱い方について学習する。また、教員に自然地理学的素養が必要な理由について東日本大震災で起きた事件などを例に学習する。それにより生徒のみならず教員にも防災意識が必要であることを理解する。
14	試験・まとめと解説	後期のまとめと理解度の確認として試験を行う。また、試験後にはフィードバックとして解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で配布する学習資料の最後に復習のためのワークがあるので、それを完成させる。フィードバックとして次回に配布する学習資料に解答と解説を掲載する。予習については、各回の授業の終わりに指示する。復習と予習に要する時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。代わりに毎回の授業で配布する学習資料をもとに授業を行う。

【参考書】
『東京の自然史』　貝塚爽平著，講談社学術文庫
『技術者のための地形学入門』　熊木洋太他編著，山海堂
『日本地誌 1・日本総論Ⅰ（自然編）』　中村和郎他編，朝倉書店
『地形がわかるフィールド図鑑』　青木正博他著，誠文堂新光社
『写真と図で見る地形学』　貝塚爽平他編，東京大学出版会
『日本列島 100 万年史』　山崎晴雄・久保純子，講談社ブルーバックス
『自然地理学概論』　高橋日出夫・小泉武栄編著　朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
①平常点 10 %
毎回の授業で配布する学習資料がワークシートになっています。出席は毎回取りますが、ワークシートを完成させることが平常点となります。
②中間課題 30 %
8 回目の講義あたりで、それまでの講義内容に基づいた中間課題を出します。
③試験 60 %
第 14 回目の授業ですべての授業内容を出題範囲とした試験を行います。試験終了後、フィードバックとして解答と解説を行います。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容に対する質問や要望があれば出席票の裏面に記入して下さい。次の授業の最初に回答します。

【学生が準備すべき機器他】
機器の準備は特にありません。高校で使った地図帳があれば持参してください。

【その他の重要事項】
授業内容の構成から前期の自然地理学Ⅰと合わせて受講することを推奨します。

【Outline (in English)】
In this class, students will learn about the physical geography fields of junior high school and high school courses. Physical geography is a discipline that landform, climate, vegetation, and soil, which are various elements of the natural environment. In Physical Geography II, students will learn mainly about the origins of the landform. In addition, he will focus on disasters caused by earthquakes and volcanoes, as well as environmental destruction, and acquire awareness of disaster prevention and environmental issues.
The three goals to be achieved are as follows.

(1) Acquire the knowledge and ability to respond to learning guidance in the field of natural geography in junior high and high school courses.
(2) Acquire basic knowledge of the formation of topography and the natural environment of the world and Japan.
(3) To deepen understanding of disaster risk reduction and environmental conservation in the world and Japan from a physical geographical perspective.
Classes are conducted mainly by lectures by faculty members. In the lectures, learning materials and PowerPoint are used to organize the basic knowledge and important matters of each lecture content. The learning materials will be uploaded to the teaching materials column of the learning support system. The study materials distributed each time are worksheets, so we will explain and answer them in the next study material as feedback.
At the end of the study materials distributed in each class, there is a review work, so complete it. Post answers and explanations in the next study material as feedback. Instructions will be given at the end of each class, but study materials will be delivered by the day before the class, so be sure to read them as preparation. The standard time required for review and preparation is 2 hours each, for a total of about 4 hours.
The grading method is as follows.
(1) Normal point 10%
The study materials distributed in each class are worksheets. Attendance is required every time, but completing the worksheet is the usual goal.
(2) Interim issues: 30%
Around the eighth lecture, you will be given an intermediate assignment based on the content of the lecture so far.
(3) Test 60%
In the 14th class, we will conduct an examination with all class contents as the scope of the questions. After the exam, we will give you answers and explanations as feedback. However, depending on the status of the new coronavirus infection, we may switch to a report.
(4) Standards
As a general rule, we use the raw score standard (absolute evaluation) indicated by the university.

地誌Ⅰ

近藤　章夫

サブタイトル：**地誌A**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地誌学は系統地理の視点を特定地域ごとで総体化する分野である。本講義では、日本からみた世界、世界からみた日本をテーマにして、世界各地域の地勢、社会、経済、文化の諸側面について最も特徴的なトピックや場所を選び、各地域への多面的な理解をめざす。

【到達目標】
各国・地域への地理的理解を通じて経済社会の多様性を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
国内外の具体的な事象にもとづいて、資料・地図・統計を用いながら世界の地誌について理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	地誌学の視点と方法	系統地理と地誌の関係
第 3 回	現代世界の地域構造と世界像	地球の自然環境と地理
第 4 回	東アジア①	工業化のプロセス
第 5 回	東アジア②	都市と農村の格差
第 6 回	東アジア③	宗教・民族と文化圏
第 7 回	東南アジア・南アジア①	大陸部と島嶼部の地誌
第 8 回	東南アジア・南アジア②	ASEAN の発展と都市
第 9 回	東南アジア・南アジア③	インドの歴史と地理
第 10 回	西アジア①	砂漠の民とアラブの形成
第 11 回	西アジア②	石油と地政学
第 12 回	西アジア③	中東問題とイスラエル
第 13 回	ユーラシアとヨーロッパへの視点	世界システム論の紹介
第 14 回	まとめ	変わるものと変わらないもの

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しないが、上杉・小野（2023）を底本とする。適宜文献と資料を提示する。

【参考書】
上杉和央・小野映介（2023）『みわたす・つなげる地誌学』古今書院
河上税・田村俊和（2007）『日本からみた世界の諸地域―世界地誌概説』原書房
竹内啓一（2004）『データブック 世界各国地理』岩波書店
水野一晴（2018）『世界がわかる地理学入門』筑摩書房
矢ヶ崎典隆ほか編著（2020）『地誌学概論（第 2 版）』朝倉書店
上記のほか、高等地図帳、『新詳資料 地理の研究』（帝国書院）、高校地理の学習指導要領なども参考になる。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（40 %）と期末レポート（60 %）による評価が中心となる。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認して欲しい。

【Outline (in English)】
Course outline:
Regional geography is a field that generalizes the perspective of systematic geography by specific regions. In this course, we will focus on the most characteristic topics and places in each region of the world, aiming for a multifaceted understanding of each region.
Learning Objectives:
To learn about the diversity of economies and societies through geographical understanding of each country and region.
Learning activities outside of classroom ：
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(40%) and term-end report(60%).

地誌Ⅱ

近藤　章夫

サブタイトル：**地誌B**
配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地誌学は系統地理の視点を特定地域ごとで総体化する分野である。本講義では、日本からみた世界、世界からみた日本をテーマにして、世界各地域の地勢、社会、経済、文化の諸側面について最も特徴的なトピックや場所を選び、各地域への多面的な理解をめざす。

【到達目標】
各国・地域への地理的理解を通じて経済社会の多様性を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
国内外の具体的な事象にもとづいて、資料・地図・統計を用いながら世界の地誌について理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	世界地誌への視点	近代史以降の世界のつながり
第 3 回	ヨーロッパ①	ヨーロッパの地勢と各地域の特徴
第 4 回	ヨーロッパ②	イギリスの発展と西ヨーロッパ
第 5 回	ヨーロッパ③	南欧と東欧の地理
第 6 回	ロシア・中央アジア	遊牧からソ連の成立、崩壊後まで
第 7 回	アングロアメリカ①	開拓と産業発展の歴史
第 8 回	アングロアメリカ②	特徴ある産業集積
第 9 回	ラテンアメリカ①	ヨーロッパの進出からアメリカの裏庭化まで
第 10 回	ラテンアメリカ②	ブラジルの開発
第 11 回	オセアニア	開拓と資源
第 12 回	日本①	東京と横浜
第 13 回	日本②	地方の場所
第 14 回	まとめ	変わるものと変わらないもの

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しないが、上杉・小野（2023）を底本とする。適宜文献と資料を提示する。

【参考書】
上杉和央・小野映介（2023）『みわたす・つなげる地誌学』古今書院
河上税・田村俊和（2007）『日本からみた世界の諸地域―世界地誌概説』原書房
竹内啓一（2004）『データブック 世界各国地理』岩波書店
水野一晴（2018）『世界がわかる地理学入門』筑摩書房
矢ヶ崎典隆ほか編著（2020）『地誌学概論（第 2 版）』朝倉書店
上記のほか、高等地図帳、『新詳資料 地理の研究』（帝国書院）、高校地理の学習指導要領なども参考になる。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（40 %）と期末レポート（60 %）による評価が中心となる。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認して欲しい。

【Outline (in English)】
Course outline:
Regional geography is a field that generalizes the perspective of systematic geography by specific regions. In this course, we will focus on the most characteristic topics and places in each region of the world, aiming for a multifaceted understanding of each region.
Learning Objectives:
To learn about the diversity of economies and societies through geographical understanding of each country and region.
Learning activities outside of classroom ：
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(40%) and term-end report(60%).

哲学 A

齋藤　範

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】 受講生が教職に就くことを前提とし、「世界とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。
なお、各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】
この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義で、対面授業形式と、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴するオンデマンド授業形式を組み合わせて実施する。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、教室または Hoppii のお知らせにて告知する。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行う。授業では、古代から近世までの哲学と思想文化全般について時代を追って解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。過去のそれぞれ哲学は、一方では各々の時代背景や社会情勢に固有な特殊性を有しつつも、他方ではどんな時代や社会にも通底し、現代においても十分参照する価値のある普遍性を有している。この授業では、そうした特殊性と普遍性の両方を広く視野に入れながら、世界観や人間観に関してこれまでどのような議論や考察がなされ、また現代においてもなされつつあるか、概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	哲学の草創期と初期自然学	古代ギリシアとソクラテス以前の哲学者たち
3	アテナイ古典哲学①	哲学者ソクラテス
4	アテナイ古典哲学②	プラトンの哲学
5	アテナイ古典哲学③	アリストテレスの哲学
6	ヘレニズム期の哲学①	キュニコス派・エピクロス派の哲学
7	ヘレニズム期の哲学②	ストア派・懐疑派の哲学
8	ローマ帝政期の哲学	新プラトン派の哲学
9	ユダヤ・キリスト教の思想	宗教思想と哲学
10	中世の哲学①	教父哲学とスコラ哲学
11	中世の哲学②	神学と哲学・普遍論争
12	ルネサンス期の哲学①	宗教や文化や芸術をめぐる新しい思想
13	ルネサンス期の哲学②	フィチーノやクザーヌスらの新しい人間観と世界観
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとったノートを、内容を思い返しながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。授業で配布する資料や、紹介する参考文献を自ら読み、自ら考察して理解を深める。特に「教育」という観点を常に意識しながら学習するとなおよい。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】
参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、毎回の小テストなどの平常点（40%）と学期末試験またはレポート（60%）にて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回一定量のノートをとることになるため、スライドの構成をできるだけわかりやすく簡潔にしている。ノートをとる際は、学習内容についてよく考えながら、自分自身で理解が深まるように工夫してとること。

【学生が準備すべき機器他】
授業は一部オンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic problems and concepts of philosophy to students taking this course.
Learning Objectives: The goals of this course are to understanding the basic problems and concepts of philosophy and develop the ability and attitude to express ideas logically and appropriately.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to summarize what you have learned in a notebook and consider what kind of philosophical issues are being discussed in what way.
Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Each mini-exams: 40%. Term-end exams or reports: 60%

哲学Ｂ

齋藤　範

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】 受講生が主として教職に就くことを前提とし、「人間（あるいは「私」）とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。
なお、各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】
この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義で、対面授業形式と、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴するオンデマンド授業形式を組み合わせて実施する。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、教室または Hoppii のお知らせにて告知する。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行う。授業では、近代から現代までの哲学と思想文化全般について解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。近代以降の哲学は、科学を初めとする他学問や社会状況の変化とより緊密に連携・連動し、これらはそのまま現代の人間、社会、世界をめぐる諸問題として、いまなお活発に考察と議論がなされている。この授業では、これらの哲学的問題を現代を生きる自らの課題として引き受け、さらに多様化する現代哲学・現代思想に学びながら、共に考察しつつ講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	近代哲学の課題	哲学と科学
3	大陸合理論の哲学①	デカルト
4	大陸合理論の哲学②	スピノザ、ライプニッツ
5	イギリス経験論の哲学①	ロック、バークリ
6	イギリス経験論の哲学②	ヒューム
7	ドイツ観念論の哲学①	カント
8	ドイツ観念論の哲学②	ヘーゲル
9	生の哲学	ニーチェ
10	実存主義の哲学	キルケゴール、サルトル
11	現代哲学の諸相①	精神分析と言語学
12	現代哲学の諸相②	現象学と身体論
13	現代哲学の諸相③	構造主義以降
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとったノートを、内容を思い返しながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。授業で配布する資料や、紹介する参考文献を自ら読み、自ら考察して理解を深める。特に「教育」という観点を常に意識しながら学習するとなおよい。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】
参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、毎回の小テストなどの平常点（40%）と学期末試験またはレポート（60%）にて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回一定量のノートをとることになるため、スライドの構成をできるだけわかりやすく簡潔にしている。ノートをとる際は、学習内容についてよく考えながら、自分自身で理解が深まるように工夫してとること。

【学生が準備すべき機器他】
授業は一部オンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic problems and concepts of philosophy to students taking this course.
Learning Objectives: The goals of this course are to understanding the basic problems and concepts of philosophy and develop the ability and attitude to express ideas logically and appropriately.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to summarize what you have learned in a notebook and consider what kind of philosophical issues are being discussed in what way.
Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Each mini-exams: 40%. Term-end exams or reports: 60%

倫理学 A

齋藤　範

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】 受講生が主として教職に就くことを前提とし、「自己と他者」をめぐるテーマをケーススタディとして示しながら、倫理学の基礎となる考え方や諸問題について学ぶ。なお、各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】
この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義で、対面授業形式と、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴するオンデマンド授業形式を組み合わせて実施する。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、教室または Hoppii のお知らせにて告知する。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行う。授業では、倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して概説し、倫理学が何を問題とし、またどのような方法を用いて議論と考察を展開するか、講義する。変化の激しい現代社会においては人々の倫理的判断も多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、自己、他者、文化、宗教、家族、地域社会、国際社会、自然環境にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき社会や民主政治の在り方について主体的に考察できるよう講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	倫理学の基本的構図①	課題と方法について
3	倫理学の基本的構図②	考察と実践について
4	倫理学の基本的構図③	事例と判断について
5	倫理学の基本的構図④	幸福や利益について
6	倫理学の主要な学説①	功利主義の基礎
7	倫理学の主要な学説②	功利主義の展開
8	倫理学の主要な学説③	義務論の基礎
9	倫理学の主要な学説④	義務論の展開
10	現代社会の倫理学①	社会と公共をめぐる諸問題について
11	現代社会の倫理学②	国際社会をめぐる諸問題について
12	現代社会の倫理学③	環境をめぐる諸問題について
13	現代社会の倫理学④	自己と他者をめぐる諸問題について
14	試験・まとめと解説	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとったノートを、内容を思い返しながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深める。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察する。特に「教育」に関する問題には敏感に反応すること。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、毎回の小テストなどの平常点（40%）と学期末試験またはレポート（60%）にて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重いと思われる問題（例えば犯罪や差別や貧困や障害や疾病をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修すること。

【学生が準備すべき機器他】
授業は一部オンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the basic ideas of ethics and various issues related to modern ethics to students taking this course.
Learning Objectives:The goals of this course are to acquire knowledge of ethics, consider ethical issues and state your thoughts concretely.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to summarize what you have learned in a notebook, collect information through media such as newspapers, and consider what kind of ethical issues are being discussed in what way.
Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Each mini-exams: 40%. Term-end exams or reports: 60%

倫理学 B

齋藤　範

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「生命・健康・医療・教育」に関わる問題をテーマとしながら、倫理学的思考や背景となる事実問題について学ぶ。
なお、各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】
この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義で、対面授業形式と、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴するオンデマンド授業形式を組み合わせて実施する。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、教室または Hoppii のお知らせにて告知する。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行う。授業では、生命をめぐる倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して講義する。変化の激しい現代社会において、とりわけ生命をめぐる人生観や死生観は複雑に多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、生命、医療、技術、健康、家族、宗教、そして人生観と死生観にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき人間の生き方と生命の在り方について主体的に考察できるよう講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	生命倫理学の基礎①	課題と方法について
3	生命倫理学の基礎②	考察と実践について
4	死生観をめぐる倫理①	現代の生と死をめぐって
5	死生観をめぐる倫理②	脳死と臓器移植について
6	死生観をめぐる倫理③	尊厳死と安楽死について
7	医療と技術をめぐる倫理①	現代の社会と病をめぐって
8	医療と技術をめぐる倫理②	遺伝子と医療について
9	医療と技術をめぐる倫理③	家族と生殖について
10	生命と誕生と家族をめぐる倫理①	現代社会と出生をめぐって
11	生命と誕生と家族をめぐる倫理②	妊娠中絶について
12	生命と誕生と家族をめぐる倫理③	生命と人格の問題について
13	障害と福祉をめぐる生命の倫理について	障害学の展開
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとったノートを、内容を思い返しながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深める。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察する。特に「教育」に関する問題には敏感に反応すること。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、毎回の小テストなどの平常点（40%）と学期末試験またはレポート（60%）にて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重いと思われる問題（例えば病気や生殖や生死をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修すること。

【学生が準備すべき機器他】
授業は一部オンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要である。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the basic ideas of bioethics and various issues related to bioethics to students taking this course.
Learning Objectives:The goals of this course are to acquire knowledge of bioethics, consider ethical issues and state your thoughts concretely.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to summarize what you have learned in a notebook, collect information through media such as newspapers, and consider what kind of ethical issues are being discussed in what way.
Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Each mini-exams: 40%. Term-end exams or reports: 60%

データベースと情報システム

坂本　憲昭

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1) 情報システム概観を学ぶとともに，データベースの役割を理解します。例えば図書館システムにおけるデータの流れやデータベースシステムを取り上げます。(2) 正規化を学び，基礎的なリレーショナルデータベースを設計します。そのために正規化を学びます。(3)Access を使用した実習により，データベースを管理・運用する技術を学びます。あわせて SQL 言語を習得します。(4) 実社会において構築されたデータベースの情報が社会に及ぼす影響と課題を理解し，情報セキュリティの確保，利用者の個人認証や暗号化などの技術的内容や情報セキュリティポリシーの策定など情報セキュリティを高めるための様々な方法を習得します。

【到達目標】
情報を蓄積し管理・検索するためのデータベースの概念を理解し，データベースを中心とした情報システムに関する知識を習得します。情報システムの設計・管理分野などの基本知識を習得し，基礎的なデータベースを設計できるようになります。問題解決においてデータベースを活用しているビジネス事例を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パソコン実習室にて，講義のほかに，実際に演習しながらデータベースの設計および構築をおこないます。そのほか，オンデマンド形式で授業を進める回もあります。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報システム概観	情報システム概観，インフラとして社会におよぼす影響，セキュリティについて
第 2 回	情報システムにおけるデータベースの位置付け	情報システムとデータベースについて，情報の保護について
第 3 回	データベースの基本構成	実際のデータベースの紹介と要求定義から詳細設計について
第 4 回	データベース製品とデータセンター	リレーショナルデータベースの実際の商品とデータセンターの紹介
第 5 回	正規化を学ぶ	統計データとデータファイルの違い，正規化の必要性
第 6 回	正規化の実習	表計算ソフトを用いて正規化手法を実習
第 7 回	リレーショナルデータベースの構成	データベースの設計演習
第 8 回	SQL 言語	SQL 言語とは
第 9 回	SQL 言語の実習	SQL に関する演習問題
第 10 回	データベースファイルの構築	表計算ソフトウェアによるデータファイルの設計とデータ入力
第 11 回	データベースシステムの作成実習，基礎構築	Access の操作方法
第 12 回	データベースシステムの詳細設計	Access による SQL 演習
第 13 回	データベースシステムの構築実習	Access によるデータベースの作成
第 14 回	総合演習問題	振り返りと総合演習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポートの取り組みをします。本授業のレポートまたは課題に取り組む時間は，各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せずに担当教員による自作資料を配布します。

【参考書】
実際に書籍店等で参照してご自分で読みやすいかどうかを確認してください。発行年が古いものは避けてください。「データベース入門，データベースとは，SQL 入門，SQL とは」の書名が該当します。おうちで学べるデータベースのきほん（翔泳社），なぜ？ がわかるデータベース（翔泳社），基本がわかる SQL 入門（技術評論社），いちばんやさしい SQL 入門教室（ソーテック社）など。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題を合計 100%とします。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
データベース作成の実習制作規模を縮小して理解度を高めます。

【その他の重要事項】
教職（高校「情報」）科目です。勘違いしている方が多いのでよく確認してください。本登録前に学習支援システムの「お知らせ」を参照して担当教員あてにメールで連絡をしてください。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students understand the outline of information systems and the role of databases.
< Learning Objectives >
At the end of the course, students are expected to understand normalization, relational databases, and SQL.
< Learning activities outside of classroom >
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria / Policies >
Final grade will be calculated according to the reports (100%).

情報メディアと画像処理

坂本　憲昭

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1) 講義により，情報メディア・情報デザイン・表現メディア・情報コンテンツが社会や情報産業に果たしている役割を理解します。(2) 実習により，アナログデータをディジタル化することからネット配信まで情報コンテンツ等に関する知識と技術を習得します。(3) 知的財産権の学習により，著作権，音や映像，形状などが法律により保護されていることを学びます。(4) 実際のビジネス事例を研究します。情報を表現し伝達する業種について，時間を超えて情報を伝達するビジネスモデル，空間を超えて情報を伝達するビジネスモデルを紹介します。

【到達目標】
情報メディアに関する知識と技術を習得し，情報コンテンツの制作・発信を適切に行うために必要となる特性等を理解します。実習により実際に適切かつ効果的に活用できるように，実践的な能力を身に付けます。また，個人情報の保護や著作権に関する内容等，情報コンテンツを取り扱う際に，技術や情報に関する守秘義務や法令遵守などの社会的な責任や知的財産権を習得します。最近の関連する情報産業のビジネスモデルを把握します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パソコン実習室にて講義のほかに，フリーソフトや表計算ソフトなどにより，実際に操作演習しながら画像データの処理をおこないます。そのほか，オンデマンド形式で授業を進める回もあります。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報メディアの概観	情報メディアが社会や情報産業に果たしている役割
第 2 回	情報メディアの種類	情報メディアのほか，デザイン・表現メディア・コンテンツなど関係する種類と特性
第 3 回	情報メディアのハードウェアに関する基礎知識	情報メディアを活用するためにデータ収集，分析，発信などにおいて基礎的な知識
第 4 回	関連する最近のビジネスモデル	新しい情報産業，インターネットを活用したビジネスモデルの事例紹介
第 5 回	知的財産権	知的財産権について最近のマルチメディアに関する保護の学習と事例紹介
第 6 回	マルチメディアに関する定石	ポスター，新聞，雑誌などのデザイン，Web デザインの定石について
第 7 回	ディジタルデータの取り扱い	音声や映像アナログデータのディジタル化実習
第 8 回	音声編集	音声編集の実習
第 9 回	映像編集	映像編集の実習
第 10 回	音声・映像と Web との連携実習	情報コンテンツの各種アプリケーションソフトウェアの紹介と基本的な操作実習
第 11 回	情報コンテンツの実習	情報コンテンツのアプリケーションソフトウェアによる実習課題の取り組み
第 12 回	ディジタルデータの保存および運用管理について基礎実習	ディジタルデータの配信について実習
第 13 回	演習問題	情報コンテンツに関する資格試験の紹介，サンプル問題の取り組み
第 14 回	情報産業の事例紹介	振り返りと情報産業の事例紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート等の取り組みをします。本授業のレポートまたは課題に取り組む時間は，各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せずに担当教員による自作資料を配布します。

【参考書】
実際に書籍店等で参照してご自分で読みやすいかどうかを確認してください。発行年が古いものは避けてください。ウェブデザイン技能検定，色彩検定，CG クリエイター検定，マルチメディア検定，ディジタル技術検定など「デザイン・クリエイティブ」に関する資格試験の教材，実施協会・団体のホームページにある練習問題などが参考書となります。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題を合計 100%とします。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
Excel の操作に戸惑うことがないように適宜復習をしながら実習を進めます。

【その他の重要事項】
教職（高校「情報」）科目です。勘違いしている方が多いのでよく確認してください。本登録前に学習支援システムの「お知らせ」を参照して，担当教員あてにメールで連絡をしてください。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students understand the role that information media, information design, expression media and information content play in society and the information industry.
< Learning Objectives >
At the end of the course, students are expected to acquire knowledge and skills related to information content, etc., from digitizing analog data to online distribution.
< Learning activities outside of classroom >
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria / Policies >
Final grade will be calculated according to the reports (100%).

情報と職業 A

坂本　憲昭

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校生の情報産業に対する職業観について指導できる教養を身に付けることを目的とします。さらに，昨今 50%を超える大学への進学率を鑑みると，情報産業に興味ある高校生は就業する前に大学学部等の選択が求められます。そのため大学の履修内容，すなわち，情報システムに関係する教養を習得し，情報産業とのつながりを理解しておく必要があります。A ではそのために必要な知識習得が中心です。

【到達目標】
高校生の情報に関する職業感や概要，関連する進路指導などのアドバイスができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
適宜 PC 実習室においてインターネットによる情報収集や調査，レポート作成をおこないます。情報関係の技術は栄枯盛衰が早く，常に最新の情報や知識が必要なため，情報過多の時代において自らが情報収集して整理して，まとめるスキルが要求されます。そのために解説後，自分で調査してレポートにするプロセスで授業を進めます。そのほか，オンデマンド形式で授業を進める回もあります。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	高校情報教科書内容	指導要領から必要な関連知識を把握する
第 2 回	官公庁による情報戦略	戦略，政令や施策などを理解する，情報通信白書の概要を理解する
第 3 回	情報処理試験の概要	国家資格から民間による試験まで一覧と内容を知る
第 4 回	情報分野の知的財産権	知的財産権のなかから情報システムに関する内容を学ぶ
第 5 回	情報倫理	情報漏えいの原因や取り組み事例を学ぶ
第 6 回	前半のまとめと演習問題	演習問題に取り組む，理解が不足な内容について補足をする
第 7 回	前半のまとめとレポート発表	これまでに取り組んだレポートのまとめを発表する
第 8 回	大学理系学部の履修内容	各大学のシラバスを参照して履修内容を調べる，職業訓練の内容を知る
第 9 回	インターネットに関する技術の基礎知識	インターネットの仕組みなどを学ぶ
第 10 回	情報システム技術の基礎知識	情報システムがインターネットを利用する際の技術的背景を学ぶ
第 11 回	ビジネスインダストリアルのアナログデータ収集	情報システムに用いられる技術について IoT のための機器を中心に学ぶ
第 12 回	ビジネスインダストリアルネット活用	情報システムに用いられる技術についてネット活用を中心に学ぶ
第 13 回	後半のまとめと演習問題	演習問題に取り組む，理解が不足な内容について補足をする
第 14 回	後半のまとめと成果発表	これまでに取り組んだ内容の成果発表をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート等の取り組みをします。本授業のレポートまたは課題に取り組む時間は，各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず，担当教員による自作資料を使います。

【参考書】
発行年の新しい書籍をガイダンス時に紹介します，最新 IT 用語辞典やトレンド，IT エンジニア，システム業務に関する本です。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題を合計 100%とします。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんでした。

【その他の重要事項】
教職（高校「情報」）科目です。勘違いしている方が多いのでよく確認してください。本登録前に学習支援システムの「お知らせ」を参照して，担当教員あてにメールで連絡をしてください。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students the knowledge to be able to teach high school students about careers in the information industry.
< Learning Objectives >
At the end of the course, students are expected to have mastered the culture related to information systems and acquire knowledge about the information industry.
< Learning activities outside of classroom >
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria / Policies >
Final grade will be calculated according to the reports (100%).

情報と職業 B

坂本　憲昭

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校生の情報産業に対する職業観について指導できる教養を身に付けることを目的とします。さらに，昨今 50%を超える大学への進学率を鑑みると，情報産業に興味ある高校生は就業する前に大学学部等の選択が求められます。そのため大学の履修内容，すなわち，情報システムに関係する教養を習得し，情報産業とのつながりを理解しておく必要があります。B では多様化する情報産業を知るとともに，具体的な事例研究が中心です。

【到達目標】
(1) システム導入における構築までの流れを理解している。
(2) 情報システムの仕組みを説明できる。具体的にデータの流れ，データ入出力に用いられるデバイスなどの基礎知識がある。
(3) 情報産業の事例を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
適宜 PC 実習室においてインターネットによる情報収集や調査，レポート作成をおこないます。情報関係の技術は栄枯盛衰が早く，常に最新の情報や知識が必要なため，情報過多の時代において自らが情報収集して整理して，まとめるスキルが要求されます。そのために解説後，自分で調査してレポートにするプロセスで授業を進めます。そのほか，オンデマンド形式で授業を進める回もあります。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報システム設計	システム設計の流れを理解する，RFP とは，見積り工数手法を学ぶ
2	教育機関における情報インフラ	身近な事例として大学における情報インフラを学ぶ
3	ユニバーサルデザイン	Web サイトなどのユニバーサルデザインを知る
4	デジタルマーケティング概観	デジタルマーケティング手法の概観
5	デジタルマーケティング事例	デジタルマーケティングの事例
6	デジタルマーケティング調査	実例のレポート作成
7	IT を利活用した業務改革としてビックデータ利用を中心に解説	ビッグデータの取扱，商品としてのビッグデータ事例について学ぶ
8	IT を利活用した業務改革として人工知能を中心に解説	人工知能の基礎と活用事例を学ぶ
9	IT を利活用した業務改革として RPA 解説	RPA 活用事例を学ぶ
10	IT を利活用した業務改革として介護および農業分野	介護テック，農業テック
11	IT を利活用した業務改革として空港および流通分野	空港テック，流通テック
12	システム障害	事例研究（規模や影響，損失額など）
13	後半のまとめとして確認問題	授業内アンケートおよび確認問題により理解が不足な内容について補足をする
14	後半のまとめとして成果発表	これまでに取り組んだレポートを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート等の取り組みをします。本授業のレポートまたは課題に取り組む時間は，各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず，担当教員による自作資料を使います。

【参考書】
発行年の新しい書籍をガイダンス時に紹介します，最新 IT 用語辞典やトレンド，IT エンジニア，システム業務に関する本です。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題を合計 100%とします。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんでした。

【その他の重要事項】
教職（高校「情報」）科目です。勘違いしている方が多いのでよく確認してください。本登録前に学習支援システムの「お知らせ」を参照して，担当教員あてにメールで連絡をしてください。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to provide students with the knowledge they can teach high school students about their careers in the information industry. This Course B focuses on the diversifying information industry and specific case studies.
< Learning Objectives >
At the end of the course, students are expected to have mastered the culture related to information systems and acquire knowledge about the information industry.
< Learning activities outside of classroom >
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria / Policies >
Final grade will be calculated according to the reports (100%).

国際法

妻木　伸之

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、国際社会を規律してきた法である国際法の概要について学び、現代国際社会における諸課題解決の手がかりを得ます。

【到達目標】
国際法学について基本的な理解ができること。
加えて、可能であれば、現代国際社会の諸課題について国際法に基づき検討できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として対面での講義方式で実施する。
（出席できない学生については講義代替の資料配布で対応予定）
なお、授業の実証方法については、様々な状況により変更の可能性があることに留意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入１：「国際法」の歴史的展開	国際法の歴史を通じ、現代国際法の特徴とその課題を学ぶ。
2	導入２：国際社会における立法・司法・執行	国内社会・国内法などとの比較を通じ、国際社会・国際法の特徴について学ぶ
3	国際法の「法源」―国際法の存在形式	国際法がどのような形で存在するかについて学ぶ。
4	国際法の「主体」―国家・国際組織・その他	国際法をつくり、国際法により規律されるのは誰かについて学ぶ。
5	「主権」と国家の基本的権利・義務	国際法の基本概念である「主権」および「主権」を持つ存在である国家の基本的な権利・義務について学ぶ。
6	陸・海・空に関する国際法	国際法における領域（主に海洋）の取扱いについて学ぶ。
7	個人と国際法―国際刑事法・国際人権法	「国際犯罪」への国際法の対応および国際人権法の展開について学ぶ。
8	国際人権法の実現―国内実現と国際実現	国内平面と国際平面それぞれにおける国際人権法の実現について学ぶ。
9	武力不行使原則の確立と平和的紛争処理手続	武力行使の違法化と武力を用いず紛争を処理する手段（国際裁判など）について学ぶ。
10	集団安全保障―その限界と克服の努力	戦争抑止のための集団安全保障の展開について国際連盟および国際連合を例に学ぶ。
11	自衛権／武力紛争法	武力不行使原則の例外としての自衛権および武力紛争における国際法による規律について学ぶ。
12	ブレトンウッズ体制／GATT・WTO 体制	第 2 次世界大戦後の西側先進国主導の経済秩序について学ぶ。
13	南北問題と「新国際経済秩序」	「南側」からの経済秩序変革の要求とその顛末について学ぶ。
14	まとめ	全体のまとめ（調整日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回合計 2 時間程度、各自で予習・復習をすることが望ましい（復習だけでも習慣づけるようにしてください）。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない（講義用のレジュメ等は講義時および授業支援システムを通じて配布する）。

【参考書】
これらに限定するものではないが、例として、横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣、2010 年）、玉田大ほか『国際法（第 2 版）』（有斐閣、2022 年）、森川幸一ほか編『ビジュアルテキスト国際法（第 3 版）』（有斐閣、2022 年）、渡部茂己ほか編『国際法（第 4 版）』（弘文堂、2022 年）、柳原正治ほか編『プラクティス国際法講義（第 4 版）』（信山社、2023 年）、浅田正彦ほか編『国際法（第 5 版）』（東信堂、2022 年）など。

【成績評価の方法と基準】
試験期間に実施予定の論述形式の試験 100 %
（追試験以外の救済措置を行いませんので、注意すること）。
なお、様々な状況により代替レポートへの切り替えの可能性がある点に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】
質問については、迅速に応えるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ・資料などを授業支援システムを通じ配布するので、ネット接続が可能な機器があるとよいかと存じます
（必須ではないが PC の利用できる状況を確保することが望ましい）

【その他の重要事項】
疑問点などは躊躇せず質問を通じて解消していきましょう。
また、国際法に限らず様々な書籍を読む習慣をつけるとよいでしょう。

【Outline (in English)】
This course introduces international public law
（Lectures are conducted in Japanese）.
The goals are following,
(1) to obtain the basic knowledge of the international public law,
(2) as possible, to be able to appraise global issues from the legal perspective.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

国際政治論

白鳥　浩

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
責任ある「有権者」として必須な、国際政治の体系的理解

【到達目標】
「有権者」の国際政策の選択の基準として、理論のみならず事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといって良い。「グローバリズム」、「ボーダーレス」という時代のキーワードが示すように、国際政治の影響力は、我々の生活の上に大きな影響を及ぼしている。この国際政治の現実を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際政治学とは何か？	導入
2	国際政治学の基礎概念	基礎概念
3	冷戦と現実主義	戦後政治の基本
4	デ・タントと相互依存論	戦後政治の変容
5	ガルトゥングの平和学	構造的な視点
6	ローズノーのリンケージ・ポリティックス論	国際政治と国内政治
7	ロッカンの国家形成・国民形成論	国家と国民とは
8	ロッカンの「欧州概念地図」	マクロな分析枠組み
9	欧州統合の展開	国際統合の現実態
10	レジーム論	多様なレジーム
11	「帝国」論	帝国と国民国家
12	欧州統合と国民国家の変容	国民国家の変容
13	日本をとりまく国際政治	最近の事例から
14	国際政治論の展望	現在の国際政治論の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある国際感覚のあふれる「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『現代欧州統合の構造』芦書房、２００８年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に指示。

【参考書】
講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】
This course aims to provide basic understandings of theoretical aspects of International Relations.
The goals of this course are to realize relationship between international political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

学校経営と学校図書館

松田　ユリ子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館の本質的な意義に迫る。まずは学校教育における学校図書館の位置づけを、法律・制度・歴史・学習理論などの面から考察する。その上で学校図書館運営の実際について、事例を豊富に交えながら概観し、受講者とともに理想的な学校図書館のあり方を探る。

【到達目標】
講義の内容を踏まえて、受講生が理想の学校図書館像を明確に捉え、他者に説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する
翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業で扱う内容と講義のすすめ方の確認
第 2 回	自分の学校図書館体験から考える学校図書館の意義	事前に課題を提出し、それに基づいて解説及び議論を行う。
第 3 回	新しい知から考える学校図書館の意義	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 4 回	学校教育から考える学校図書館の意義	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 5 回	学校の中の学校図書館	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 6 回	米国における学校図書館の歴史	事前に教科書の第 8 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 7 回	日本における学校図書館の歴史	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 8 回	日本の学校図書館の現状	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 9 回	学校図書館の目的と機能	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 10 回	学校図書館のサービス	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 11 回	学校図書館の教育活動	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 12 回	学校図書館のマネジメント	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。る。
第 13 回	学校図書館の担当者	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 14 回	学校図書館の設計/まとめ	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中村百合子編著『学校経営と学校図書館 (司書教諭テキストシリーズ II・1)』樹村房, 2022

【参考書】
金沢みどり編著『学校司書の役割と活動:学校図書館の活性化の視点から』学文社, 2017
全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』改訂版, 悠光堂, 2017
野口武悟, 前田稔編著『学校経営と学校図書館』改訂新版, 放送大学教育振興会, 2017
堀川照代編著『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂, 2018

【成績評価の方法と基準】
各レポートの提出が必須である。
事前課題レポート 70 %、最終レポート 30 %の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
課題の指示をより明確にする

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要だが、準備できない場合は相談すること

【Outline (in English)】
【Course outline】Students will articulate the history, values, legal and foundational principles of the school library profession.
To provide a broad understanding of the field of school library, and facilitate the exploration of the rich possibilities of practice in the field.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to clearly grasp the ideal school library image and explain it to others.
【Learning activities outside of classroom】Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text, and submit a report on the assigned topic by the due date.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (70%), term-end report (30 %), and in-class contribution.

学習指導と学校図書館

松田　ユリ子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、情報リテラシー教育、メディア・リテラシー教育、言語活動、探究型学習についての理解を深め、学校図書館がいかに教科学習を支えていくかを考える。

【到達目標】
授業のゴールとしては、受講生各自が司書教諭としてのオリジナルな授業案をつくることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する
翌週までにコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のすすめ方と最初の課題を支援システム上で各自確認する。
第 2 回	学習と学校図書館	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 3 回	「学習指導要領」と学校図書館	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 4 回	探究的な学習の理論と学校図書館の資源	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 5 回	学習指導における課題の設定	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 6 回	情報リテラシー	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 7 回	情報リテラシーと探究的な学習 1	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 8 回	情報リテラシーと探究的な学習 2	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 9 回	レファレンスサービスと学習支援	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 10 回	小学校における学校図書館の活用	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 11 回	パスファインダーの作成	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 12 回	中学高校における学校図書館の活用	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 13 回	授業案の発表	発表
第 14 回	授業案の発表	発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が卒業した小学校、中学校、高等学校における学校図書館の状況（職員体制・授業での活用状況）を確認しておくこと。教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
齋藤泰則編著『学習活動と学校図書館 (司書教諭テキストシリーズ II・3)』樹村房, 2016

【参考書】
塩谷京子編著『すぐ実践できる情報スキル 50:学校図書館を活用して育む基礎力』ミネルヴァ書房，2016
塩谷京子著『探究の過程におけるすぐ実践できる情報活用スキル 50:単元シートを活用した授業づくり』ミネルヴァ書房，2019
全国学校図書館協議会「情報資源を活用する学びの指導体系表」http://www.j- sla.or.jp/pdfs/20190101manabinosidoutaikeihyou.pdf
日本図書館協会図書館利用教育委員会編著『問いをつくるスパイラル:考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会, 2011
堀川照代，塩谷京子著『学習指導と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会, 2016

【成績評価の方法と基準】
各レポートの提出が必須である。事前課題レポート 70 %、最終レポート 30 %の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要だが、用意できない場合は相談すること

【Outline (in English)】
【Course outline】Students will demonstrate competency in multiple literacies (literacy, information literacy and media literacy etc.) and inquiry-based-learning of the school library profession.
To understand the importance of collaboration between school library specialist, teachers and students.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to create an original lesson plan as a librarian teacher.
【Learning activities outside of classroom】Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text, and submit a report on the assigned topic by the due date.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (70%), term-end repotr (30%),and in-class contribution.

学校図書館メディアの構成

有山　裕美子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館メディアの種類、組織化、選択法と分類、目録の基礎を学ぶ。また、学校図書館におけるメディアの構成に関する理解と実務能力の育成を通して、使いやすい学校図書館をつくる上での基礎的な知識を身につける。

【到達目標】
学校図書館の現場で必要な学校図書館メディアについての知識、選択にあたっての心構えを身につける。また、それぞれのメディアの特徴を抑えた上で、利用者にとってどうメディアを構成していけば良いか考え、分類や件名などの意味や付与の方法について学ぶ。さらに、メディア検索のための目録の基礎や、利用しやすい配架、レイアウトの基本を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各種メディアの種類と特性を理解し、授業においてどう活用するかをまず考える。また、学校図書館メディアの構築のために、資料・情報の選択と収集・提供に必要なメディアを評価する力をつけるとともに、メディア選択・収集・更新・廃棄の基準等の実務を知る。メディアの組織化に関しては、分類や件名の付与などの基本的事項を押さえるとともに、演習を行う。また、提出物に対するフィードバックは学習支援システム等を通じて行い、リアクションペーパーにおける質問やコメントは授業で紹介し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	学校図書館メディアの教育的意義と役割	学校図書館のメディアと教育の関わりとその役割について、最新の教育動向も踏まえながら捉える。
2	学校図書館メディアの授業での活用	複数のメディアを活用した授業事例等を、新学習指導要領や GIGA スクール構想などとにも結びつけながら考察する。
3	学校図書館メディアの種類	学校図書館メディア基準等を参考にしながら、学校図書館で取り扱うメディアについて、その歴史と種類について学ぶ。
4	学校図書館メディア、組織化の流れ	学校図書館メディアを児童生徒に提供するまでの流れについて、その全体的な流れを把握する。
5	学校図書館メディアの選択１	学校図書館メディアを受け入れる際に考慮するポイント、収集方針等について学ぶ。
6	学校図書館メディアの選択２	学校図書館メディアを購入際の予算や、その組織化、方法等について学ぶ。
7	学校図書館メディアの分類意義・歴史	学校図書館メディアの分類はなぜ必要か、その歴史を学ぶとともに、その意義、種類などについて学ぶ。
8	日本十進分類法（NDC）の仕組み	NDC の仕組みと、その応用方法について学ぶ
9	分類演習	NDC を用いて、実際に分類を行う。可能な範囲で、附属図書館等を活用して行う。
10	日本目録規則（NCR）の仕組み	NCR の仕組みと意義、またその歴史や種類等について知る。
11	目録演習	記述と記述を構成する書誌的事項等についての確認、及び演習を行う。
12	メディアの保存と装備	メディアの保存方法や提供方法について学ぶ。また、装備等の実習を行う。
13	図書館レイアウト	学校図書館のレイアウト計画を立て、その効率的な方法について考えるとともに、児童生徒にとって使いやすい図書館はどういう図書館か考える。
14	学校図書館メディアの実際・まとめ	講義全体を振り返るとともに、最近の動き等を確認しながら、これからの学校図書館について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
可能であれば実際に学校図書館に行き、学校図書館のレイアウト、分類、目録、配架を見て、メディアの全体像を具体的に掴むようにする。また、GIGA スクール構想等、ICT に関するメディアが多数学校教育の現場に入っていることを意識し、積極的にそれらのメディアの最新動向を知るとともに、活用にも努めること。なお、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
『学校図書館メディアの構成』「探究　学校図書館学」編集委員会編著　全国学校図書館協議会　２０２０
『改訂新版　学校図書館メディアの構成』北克一　平井尊士　放送大学教育振興会　２０１６
『学校図書館メディアの構成』小田光宏編　樹村房　２０１６
他、授業内適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業時の発言など授業への積極的な貢献度、レポート課題、演習課題。
平常点（授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）： 40 %
提出レポート「複数のメディアを使った授業を考える」： 20 %
演習課題等： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業もあるので、可能であれば自身のパソコンを用意することが望ましい。資料配布や課題提出に授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students learn how to use school library's functions and resources for teaching. For that purpose they learn an inquiry learning and information literacy. This subject is a weak point in Japanese school library. To realize that teaching needs using school library, library staffs(teacher librarian and school librarian)have to appeal the meaning of school library to teachers.
【Learning Objectives】
To acquire the knowledge of school library media necessary for school libraries, and to learn how to prepare for the selection process. After understanding the characteristics of each media, think about how to structure the media for users, and learn the meanings of classification and subject classification, and how to assign them. In addition, students will learn the basics of cataloging for media search and the basics of easy-to-use layout and arrangement of the library's collections.
【Learning activities outside of classroom】

If possible, actually visit the school library to see the layout, classification, cataloging, and distribution of the school library to get a concrete picture of the media as a whole. In addition, be aware that many ICT-related media, such as the GIGA school concept, have entered the field of school education, and actively learn about the latest trends in these media and strive to make use of them.

【Grading Criteria /Policy】

Positive contribution to the class, such as speaking up in class, report assignments, and exercise assignments.

Ordinary points (active contribution to class, small assignments during class): 40 %.

Submitted report "Thinking about teaching with multiple media": 20%.

Exercises, etc.: 40 %.

読書と豊かな人間性

有山　裕美子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館における読書活動について、「学び」と「読書」を軸にしながら、読書活動の意義と目的について押さえる。さらに、読書教育の歴史や児童文学の変遷について系統的に学ぶ。また、子どもの発達段階に応じた作品や指導方法を念頭に置きながら、心の教育としての読書、そして教育カリキュラムを支える読書のあり方についても考察する。

【到達目標】
学校図書館における読書活動について、その意義や実施方法等について多方面から考察するとともに、司書教諭としての基礎的、実践的な力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習や発表等を随時行い、受講生が主体的に学習に参加できるようにする。また、授業毎のリアクションペーパー提出の他、学生からの積極的な発信を期待する。可能であれば、実際に読書指導等を行っている場所への見学や外部ゲスト講師の招聘も検討したい。また、提出物に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行い、リアクションペーパーにおける質問やコメントは授業で紹介し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、授業の進め方、課題、評価の方法など。
第 2 回	読書活動の意義と目的	読書とは何か、学校図書館における読書指導の意義とは何かについて考える。
第 3 回	読書教育の歴史	子どもの読書活動の歴史、および子どもの読書活動の法律の変遷について学ぶ。
第 4 回	児童文学の変遷	日本や海外における子どものための作品がどのような変遷をたどってきているかについて学ぶ。読み継がれてきた本、新しい本の動向について理解する。
第 5 回	読書能力の発達	子どもの発達段階に応じた、読書能力の発達と、読書興味の発達について学ぶ。
第 6 回	発達段階に応じた読書の指導計画①	読書の導入的指導について、楽しみや生き方に関わる読書を中心に、発達段階に応じた資料を提示しながら考える。
第 7 回	発達段階に応じた読書の指導計画②	読書の展開的指導について、調べ学習を中心に、教科指導や総合的な学習の時間等における指導に重点を置きながら学ぶ。
第 8 回	読書資料の多様化と種類	子どもを取り巻く読書環境の現状、様々な形態やジャンルの図書について学ぶ。電子書籍や ICT を活用したものなど、出来るだけ新しい動向を取り入れる。
第 9 回	読書資料の選択	その発達段階に応じて、子どもに提供する本をどのように選んでいくかについて学ぶ。
第 10 回	読書体験の表現と交流	読書感想文や読書会、ビブリオバトルなど様々な読書体験の方法について学ぶ。
第 11 回	読書の指導方法①	読書に関する指導方法やイベント企画など、どのようなアプローチが考えられるか検討する。
第 12 回	読書の指導方法②	実際に企画した読書の指導方法等についての実演や発表を行う。
第 13 回	読書活動の展開 家庭や地域、公共図書館との連携	学校図書館活動の中で展開する読書活動について、図書委員会活動や図書館活動などの広報活動を中心に学ぶ。 また、家庭や地域、公共図書館との連携を考える中で、生涯学習としての読書のあり方について学ぶ。
第 14 回	振り返りとまとめ 学校図書館における読書の現状と今後の課題	これまでの学習内容を振り返り、学校図書館における読書活動及び読書指導についてまとめるとともに、現状や今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業で学んだことを復習し、次回の講義に備える。適宜プレゼンテーションや課題に向けての準備を行う。指示されたテキストを事前に読むなど。なお、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。なお、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。適宜資料を配布する。

【参考書】
『読書と豊かな人間性』「探究　学校図書館学」編集委員会編著　全国学校図書館協議会　２０２０年（2200 円）
『読書教育の未来』日本読書学会編　ひつじ書房　２０１９年 (5500 円)
『読書イベント実践事例集: 学校図書館が動かす』牛尾直枝・高桑弥須子・著　少年写真新聞社　2016 年（1944 円）、
ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加態度、課題・レポート、試験を総合的に評価する。演習やディスカッション等、積極的に講義に取り組む姿勢は、特に高く評価する。平常点（課題発表等を含む）50 点、課題・レポート 20 点、期末試験 30 点。

【学生の意見等からの気づき】
講義等における学生の意見を尊重しながら、講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業もあるので、可能であれば自身のパソコンを用意することが望ましい。資料配布や課題提出に授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
本講義は、司書教諭資格を取得するための科目である。

【授業中に求められる学習活動】
D,E,F,G

【Outline (in English)】
【Course outline】
Regarding reading activities at school libraries, our course will focus on their meaning and purpose with a particular emphasis on the learning and reading. Besides, you will systematically learn about the history of reading education and the transition of child literature. While keeping in mind the school work and teaching method corresponding to children's formative stage, you will view reading as an education of the brain and look into the way it can support the curriculum.
【Learning Objectives】
To examine the significance and implementation methods of reading activities in school libraries from various perspectives, as well as to acquire basic and practical skills as a librarian-teacher.

【Learning activities outside of classroom】
Review what you have learned in each class and prepare for the next lecture. Prepare for presentations and assignments as appropriate. Read the assigned textbooks in advance, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. The standard preparation/review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attitude toward class participation, assignments/reports, and examinations will be evaluated comprehensively. Attitude to actively engage in lectures, such as exercises and discussions, will be especially highly evaluated. 50 points for regular class work (including presentations on assignments, etc.), 20 points for assignments and reports, and 30 points for the final examination.

情報メディアの活用

有山　裕美子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ICT の発展に伴い、学校（図書館）が扱うメディアは多様化している。本講義では、情報メディアの歴史をはじめ、その種類や活用方法などを多面的に学ぶ。また、知的財産権などの法律や、デジタル・シティズンシップ、社会的連携や特別支援など、情報を活用する上で押さえねばならない法的根拠や主体的に学ぶ態度などについても学ぶ。

【到達目標】
情報メディアの種類や活用方法を知るとともに、それらを生徒に提供する上での法的根拠やデジタル・シティズンシップを身につけるとともに、現場で実践するための知識や方法を取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
随時、ワークショップやディスカッションを取り入れるので、各自興味関心を持って積極的に取り組んでほしい。また、近所の公共図書館など､様々な図書館を積極的に利用・見学しておくこと。また、提出物に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム等を通じて行い、リアクションペーパーにおける質問やコメントは授業で紹介するなど、随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要、進め方などについての説明を行う。
第 2 回	情報メディアとは何か	情報メディアとは何かについて、情報メディアの種類、情報メディアのや特性とリテラシー、および情報メディアの特性に応じた活用方法や、その情報機器の整備や管理等について学ぶ。
第 3 回	情報メディアの歴史／教育現場における ICT 活用の変遷	情報メディアの歴史について、総務省情報通信白書などを参考にしながら、高度情報社会としての現代社会や、情報化における動向について学ぶ。また、GIGA スクール構想や、Society5.0 など、学校教育をめぐる動向にも注目する。
第 4 回	情報通信基盤の技術的背景	インターネットでの情報通信に用いられる技術や暗号化の技術、検索エンジンの技術やアルゴリズムなどについて学ぶ。
第 5 回	学習指導要領と情報メディア	学校図書館の意義・目的について、教育課程の編成と学校図書館のかかわりや、学習指導要領に書かれた学校図書館に関わり記述等にも触れながら、「学校図書館とは何か」という問題について、の再確認を行う。また、新学習指導要領とメディア情報リテラシーの関わりについても触れる。
第 6 回	知識基盤社会における情報活用能力の育成／学びのプロセス	「教育の情報化に関する手引」などを参考に、現代社会に求められる情報活用能力の育成のあり方について検証する。また、情報活用プロセスモデルを取り上げながら、学びのプロセスと学校図書館との関わり、情報リテラシー育成の意義と目的、そして新学習指導要領における「情報活用能力」とは何かについて考える。
第 7 回	情報メディアの種類／古典的メディアを中心に	情報資源の変化について学ぶ。レファレンスブックっを中心に、雑誌や新聞活用についても取り上げる。
第 8 回	情報メディアの教育的利用と活動事例	学校図書館と情報リテラシーにかかわる実践を取り上げ、紹介する。実際に和アークショップ等を行い、授業での活用方法を検討する。
第 9 回	学習ニーズに応える情報検索・情報収集	情報検索の過程について、情報要求の明確化、情報対象の選択、検索語の選択、検索の実施、検索結果の評価など、そのプロセスを追いながら、実践的に学ぶ。
第 10 回	各種インターネット情報源	インターネット上の情報源について、図書の文献情報を検索する、内容を示す記号等を検索する、論文・記事の文献情報を検索する、文献以外の情報を検索するなど、検索方法や目的を変えながら検索する方法を学ぶ。また、国立国会図書館のデータベース等の具体的な活用方法を学ぶ。
第 11 回	情報メディアの活用と知的財産制度／著作物の利用に関する諸問題	知的財産の概略を知るとともに、法に定められた各種の知的財産や、自由に利用できる情報知識とオープン化の動きなど、知的財産権について最新動向を学ぶ。また、子どもたちが関わる教室における著作物の利用について、著作権法 35 条を中心に、既存著作物の適法引用 や特定の人物、キャラクター等の利用、また、児童生徒の創造的活動と法規範などについて学ぶ。図書委員会活動の創作的活動や、授業における生徒の創作的活動など、学校教育における著作権について押さえる。
第 12 回	情報モラルからデジタル・シティズンシップへ	子どもたちが主体的に情報に向き合っていくためのデジタル・シティズンシップについて学ぶ。 SNS の投稿や、フェイクニュースなど具体的な例を取り上げながら、その課題と向き合い、実践的に考える機会とする。
第 13 回	学校図書館におけるネットワークや社会的連携 特別支援との関わり	相互協力や、学校図書館支援センターなどの社会的連携や、学校図書館の地域活動等に触れるとともに、特別な支援を必要とする児童生徒への対応や、そのデジタル活用における著作権法や学校教育法の改正等にも触れる。
第 14 回	学校図書館における情報メディアの課題と展望	学校図書館における情報メディアの課題と展望について、創造的な場としても学校図書館のあり方や電子書籍等の導入など、今後の課題と展望について取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
随時情報検索等を行い、情報の効果的活用方法取得を目指す。授業以外の場面でも、情報化の最新動向に常に目を向け、積極的に関わろうとすること。各回講義終了後は、講義内容についても目を通し、復習すること。なお、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
『情報メディアの活用 (探究 学校図書館学第 5 巻)』「探究 学校図書館学」編集委員会　学校図書館協議会 (2021/8/10)　978-4793322785
『メディアリテラシーを学ぶ: ポスト真実世界のディストピアを超えて 大学生の学びをつくる』坂本旬著　大月書店 (2022/1/26)
978-4272412433
『メディアリテラシー 吟味思考 (クリティカルシンキング) を育む』坂本旬　山脇岳志編著　時事通信社 (2021/12/22)　978-4788717978

ほか　適宜講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価は、講義内容の理解度（情報メディアの種類や特性、その活用方法など）および授業内における参加態度（プレゼンテーションやディスカッション等に積極的に参加しているか)、また、課題に向けての準備がしっかりとできているか、問題意識がしっかりしているか、自ら進んで課題に取り組む姿勢があるか等、総合的に評価する。
平常点（課題発表等を含む）60 点、課題・レポート 40 点

【学生の意見等からの気づき】
講義毎にリアクションペーパーを回収、生徒からの疑問や要望に応える。疑問点や、さらに深く学びたいことなど、是非積極的に発信して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業もあるので、可能であれば自身のパソコンを用意することが望ましい。資料配布や課題提出に授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
本講義は、司書教諭資格取得のための講義である。

【Outline (in English)】
【Course outline】
With the development of ICT, the media handled by schools (libraries) are becoming more and more diverse. In this lecture, students will learn about the history of information media, their types, and how to utilize them from various perspectives. We will also learn about the legal basis for using information, such as intellectual property rights, digital citizenship, social cooperation, and special support, as well as attitudes toward independent learning.
【Learning Objectives】
Acquire knowledge of the types of information media and how to use them, as well as the legal basis and digital citizenship in providing them to students, and acquire the knowledge and methods to put them into practice in the field.
【Learning activities outside of classroom】
Students will search for information as needed and aim to acquire methods for effective use of information. Students are encouraged to keep an eye on the latest trends in informatization outside of class and to be actively involved. After each lecture, students are expected to read through and review the lecture content. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The evaluation will be based on the level of understanding of the lecture content (types and characteristics of information media and how to use them) and the attitude of participation in class (whether the student actively participates in presentations, discussions, etc.), as well as on whether the student is well prepared for the assignment, has a solid awareness of the issues, and is willing to work on his or her own. The evaluation will be based on a comprehensive evaluation of the student's attitude toward the assignment. 60 points for regular work (including presentations on assignments, etc.), 40 points for assignments and reports.

社会教育概論Ⅰ／生涯学習論Ⅰ

栗山　究

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

成人の学習の基本的な特徴を探り、各地の住民の学びあいの実践と関連づけながら、現代社会に生きる私たちのくらしのなかに、さまざまな学びが生み出されていることへの理解を深めます。

社会教育施設（図書館・博物館・公民館など）をはじめ、地域の教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、住民の学びあいとその学びあいを支える人たちの役割を考察します。

以上を通し、社会教育に対する自らの考えを輪郭づけていくことで、生涯に亘る自らの学びの意味を探究していく基礎を養います。

【到達目標】

①くらしのなかに多様な学びの機会や場所が広範に存在していること、それらの学びや場所が生みだされてくる意味、背景や課題を理解し、説明できるようになります。
②司書・学芸員・社会教育主事・社会教育士をはじめとした学習支援者の役割や学習者の学びあいの条件整備のあり方を理解し、説明できるようになります。
③グループワーク等での受講者相互の意見交換や、文献を読む営みを通して、社会教育・生涯学習に関する自らの意見や考えを整理し、その意見や考えを簡潔に表現できるようになります。また、その意見や考えを他者へ円滑に伝えていく方法や、課題に対する他者との相互学習のあり方を検討できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義内容と関連して適宜、受講者相互の学びあいが促されるようなペア学習や、授業内で指定した文献等をグループメンバーで分担し、相互学習に取り組むグループワーク等を実施する対面授業です。

コメントシートに対するフィードバックは原則、翌週授業にて行います。

学習支援の一環として適時、学習支援システム「Hoppii」を活用します。

授業計画は、受講者の問題意識や興味関心の程度に応じて、柔軟に変更していく可能性があります。詳細は授業内で適宜指示していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	成人の学びの特徴	自分自身のこれまでの学びをふりかえる
2	成人の学習論の展開	文献と小グループ討議から基本となる特徴や課題を考察する
3	基礎教育の課題と展望	映像資料から前 2 回の学習の意義と課題を整理する
4	成人教育に関わる国際的議論	UNESCO での議論から前回学習内容をふりかえる
5	生涯学習という理念と学習権思想	グループワーク①課題に取り組む
6	ノンフォーマル教育の可能性	グループワーク①を実施する
7	グループワーク①発表会	グループ発表と映像資料から前半期の学習をふりかえる
8	日本における生涯学習概念の成立と社会教育実践	生涯学習、社会教育の概念を歴史的に概説する
9	学校教育・社会教育と生涯学習社会	映像資料からその理念と課題を再検討する
10	社会教育施設である図書館・博物館・公民館等の役割	グループワーク②課題に取り組む
11	地域社会に根ざした社会教育施設における実践	映像資料からその役割を検討する
12	住民の学びあいを地域で支える人たちの実践分析	グループワーク②を実施する
13	住民の学びあいから生まれた学習拠点における実践	グループワーク②のまとめを行い、授業内容をふりかえる
14	各自が参加・経験してきた実践事例のグループ別発表会	グループワーク③を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 第 13 回授業で提出する課題レポートの作成に向け、各自の調査と研究の時間が必要になります。この提出は、最終回の授業で実施するグループワーク③参加の必要条件となります。授業の初回に課題と方法を提示します。計画的に準備をして仕上げてきてください。
(2) 授業では単元に応じてグループを編成し、メンバー内で課題を分担し、事前・事後課題に取り組むグループワークが３回あります。
(3) 最終回終了後に期末レポートを提出します。配付教材やコメントシートはファイルを用意してまとめ、授業内容、グループワークやディスカッションで気づいたことを整理し、自分なりにふりかえる時間を自覚的につくってください。

上記（1）（2）（3）に向けた準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義では、各回テーマに応じて、担当教員が作成・編集した資料を配布します。

資料の一部は、学習支援システムより配信します。

【参考書】

「月刊社会教育」編集委員会編（各月発行）『月刊社会教育』旬報社、佐藤一子・大安喜一・丸山英樹編（2022）『共生への学びを拓く－ SDGs とグローカルな学び』エイデル研究所、浜口哲一（2000）『放課後博物館へようこそ－地域と市民を結ぶ博物館』地人書館など。

上記の参考書のほか、初回および各回の授業内で文献一覧を提示します。

【成績評価の方法と基準】

（1）課題レポート（40 %）、（2）期末レポート（30 %）、（3）授業への取組み姿勢（30 %）で判定し、総合評価 60 点以上を合格とします。（1）（2）の提出は単位修得の必要条件となります。

（1）は到達目標①の内容を具体的事例に即して深められていること、（2）は到達目標②の内容を授業で得た知見を活かして自身の言葉で論理的に考察できていること、（3）はグループワークへの積極的貢献が、それぞれ評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡を、学習支援システムを通して配信する場合もありますので、利用できる状態にしておいてください。可能な受講生は３回のグループワーク時、各自の PC やタブレットを用意して臨んで構いません。

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育職員（司書・学芸員・社会教育主事）の資格、社会教育士の称号の修得に必要な資格課程の必修科目の一つです。

より理解を深めるため、秋学期の社会教育概論Ⅱ（生涯学習論Ⅱ）との連続受講を推奨します。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn fundamental features in Adult Learning and understand that various learning is being created among our lives living in contemporary society while associating with ourselves or community education practices in each region as well as educational activity on social education facilities (libraries, museums, community learning centers, etc.) .

And we will discuss about these cases and ideas through Group-Works in this class and present the result of its to the class in there. For this reason, the standard preparation and review time for each lecture is 2 hours each. Grading will be based on the overall evaluation of twice reports (70%) and class attitude (30%).

社会教育概論Ⅱ／生涯学習論Ⅱ

栗山　究

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に修得した社会教育概論Ⅰ（生涯学習論Ⅰ）の学習内容をもとに「社会教育」概念の源流である地域で生活する私たちの学びあいに関する歴史と政策を、前半は青年期教育論、後半は図書館、公民館などの社会教育施設の問題を軸に、資料を通して訪ねていきます。
その上で、人口減少時代を迎え、格差や分断が顕在する今日の地域社会が抱えるさまざまな課題に向き合う、これからの生涯学習・社会教育のあり方を考察していきます。

【到達目標】
①日本の生涯学習に関する政策や社会教育実践の歴史的な展開過程を分析的に捉えられるようになります。
②人間形成を取り巻く今日の社会的な諸問題の克服の方途を、地域社会に基盤をおく教育実践から検討できるようになります。
以上から、受講生自身が自らの生活との接点を見出すことで、今日の地域社会の諸課題を乗り越え得る学びあいの論理を導き出せるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義内容と関連して適宜、受講者相互の学びあいが促されるようなペア学習を実施する対面授業です。
コメントシートに対するフィードバックは原則、翌週授業にて行います。
学習支援の一環として適時、学習支援システム「Hoppii」を活用します。
最終回授業では、各自の執筆した期末レポートを相互に検討する報告会を行います。
授業計画は、受講者の問題意識や興味関心の程度に応じて、柔軟に変更していく可能性があります。詳細は授業内で適宜指示していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期の授業内容のふりかえり
2	青年会と共同学習の実践	青年団の実践から考える
3	たまり場づくりの実践	青年と若者について
4	社会環境の変化と青年期教育の現在	青年教育と青年期教育の概念を整理する
5	学校から社会への移行の困難	現代社会における居場所論を考える
6	若者の社会参画を支援するとは	ユースワークという働きを考える
7	地域づくりを介した学びのあり方	教育福祉の概念を整理する
8	共生社会の実現に向けた実践とは	「自立」とは何かを考える
9	くらしに根ざす学びあいの拠点・空間づくり	自由大学や戦後初期の実践から考える
10	戦後の社会教育施設と住民自治	公民館のもつ理念を考える
11	戦後教育改革期における社会教育政策の展開	図書館を事例に考える
12	新自由主義政策の導入と生涯学習社会のゆくえ	図書館を事例に考える
13	国の目指す生涯学習関連施策の課題	今日の地域社会での実践と関連づけて考える
14	受講者の話しあい学習の実践とまとめ	期末レポート発表会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末レポートの作成および発表会への参加に向け、各自の調査と研究の時間が必要になります。配付教材やコメントシートはファイルを用意してまとめ、授業内容、ペア学習での話しあいで気づいたことを整理し、自分なりにふりかえる時間を自覚的につくってください。
上記の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義では、各回テーマに応じて、担当教員が作成・編集した資料を配布します。資料の一部は、学習支援システムより配信します。

【参考書】
佐藤一子『「学びの公共空間」としての公民館－九条俳句訴訟が問いかけるもの』岩波書店（2018 年）、神代健彦編『民主主義の育てかた－現代の理論としての戦後教育学』かもがわ出版（2021 年）、辻浩『＜共生と自治＞の社会教育－教育福祉と地域づくりのポリフォニー』旬報社（2022 年）など。
上記の参考書のほか、初回および各回の授業内で文献一覧を提示します。

【成績評価の方法と基準】
（1）期末レポート（60 %）、（2）授業の取組み姿勢（40 %）で判定し、総合評価 60 点以上を合格とします。（1）の提出は単位修得の必要条件となります。
（1）は到達目標に照らし、授業内容を踏まえ、自らの言葉で論理的に説明し、考察を深められていることが、（2）はペア学習への積極的貢献やコメントシートのやりとりを通した学習の深まりが、評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する連絡を、学習支援システムを通して配信する場合もありますので、利用できる状態にしておいてください。

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育職員（司書・学芸員・社会教育主事）の資格、社会教育士の称号の修得に必要な資格課程の必修科目の一つです。
より理解を深めるため、春学期の社会教育概論Ⅰ（生涯学習論Ⅰ）との連続受講を推奨します。

【Outline (in English)】
In this class, we will learn about history related to mutual learning in communities which is the origin of the idea of "Adult and Community education" and its these policies, based on the study in the spring semester (Introduction to Adult and Community Education I), with a focus on youth or social education facility issues in contemporary society in Japan.
For this reason, the standard preparation and review time for each lecture is 2 hours each. Grading will be based on the overall evaluation of twice reports (60%) and class attitude (40%).

図書館情報学概論Ⅰ

山口　洋

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
司書課程で最初に学ぶ科目として、図書館についての学習全般にわたる基礎的な内容を取り上げ、他の科目で学習する内容へのつながりや方向付けを示す。
具体的に図書館が存在する意義や役割、機能を理解し、歴史における図書館の歩みの概要を把握し、現状と課題、今後の展望について考える基本的力を養う。また司書に求められる姿勢を考える。

【到達目標】
本科目の到達目標は下記の通り。
1. 図書館の機能や社会における意義や役割について十分に理解できる
2. 図書館の歴史、利用者のニーズについて、説明できる
3. 公共サービスとして図書館の存在意義を理解し、説明できる
4. 情報専門家としての図書館職員の役割と資格について理解し、説明ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。なお適宜、受講生との討論も行う。学習支援システム hoppii を活用してレポートの提出、フィードバックを行う。また授業資料も hoppii で配信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	現代の図書館の現状、司書資格取得、就職についての現状を説明する
第 2 回	図書館とは何か	図書館の定義と意義、種類、生涯学習と図書館について学ぶ
第 3 回	世界史にみる図書館の発展	書物の誕生から図書館と書物の発展の歴史を学ぶ
第 4 回	日本における図書館の歴史	日本における近代図書館の歴史を学ぶ
第 5 回	図書館の理念 1	図書館と知的自由、民主主義、図書館の権利宣言を学ぶ
第 6 回	図書館の理念 2	ユネスコ公共図書館宣言、図書館の自由に関する宣言を学ぶ
第 7 回	図書館法規と行政、施策	図書館法と関連法の概略、図書館施策を学ぶ
第 8 回	地域社会と図書館	情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館の動向を学ぶ
第 9 回	公共図書館の制度と機能	図書館法、公共図書館の機能と課題を学ぶ
第 10 回	学校図書館の制度と機能	学校図書館法、学校図書館の機能と課題を学ぶ
第 11 回	国立国会図書館の制度と機能	国立国会図書館法、機能と課題を学ぶ
第 12 回	大学図書館、専門図書館の制度と機能	関連法規・基準、機能と課題を学ぶ
第 13 回	町田における図書館運動	浪江虔と地域文庫、多摩地域の図書館活動を学ぶ
第 14 回	まとめ	司書とはどういう仕事か、司書に求められることは何かを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。準備学習においてはテキストを熟読して、復習では授業内容、専門用語を復習し、発展学習として参考書など関連文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
塩見昇編著．図書館概論．五訂版．日本図書館協会，2018，280p，（JLA 図書館情報学テキストシリーズ III，１），ISBN978-4-8204-1813-9
今まど子, 小山憲司編著．図書館情報学基礎資料．第 4 版, 樹村房, 2022，154p，ISBN978-4-88367-365-0

【参考書】
竹内悊著．生きるための図書館：一人ひとりのために．岩波書店, 2019, 238p，(岩波新書, 新赤版 1783)，ISBN 978-4-0043-1783-8

【成績評価の方法と基準】
最終レポート 50 %、課題（小レポート、調査）及び受講報告（コメントペーパ）等 40 %、平常点（出席・取組等）10 %に換算して評価。合計で 100 点。60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
今年度新規担当のため記載なし

【学生が準備すべき機器他】
授業外の学生からの連絡や質問には hoppii を利用する

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当する
図書館司書及び図書館協議会委員の実務経験をもとに図書館活動の具体的事例を提示しながら解説する

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn basics of the library science.
【Learning Objectives】
The goals of this course.
① Understand the function of the library and a role in the society enough.
② Understand the history of the library and the civic request for the library.
③ Understand the significance of existence of the library as public service.
④ Understand the specialty of the librarian and can recognize the role.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours. Depending on the content of the lecture, we will instruct you to investigate terms and matters in advance. Use textbooks, and reference books for preparatory learning. Also, in the review, try to organize your knowledge so that you can explain the important matters of the lesson contents by yourself.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Final report:50%、Short reports:40%、in class contribution:10%

図書館情報学概論Ⅱ

竹之内　明子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人がインターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PC を利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】
この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PC を利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppi で毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」（レファ協）の解説と事例のまとめ
第 2 回	検索検定	情報科学技術協会（INFOSTA）検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第 3 回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ (1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第 4 回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ (2)	電子展示会ほか
第 5 回	国立国会図書館デジタルアーカイブ (1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第 6 回	国立国会図書館デジタルアーカイブ (2)	歴史的音源、WARP ほか
第 7 回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第 8 回	海外のデジタルアーカイブ	Europeana ほか
第 9 回	OPAC の比較	大学図書館と公共図書館
第 10 回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第 11 回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第 12 回	情報ユニバーサルデザイン (1)	Web アクセシビリティ
第 13 回	情報ユニバーサルデザイン (2)	カラーユニバーサルデザイン
第 14 回	情報ユニバーサルデザイン (3)	マルチメディア DAISY 図書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppi で、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回のまとめ課題 70 %（1 回 5 点 ×14 回），学期末レポート 30%
評価の基準：
1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

【学生の意見等からの気づき】
調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
PC 教室で実施します。オンライン授業の回は PC を使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.
【Learning Objectives】
In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.
At the end of the course,students expected to acquire the information literacy as a librarian.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to spend
at least two hours for each class meeting. Everyweek on the Hoppi,students are required to complete weekly
assignments.
【Grading Criteria】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Weekly short reports:70 %
2) Term-end report:30%
Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.
3)Evaluation criteria
・Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.

・Ability to explain information technology assuming users with special needs.
・Ability to operate information devices in order to create reports.

図書館制度・経営論

山口　洋

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館に関する法令、条例、図書館政策、図書館行政について学ぶとともに、図書館経営の考え方や職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学ぶ。また、現代の図書館を巡る諸問題についても解説し、司書としての必要な知識の習得も目指す。

【到達目標】
図書館制度と経営の基礎知識を習得する。
1　図書館法を始めとする図書館に関する法令が理解できる
2　公立図書館の制度・政策・経営の知識を深めることができる
3　上記の知識を活用して図書館における諸課題について自ら考えられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。なお適宜、受講生との討論も行う。学習支援システム hoppii を活用してレポートの提出、フィードバックを行う。また授業資料も hoppii で配信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館をめぐる法体系	1．日本国憲法　2．教育基本法　3．社会教育法　4．図書館法
第 2 回	図書館法逐条解説 1 総則	1．図書館法の目的と図書館の定義　2．図書館奉仕　3．司書および司書補　4．設置及び運営上望ましい基準
第 3 回	図書館法逐条解説 2　公立図書館および私立図書館：	1．公立図書館の設置 2．公立図書館の職員 3．図書館協議会 4．入館料など 5．公立図書館の補助 6．私立図書館 7．図書館同種施設
第 4 回	地方自治体の図書館関連条例など	1．公共図書館の法的根拠 2．地方自治体における関係法令 3．地方自治体における物品管理（図書館の場合）
第 5 回	他館種の図書館に関する法律など	1．他館種との連携　2．学校図書館　3．国立図書館　4．大学図書館　5．そのほかの図書館
第 6 回	図書館サービス関連法規	1．読書に関連する法律と図書館サービス　2．著作権法と図書館サービス　3．個人情報の保護に関する法律と図書館サービス　4．労働関連法規と図書館サービス
第 7 回	図書館政策（国，地方自治体）	1．国の生涯学習政策 2．国の図書館政策 3．都道府県の図書館政策
第 8 回	公共機関・施設の経営方法と図書館経営	1．経営とは何か 2．公共機関・施設の経営方法 3．公立図書館の経営
第 9 回	図書館の組織・職員 1	1．教育委員会　2．組織構成　3．図書館長の役割　4．人事管理
第 10 回	図書館の組織・職員 2	1．図書館協議会　2．図書館を支える住民団体　3．図書館ボランティア
第 11 回	図書館の施設・設備	1．図書館建築のあり方　2．図書館建築計画書の実践　3．図書館の設置及び運営上の望ましい基準における施設・設備
第 12 回	図書館のサービス計画と予算の確保	1．図書館のサービス計画　2．予算の確保
第 13 回	図書館業務／サービスの調査と評価	1．図書館業務／サービスの調査　2．図書館業務／サービスの評価
第 14 回	図書館の管理形態の多様化	1．管理運営、業務の外部化　2．業務委託　3．指定管理者制度　4．ＰＦＩと市場化テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。準備学習においてはテキストを熟読して、復習では授業内容、専門用語を復習し、発展学習として参考書など関連文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
手嶋孝典編著．図書館制度・経営論．第 2 版，学文社，2017，154p，(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望，5)，ISBN978-4-7620-2701-7
今まど子, 小山憲司編著．図書館情報学基礎資料．第 4 版, 樹村房, 2022，154p，ISBN978-4-88367-365-0
適宜プリントを配布

【参考書】
鑓水三千男著．図書館と法：図書館の諸問題への法的アプローチ．改訂版増補，日本図書館協会，2021，（ JLA 図書館実践シリーズ，12），ISBN 9784820421009
e-gov 法令検索サイト、日本図書館協会ウェブサイト、例規集などへのアクセスや検索方法は授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】
小テスト 50 %、課題（小レポート）及び受講報告（コメントペーパ）等 40 %、平常点（出席・取組等）10 %に換算し、合計で 100 点。60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
今年度新規担当のため記載なし

【学生が準備すべき機器他】
授業外の学生からの連絡や質問には hoppii を利用する

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当する。
図書館司書及び図書館協議会委員の実務経験をもとに、図書館制度や運営の実際を具体的に解説する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn about a system and the management about the library.
【Learning Objectives】
The goals of this course.
① Understand the laws and ordinances about the library.
② Understand the knowledge of a policy, the management of the public library.
③ Understand the significance of existence of the library as public service.
④ Understand the problems of the public library.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours. Depending on the content of the lecture, we will instruct you to investigate terms and matters in advance. Use textbooks, and reference books for preparatory learning. Also, in the review, try to organize your knowledge so that you can explain the important matters of the lesson contents by yourself.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Final Shot test:50%、Short reports:40%、in class contribution:10%

図書館サービス概論

有山　裕美子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一口に図書館サービスといっても、地域や館種によって様々な違いがある。本授業では、公共図書館を中心に、実際の図書館におけるサービスを例に挙げながら、図書館サービスの種類及び概略について知るとともに、それぞれのサービスのあり方について学ぶ。また、理論と実践を結びつけ、実際にサービス計画を立てることで、図書館というフィールドにおけるサービスのあり方、および課題解決に向けての方策について考察する。

【到達目標】
公共図書館を中心に、そのサービス概要について知るとともに、自身が図書館員となった時に、様々な角度から図書館サービスをとらえるための視点を持つ。また、図書館サービスの現状を評価分析し、課題を把握し、改善を提案していくことが出来ることを目標とする。さらに講義の中では、自身が描くサービス計画を実際に立案し、その評価を具体化しながら、わかりやすい形でまとめ、プレゼン等で他者に的確に伝えるなど、現場に出てからの実践力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
随時、ワークショップやディスカッションを取り入れるので、各自興味関心を持って積極的に取り組んでほしい。また、近所の公共図書館など､様々な図書館を積極的に利用・見学しておくこと。また、提出物に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム等を通じて行い、リアクションペーパーにおける質問やコメントは授業で紹介するなど、随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要、進め方などについての説明を行う。
第 2 回	図書館サービスの意義と役割	図書館の種類や、それぞれの館種における図書館サービスの概略を知るとともに、その意義と役割について考える。
第 3 回	図書館サービス計画の立案と工夫／公共図書館における情報ネットワーク	図書館サービス計画を立案する上での留意点や、工夫することなどについて考える。 公共図書館における役割分担や、情報ネットワーク、広域利用のあり方など、具体的な図書館の例を挙げながら学ぶ。
第 4 回	資料や情報を提供するための準備／排架の工夫と館内サイン／ディスプレイ	資料や情報提供する上での、資料の分類や目録、デジタル化などについて学ぶ。 図書館のレイアウトや排架の工夫、館内サインやディスプレイについて考える。
第 5 回	資料提供に関するサービス	貸出サービスや利用者登録、返却や督促、リクエストサービスなど、資料提供の意義と種類を知る。
第 6 回	情報提供サービス	レファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、オンライン・データベースを利用した情報検索など、情報サービスの意義と種類を知る。 利用者からの相談や質問回答サービス、インターネット活用等について考える。
第 7 回	広報活動と利用者サービスの展開・コミュニケーション／図書館利用教育と情報活用能力の育成	広報活動の意義と方法、種類などを知る。 利用者に対する接遇とコミュニケーションについて知る。 図書館利用教育の種類と方法、情報活用能力の育成について考える。
第 8 回	利用対象者別の図書館サービス①／児童サービス／ YA サービス	児童サービスや YA サービスについて考える。また、児童サービスの実演や、お話会のプログラム作成などを行う。
第 9 回	利用対象者別の図書館サービス②／高齢者サービス／障害者サービス	高齢者や障害者に対するサービスのあり方について考える。
第 10 回	利用対象者別の図書館サービス③／多文化サービス／外部機関との連携	多文化サービスや、学校図書館支援を始めとした外部機関との連携について考える。
第 11 回	図書館サービスをめぐる著作権問題／利用者とモラル	著作権制度について知るとともに、図書館における著作権の種類と概要について知る。 電子書籍など電子メディアに関する著作権について知る。
第 12 回	図書館サービス計画立案	今までの学びを通して、自分が興味を持った分野について実際に図書館サービスの立案を試みる。
第 13 回	図書館サービス計画立案プレゼンテーション	それぞれが作成した図書館サービスについての発表を行う。発表方法は、受講者数に応じて検討する。
第 14 回	試験・まとめと解説	学習のまとめと振り返りを行うとともに、図書館サービスにおける課題に答える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後半部分で、実際のサービス計画を立案するので、そのことを意識しながら受講するとともに、休みの日を利用して近所の公共図書館等を積極的に活用すること。講義期間中に、実際に利用 (見学）した公共図書館に関わる課題を課す。各回の講義内容についても目を通しておくこと。なお、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
『図書館サービス概論　改訂第 2 版』現代図書館情報学シリーズ・・・４　高山正也・植松貞夫　監修　樹村房　２０２０年　2160 円　978-4-88367-294-3
『図書館サービス概論　第２版　』金沢みどり　ほか　学文社　2016 年　2160 円　978-4762025822
ほか、講義内で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間レポートと期末レポート、レポートを元にしたプレゼンテーションを講義内で課す。これらにおいては、論点をしっかりと押さえた上で、自分なりの分析、および評価、課題提起ができているかどうかを評価する。また、授業内における参加態度、プレゼンテーションやディスカッションに積極的に参加しているか、また、課題に向けての準備がしっかりとできているか、問題意識がしっかりしているか、自ら進んで課題に取り組む姿勢があるか等、総合的に評価する。平常点（課題発表等を含む）60 点、課題・レポート 40 点

【学生の意見等からの気づき】
講義毎にリアクションペーパーを回収、生徒からの疑問や要望に応える。疑問点や、さらに深く学びたいことなど、是非積極的に発信して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業もあるので、可能であれば自身のパソコンを用意することが望ましい。資料配布や課題提出に授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
本講義は、司書資格取得を目指すための科目である。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Even when the same term of library services are in use, those services differ depending on the areas or the library types. In this class, you will learn about library types and outlines, taking examples from actual services, mainly at public libraries. You will also study the way individual services will unfold. Also, by linking theory and practice and setting up prospective service plans, you will look into ideal services in the field of libraries as well as feasible measures to solve outstanding issues.
【Learning Objectives】
The course aims to provide students with an overview of library services, with a focus on public libraries, and to give them a perspective from which they can view library services from various angles when they become librarians themselves. The goal is for students to be able to evaluate and analyze the current state of library services, identify problems, and propose improvements. In the lectures, students will actually formulate their own service plans, and while making concrete evaluations of those plans, summarize them in an easy-to-understand form and accurately communicate them to others through presentations, etc., aiming to acquire practical skills that will be useful when they go out into the field.
【Learning activities outside of classroom】
In the latter part of the lecture, you will be planning the actual service plan, so you should take the class with this in mind and actively use the public libraries in your neighborhood on your days off. During the lecture period, students will be required to complete assignments related to public libraries they have actually used (or visited). Students are also expected to read through the content of each lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
A mid-term report, a final report, and a presentation based on the reports will be assigned in the lecture. In these reports, students will be evaluated on their ability to analyze, evaluate, and raise issues based on a solid grasp of the issues. In addition, students will be evaluated comprehensively on their participation in class, whether or not they actively participate in presentations and discussions, whether or not they are well prepared for the assignments, whether or not they have a solid awareness of the issues, and whether or not they are willing to tackle the assignments on their own initiative. Ordinary points (including assignment presentations, etc.): 60 points, Assignments and reports: 40 points.

児童サービス論

松田　ユリ子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共図書館の専門職として司書が持つべき児童サービスについての知識の習得を目指す。公共図書館における子どものための図書館サービスについて広い視野から理解し、人々の生涯に渡る学習と楽しみのために子どものための図書館サービスが果たすべき役割について考える。

【到達目標】
(1) 図書館サービスの対象者である「子ども」について知る。
(2)「子ども」向けの図書館資料について知る。
(3)「子ども」と資料とを結びつける活動の企画や実施、評価方法について知る。
(4) 地域や学校などとの協働活動について知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する。
翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをディスカッションする。
提出物に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のすすめ方と概要
第 2 回	児童サービスの意義	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 3 回	子どもの生活と読書	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 4 回	児童サービスの資料	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 5 回	児童コレクションの形成と管理	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 6 回	児童サービスの諸活動	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 7 回	児童サービスの運営	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 8 回	子どものための図書館プログラム	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 9 回	子どもと資料をつなぐ技術	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。また実際に技術を体験する。
第 10 回	乳幼児サービス／ヤングアダルトサービス／特別な支援	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 11 回	子どもの読書活動推進とネットワーク／学習支援と学校図書館	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 12 回	様々な児童サービスと連携	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 13 回	まとめ	まとめと最終課題の提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。その他に、児童図書館や公共図書館児童コーナーの体験調査を課す。(ただし、緊急事態宣言等で図書館が閉館している場合はこの限りではない）また、講義で取り上げられた資料を中心に、できるだけ多くの児童サービスのための資料を読むこと。

【テキスト（教科書）】
堀川照代編著. 児童サービス論 新訂版 (JLA 図書館情報学テキストシリーズ Ⅲ-6). 日本図書館協会, 2020.

【参考書】
汐崎順子著『児童サービスの歴史:戦後日本の公立図書館における児童サービスの歴 史』創元社, 2007 東京子ども図書館編『ブックトークのきほん:21 の事例つき』東京子ども図書館，2016.
日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会『児童図書館サービス 1:運営・サービス編』日本図書館協会, 2011.
日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会『児童図書館サービ ス 2:児童資料・資料組織編』日本図書館協会, 2011.
望月道浩, 平井歩実編著『児童サービス論』学文社, 2015.

【成績評価の方法と基準】
各レポート提出が最低条件である。レポート 70 %、最終レポート 30 %の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
例年身近な公共図書館の児童サービスをできる限り現地で見聞きすることを課してきたが、施設によって担当者へのインタヴュー等が難しい場合があった。そこで、学生としてではなく、児童資料を利用する一利用者としての体験を課し、そこから分かったことを持ち寄って議論する方法を取ることとしたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要だが、用意できない場合は相談すること

【その他の重要事項】
教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】The goal of this course is to provide students with the knowledge required to plan, implement and evaluate a program of public library services for children.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to understand library services for children in public libraries from a broad perspective, and to consider the role that library services for children should play in people's lifelong learning and enjoyment.
【Learning activities outside of classroom】 Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text, and submit a report on the assigned topic by the due date.
【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (70%), term-end report (30 %), and in-class contribution.

情報サービス論

竹之内　明子

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等の基礎知識、レファレンスブック・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説し、これらのサービスの意義と方法、情報源の理解をめざします。

【到達目標】
この授業では、終了時に以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 図書館における情報サービスの意義と方法について、自分の言葉で表現できるように理解する。
2) 図書館の情報サービスに必要な各種情報源、レファレンス・ツールの活用法、レファレンスの事例について学習し、よりよいサービスのあり方について創意工夫を重ねる姿勢を身に着ける。
3) 図書館の情報サービスの現状・問題点について考察し、多くの人が利用しやすい情報サービスの形について構想する。
4) 曖昧な情報ニーズを持ちながら明確な情報要求に具体化できない図書館利用者を助けるスキルとマインドを身に着ける。
5) 図書館利用者個人では解決困難な調査課題に対して、司書が図書館の情報資源を活用してどのように対応しているか、事例をもとに学び、レファレンスサービスを充実させる調査力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストをもとに講義をおこない、テキストの内容を補足する事例等を紹介する。随時、各回の内容に関連した演習課題を課す。受講生は毎回のまとめ課題を Hoppi から提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報社会と図書館の情報サービス	ウェルビーイングに資する図書館の情報サービスについて学ぶ
第 2 回	図書館における情報サービスの種類	直接サービス、間接サービス、課題解決型サービスについて学ぶ
第 3 回	図書館における情報サービスの理論的展開	自由理論、保守理論、中間理論について学ぶ
第 4 回	レファレンスサービスの理論と実践	レファレンスサービスの機能、レファレンスプロセスについて学ぶ
第 5 回	レファレンスサービスの実際	レファレンスに生かす発想法、レファレンスプロセスインタビューの方法、回答の制限と除外について学ぶ
第 6 回	情報検索サービスの理論と方法	論理演算、検索結果の評価指標等について学ぶ
第 7 回	各種情報源の特質と利用法１（情報メディア・文献を探す）	図書資料を探すための書誌と目録、総合目録について学ぶ
第 8 回	各種情報源の特質と利用法２（論文・記事を探す）	雑誌記事索引、論文データベースについて学ぶ
第 9 回	各種情報源の特質と利用法３（事項を探す）	サーチエンジン、Web サイトの信頼し得、ネットワーク情報資源の種類と利用法について学ぶ
第 10 回	各種情報源の解説と評価	代表的なレファレンスブックについて学ぶ
第 11 回	発信型情報サービスの意義と方法	Web や SNS を通じた図書館の発信型情報サービスについて学ぶ
第 12 回	情報サービスに関わる知的財産権	産業財産権とパブリックドメインについて学ぶ
第 13 回	図書館利用教育と情報リテラシーの育成	公共図書館における情報リテラシー教育について学ぶ
第 14 回	情報サービスの課題と展望	図書館がおこなう情報サービスの展望について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として、テキストを事前に読み込むことが求められます。
Hoppi で、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書『情報サービス論』（ベーシック司書講座・第 4 巻）竹之内禎編著　学文社　1800+税　ISBN978-4-7620-2194-7

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
■出席要件
14 回中、11 回以上の課題提出が単位取得の前提条件となります。
■各回の提出課題（100 %）
各回の授業内での提出課題の内容により、授業内容を理解できているか、課題に積極的に取り組んだか、復習を行って知識の定着を図ったかどうか、自分の言葉で正確にまとめられているかどうかを判断します。人名や固有名詞等の文字の記述の丁寧さ、正確さも判断基準に含まれます。

【学生の意見等からの気づき】
受講生自身が図書館でレファレンスサービスを利用したことがない、という声を耳にします。授業を通じてレファレンスサービスのイメージを持ってもらい、受講生自身にもレファレンスサービスを身近に感じてもらえるような学びを提供したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
情報サービス演習の前提となる科目です。
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，図書館において必要とされる情報サービスの知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lecture, students will learn about the significance of information services in libraries.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand information services in libraries and to acquire basic knowledge of reference services and information retrieval services, information sources such as reference books and databases, new services such as library utilization education and dissemination information services.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.Everyweek on the Hoppi students are required to complete weekly assignments.
【Grading Criteria】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1)Students must submit at least 11 out of 14 assignments to receive credit.
2)Weekly short reports:（100 %）

Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.

情報サービス演習

竹之内　禎

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館における情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供し、または情報入手を支援するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。この授業では、演習をとおして利用者の情報ニーズを満たすための情報サービスの具体的な方法について学びます。

【到達目標】
1. 利用者の情報要求を把握し、適切な情報源を選ぶことができる。
2. 利用者の質問に対応して、的確な回答を提供することができる。
3. 講義内容を理解し、演習レポートを適切にまとめることができる。
4. 利用者向けのレファレンスサービス案内を企画・作成し、報告することができる。また、他の受講生の報告を適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
レファレンスサービスの具体的な方法、レファレンスブック（事典類）やインターネット情報源について、事例を参考にしながら解説します。利用者の情報要求を把握して適切なレファレンス回答を見出し的確に伝えられるよう、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス、情報サービスの設計と評価、レファレンスサービス	授業の概要ついて説明します。図書館における情報サービスの全体像と、その核となるレファレンスサービスの概要を学び、それを踏まえて情報サービスの設計と評価について理解します。
第 2 回	レファレンスサービスと情報源	レファレンスサービスの事例から、使用されている情報源を確認しながら検討します。
第 3 回	レファレンスプロセスとインタビュー、レファレンスの記録	利用者の質問にはじまり図書館員の回答にいたるレファレンスサービスの処理過程について、レファレンスサービスの事例をもとに、利用者と図書館員の双方の視点から考察します。また、レファレンス事例の記録方法について学びます。
第 4 回	哲学・心理学・宗教に関するレファレンスツールの調査	図書館で哲学・心理学・宗教に関するレファレンスツールを調査します。
第 5 回	哲学・心理学・宗教に関するレファレンス回答事例の調査・報告	レファレンス事例集から参考事例を検索し、利用者に寄り添って調査・回答している事例を選び、使用されている情報源とレファレンスプロセスを確認します。
第 6 回	歴史・伝記に関するレファレンスツールの調査	図書館で歴史・伝記に関するレファレンスツールを調査します。
第 7 回	歴史・伝記に関するレファレンスツールの報告	図書館で調査した歴史・伝記に関するレファレンスツールについて報告します。
第 8 回	地理・地域事情に関するレファレンスツールの調査	図書館で地理・地域事情に関するレファレンスツールを調査します。
第 9 回	地理・地域事情に関するレファレンスツールの報告	図書館で調査した地理・地域事情に関するレファレンスツールについて報告します。
第 10 回	歴史・伝記に関するレファレンス回答事例の調査・報告	レファレンス事例集から参考事例を検索し、利用者に寄り添って調査・回答している事例を選び、使用されている情報源とレファレンスプロセスを確認します。
第 11 回	地理・地域事情に関するレファレンス回答事例の調査・報告	紙媒体の資料とインターネット情報源を複合的に活用して、ニーズにあった情報を獲得する方法を把握します。
第 12 回	社会科学領域のレファレンスツールの調査	図書館で社会科学領域のレファレンスツールを調査します。
第 13 回	社会科学領域のレファレンス回答事例の調査・報告	レファレンス事例集から参考事例を検索し、利用者に寄り添って調査・回答している事例を選び、使用されている情報源とレファレンスプロセスを確認します。
第 14 回	社会科学領域のレファレンスツールの報告	図書館で調査した社会科学領域のレファレンスツールについて報告します。
第 15 回	芸術に関するレファレンスツールの調査	図書館で芸術に関するレファレンスツールを調査します。
第 16 回	芸術に関するレファレンスツールの報告	図書館で調査した芸術に関するレファレンスツールについて報告します。
第 17 回	芸術に関するレファレンス回答事例の調査・報告	レファレンス事例集から参考事例を検索し、利用者に寄り添って調査・回答している事例を選び、使用されている情報源とレファレンスプロセスを確認します。
第 18 回	文学に関するレファレンスツールの調査	図書館で文学に関するレファレンスツールを調査します。
第 19 回	文学に関するレファレンスツールの報告	図書館で調査した文学に関するレファレンスツールについて報告します。
第 20 回	レファレンスサービスのための文学史	レファレンスサービスに必要な日本文学及び世界文学の基礎知識を学びます。
第 21 回	文学に関するレファレンス事例の調査・報告	レファレンス事例集から参考事例を検索し、利用者に寄り添って調査・回答している事例を選び、使用されている情報源とレファレンスプロセスを確認します。
第 22 回	自然科学・工学・生活科学・産業領域のレファレンスツールの調査	図書館で自然科学・工学・生活科学・産業領域のレファレンスツールを調査します。
第 23 回	自然科学・工学・生活科学・産業領域のレファレンス事例の調査・報告	レファレンス事例集から参考事例を検索し、利用者に寄り添って調査・回答している事例を選び、使用されている情報源とレファレンスプロセスを確認します。
第 24 回	自然科学・工学・生活科学・産業領域のレファレンスツールの報告	図書館で調査した自然科学・工学・生活科学・産業領域のレファレンスツールについて報告します。
第 25 回	学術文献の探索	学術文献データベース探索法（J-STAGE、CiNii Research、Google Scholar、Web of Science、Scopus、PubMed）

第 26 回	統計、法令・判例、特許情報資源	e-Gov 法令検索、政府統計の総合窓口（e-Stat）、OECD Stat、特許情報プラットフォーム J-PlatPat
第 27 回	言語に関するレファレンスツールの調査	図書館で言語に関するレファレンスツールを調査します。
第 28 回	言語に関するレファレンスツールの報告	図書館で調査した言語に関するレファレンスツールについて報告します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の 2/3 以上の出席と 2/3 以上の課題提出を単位取得の前提として、情報サービスに関する報告、演習（課題に対する回答の提出内容）によって総合的に評価します。配分は授業での報告 50 %、課題提出 50 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】
大学図書館所蔵の限られたレファレンスブックだけでなく、オンライン情報資源も活用してレファレンス回答を行う手法を検討していきます。

【その他の重要事項】
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。
対面授業は、原則として図書館での演習となります。掲示、連絡等を確認してください。

【Outline (in English)】
Course outline
Students learn about how to respond user's need.
Firstly, go to library and research various books.
Secondly, search databases through the Internet.
Thirdly, make presentations about research results and learn how to express them effectively.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To be able to understand user's information needs and select appropriate information sources.
2. To be able to respond to user questions and provide accurate answers.
3. To be able to understand the contents of lectures and appropriately summarize exercise reports.
4.To be able to plan, create, and report on reference service guides for users. In addition, students can appropriately evaluate the reports of other students.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Grading will be decided based on reports in class (50%), and the quality of reports submitted online (50%).

図書館情報資源概論

山口　洋

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館資料の特質と、資料選択、収集、保存、蔵書管理に関わる業務について解説します。また出版流通や著作権、資料収集提供に関わる諸問題についても触れます。

【到達目標】
①図書館における各種資料の特徴を説明できる
②資料収集、保存、提供の役割を説明できる
③現在の図書館界における資料の課題を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。なお適宜、受講生との討論も行う。学習支援システム hoppii を活用してレポートの提出、フィードバックを行う。また授業資料も hoppii で配信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源	図書館情報資源とは何か？ 図書館におけるその意義を考える
第 2 回	情報資源の歴史	情報の記録化とメディアの歴史について解説する
第 3 回	印刷資料	図書館資料の中で印刷資料について解説する
第 4 回	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料について解説する
第 5 回	電子資料	パッケージ系電子メディアとネットワーク情報資源について解説する
第 6 回	出版流通システム	日本における出版流通の仕組みを解説し、図書館との関わりを考える
第 7 回	図書館の「知的自由」1	図書館の知的自由と図書館資料との関係を収集・提供の視点から考える
第 8 回	図書館の「知的自由」2	具体的な事例を検討して考える
第 9 回	資料の収集と選択 1	資料収集と選択の理論と実践を解説する
第 10 回	資料の収集と選択 2	収集方針の意義を実例から考える
第 11 回	蔵書管理	蔵書管理の意義と仕組みを解説する
第 12 回	資料の組織化	資料の受け入れ、登録、装備、予算管理について解説する
第 13 回	書庫管理	書庫管理の意義、蔵書点検、資料保存について解説する
第 14 回	まとめ	図書館資料の意義を再び考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。講義内容に応じて、事前に用語や事項の調査を指示します。テキストや参考図書、実際の図書館を利用して準備学習をしましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてましょう。

【テキスト（教科書）】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論　改訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ； 8）、日本図書館協会、2018
今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』第 4 版、樹村房、2022

【参考書】
前川恒雄､石井敦共著『新版　図書館の発見』（NHK ブックス）、2006
竹内さとる著『生きるための図書館』（岩波新書）、2019
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、小レポート 20%，最終レポートを 60%として，以下の点を評価します。
①図書館における各種資料の特徴を説明できる
②資料収集、保存、提供の役割を説明できる
③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【学生の意見等からの気づき】
授業内では文献の読解や意見交換を盛んにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業外の学生からの連絡や質問には hoppii を利用する

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当する。
図書館司書の実務経験をもとに、図書館資料に関する業務活動を念頭に解説する。

【授業中に求められる学習活動】
C,D,E

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn the characteristics of library materials and the work related to the selection, collection, storage, and collection management of library materials.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Explain the characteristics of various materials in the library.
② Explain the role of collecting, storing, and providing materials.
③ Understand the current trends in material organizations in the library world.
④ Understand and explain related terms, laws and regulations.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours. Depending on the content of the lecture, we will instruct you to investigate terms and matters in advance. Use textbooks, and reference books for preparatory learning. Also, in the review, try to organize your knowledge so that you can explain the important matters of the lesson contents by yourself.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Final reportn:60%、Short reports:20 %、in class contribution:20%

図書館情報資源特論

山口　洋

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館資料について、公立図書館で重視される逐次刊行物、政府刊行物、地域資料を中心に学習します。また資料の収集・提供に関する諸問題について検討します。

【到達目標】
①公共図書館における資料の特徴を説明できる
②各種資料の収集、運用方法を説明できる
③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。なお適宜、受講生との討論も行う。学習支援システム hoppii を活用してレポートの提出、フィードバックを行う。また授業資料も hoppii で配信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源 図書資料とは	この授業で扱う図書館資料の図書館における意義を考える
第 2 回	図書資料と逐次刊行物	図書資料の特徴を確認する。逐次刊行物の特徴を解説する
第 3 回	逐次刊行物の運用	逐次刊行物の運用を解説する
第 4 回	政府刊行物 1	政府刊行物の特徴と種類を解説する
第 5 回	政府刊行物 2	政府刊行物の運用を解説する
第 6 回	地域資料 1	地域資料の特徴と種類を解説する
第 7 回	地域資料 2	地域資料の運用と組織化を解説する
第 8 回	知的財産権	知的財産権について解説する
第 9 回	著作権と図書館	著作権と図書館のついて解説する
第 10 回	資料保存	資料保存と酸性紙問題について解説する
第 11 回	資料収集に関する諸問題 1	資料収集に関する実際の事例を検討する
第 12 回	資料収集に関する諸問題 2	近年の事例を検討する
第 13 回	資料提供に関する諸問題	資料提供に関する実例を検討する
第 14 回	まとめ	図書館資料の意義を再び考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。講義内容に応じて、事前に用語や事項の調査を指示します。参考図書や実際の図書館を利用して準備学習をしましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてましょう。

【テキスト（教科書）】
今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』第 4 版、樹村房、2022
適宜プリントを配布

【参考書】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ； 8）、日本図書館協会、2018（図書館情報資源概論で使用したテキスト）
前川恒雄､石井敦共著『新版　図書館の発見』（NHK ブックス）、2006
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、小レポート 20%，最終レポート 60%として，以下の点を評価します。
①公共図書館における資料の特徴を説明できる
②各種資料の収集、運用方法を説明できる
③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【学生の意見等からの気づき】
文献読解やそれに基づく意見交換の機会を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
授業外の学生からの連絡や質問には hoppii を利用する

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当する。
図書館司書の実務経験をもとに、図書館資料についての実務上の様々な事例を紹介する。

【授業中に求められる学習活動】
C,D,E

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn the characteristics of Public library materials.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Explain the characteristics of materials in public libraries.
② Understand how to collect and manage library materials.
③ Understand the trends of library materials in the world of libraries.
④ Understand and explain related terms, laws and declarations.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours. Depending on the content of the lecture, we will instruct you to investigate terms and matters in advance. Use textbooks, and reference books for preparatory learning. Also, in the review, try to organize your knowledge so that you can explain the important matters of the lesson contents by yourself.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Final report:60%、Short reports:20%、in class contribution:20%

情報資源組織論

山口　洋

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館における資料組織（分類や目録）の意義、目的と方法について学ぶ。到達目標は、資料組織について理解を深めるとともに、図書館司書として必要な知識や思考力を習得することに置く。

【到達目標】
①図書館における資料組織の意味を説明できる
②分類の基礎知識を修得している（主に用語や考え方）
③目録の基礎知識を修得している（主に用語や考え方）
④現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義です。なお適宜、受講生の意見や発表も行い、学習支援システム hoppi を利用して提出やフィードバックを行います。また内容理解を深めるために小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の意義と理論	資料組織の目的、意義について解説する。
第 2 回	主題による組織化	主題分析・組織法の意義について解説する。
第 3 回	分類法	分類の歴史、基本原理、分類法の機能について解説する。
第 4 回	件名法	件名法の基本原理、各種件名標目表について解説する。
第 5 回	目録法	目録法の基本、意義を解説する
第 6 回	目録規則（NCR1987 改訂３版）	日本目録規則を中心に紹介する
第 7 回	新しい目録規則の動向	国際規格の変化から日本の目録規則への影響を紹介する
第 8 回	書誌コントロール	書誌コントロールの目的と動向を紹介する
第 9 回	書誌情報の流通	コンピュータ目録における書誌情報作成と流通の仕組みを紹介する
第 10 回	装備と配架	図書館における資料装備と配架について紹介する
第 11 回	多様な情報資源の組織化	地域資料、絵本、視聴覚資料、学校図書館における組織化を紹介する
第 12 回	OPAC	OPAC の基本と最新の OPAC について紹介する
第 13 回	ネットワーク情報資源の組織化	各種ネットワーク情報資源、メタデータ、ウェッブの組織化について解説する。
第 14 回	まとめ	授業を振り返り、情報資源組織の意義を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。講義内容に応じて、事前にテキストを読み、用語などの調査をしておきましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてましょう。

【テキスト（教科書）】
『情報資源組織論』竹之内禎、山口洋、西田洋平編著　東海大学出版部　2020　￥3080
ISBNM ： 978-4-486-02188-9

【参考書】
『図書館情報学基礎資料 第 4 版』今まど子・小山憲司編著　樹村房、2022　　￥1000

【成績評価の方法と基準】
①最終レポート： 40 %　②小テスト： 40 %　③平常点： 20 %
平常点は発言や小レポートなど提出物状況などの評価等で総合的に判断する
①図書館における資料組織の意味を説明できるか
②分類の基礎知識（用語や概念）を修得しているか
③目録の基礎知識（用語や概念）を修得しているか

【学生の意見等からの気づき】
より理解度を深めるための復習ポイントを提示します。

【その他の重要事項】
普段から多くの図書館を見学して、図書館のイメージを作るとよいでしょう。また、大学以外の公共図書館を積極的に利用することも図書館の学習には必要ですから心がけてましょう。

【授業中に求められる学習活動】
C,D,E

【Outline (in English)】
【Course outline】
Explain the significance, purpose and method of the document organization (classification and catalog) in the library. The goal is to understand the document organization and master the knowledge and thinking skills necessary as a library librarian.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Understand the meaning of the library material structure.
② Have acquired basic knowledge of classification and catalog.
③ Understand the current trends of material organizations in the world of libraries.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours. Depending on the content of the lecture, we will instruct you to investigate terms and matters in advance. Use textbooks, and reference books for preparatory learning. Also, in the review, try to organize your knowledge so that you can explain the important matters of the lesson contents by yourself.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Final reportn:40%、Short test:40 %、in class contribution:20%

情報資源組織演習

山口　洋

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、分類や目録作業を通して受講生が主題分析、分類付与の方法、目録作成の技術を習得し、図書館資料の組織化に関わる能力を身につけることを目標とします。具体的には、『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）の構成とその使用方法を学びます。

【到達目標】
① 『日本十進分類法』（NDC）を使用して、各主題分野に応じた適切な分類記号を与えることができる
② 『基本件名標目表』（BSH）を使用して、各主題分野に応じた適切な件名を与えることができる
③ 『日本目録規則』（NCR）に従って、各種情報資源に対する目録データを作成できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は技術の習得を目的とした演習形式で進めます。各回は最初に解説を行い、その後課題を利用して各人の技術習得を目指します。課題については受講生に発表する機会があります。また個別指導も行い、各人のスキルアップを目指します。また学習支援システム hoppi を利用して提出やフィードバックを行います。授業資料も授業支援システム hoppi で配信します。データのダウンロード、もしくは印刷をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の意味	組織化の目的と仕組みの概観を解説する
第 2 回	『日本十進分類法』10 版（NDC10）の解説	日本十進分類法の解説（本表、補助表）と分類規定
第 3 回	NDC10 の 0 類 1 類の分類法	NDC10 の 0 類（総記）1 類（哲学）の解説と演習
第 4 回	NDC10 の 2 類の分類法	NDC10 の 2 類（歴史）の解説と演習
第 5 回	NDC10 の 3 類の分類法	NDC10 の 3 類（社会科学）の解説と演習
第 6 回	NDC10 の 4 類の分類法	NDC10 の 4 類（自然科学）の解説と演習
第 7 回	NDC10 の 5 類の分類法	NDC10 の 5 類（技術．工学）の解説と演習
第 8 回	NDC10 の 6 類の分類法	NDC10 の 6 類（産業）の解説と演習
第 9 回	NDC10 の 7 類の分類法	NDC10 の 7 類（芸術）の解説と演習
第 10 回	NDC10 の 8 類の分類法	NDC10 の 8 類（言語）の解説と演習
第 11 回	NDC10 の 9 類の分類法	NDC10 の 9 類（文学）の解説と演習
第 12 回	『基本件名標目表』（BSH）	解説と件名作業
第 13 回	『基本件名標目表』（BSH）件名作業	一般件名規程と特殊件名規定
第 14 回	授業内試験と解説	分類付与と件名付与
第 15 回	図書記号と別置記号	図書記号と別置記号の解説。日本著者記号表の使い方
第 16 回	『日本目録規則』（NCR）解説　1	『日本目録規則』（NCR87）の基本項目解説
第 17 回	『日本目録規則』（NCR）解説　2	『日本目録規則』（NCR87）の基本項目解説
第 18 回	和書目録作成①単行書	単行書の記述方法
第 19 回	和書目録作成②単行書の様々な事例	単行書の記述方法
第 20 回	和書目録作成③シリーズものの図書（基礎）	シリーズものの図書の記述方法
第 21 回	和書目録作成④シリーズものの図書（発展）	シリーズものの図書の記述方法
第 22 回	和書目録作成⑤分冊、構成部分を持つ図書	分冊、構成部分を持つ図書の記述
第 23 回	アクセスポイント	アクセスポイントの付与
第 24 回	総合演習①	色々な目録を作成する
第 25 回	総合演習②	目録作成技術を完成する
第 26 回	実力問題（試験）と解説	実力問題に取り組む
第 27 回	コンピュータ目録	コンピュータ目録のデータを知る
第 28 回	まとめ	まとめと展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。予習はテキストの該当箇所の確認と配信資料のチェック、用語の調査確認のみで構いませんが、復習は繰り返し行い、習った内容が定着するように心がけてましょう。また、分類は日頃より図書館の書架を利用して親しむ様に心がけるとよいでしょう。質問は授業支援ツール hoppi から常に受け付けます。復習しながら分からない箇所はこれを使って質問しましょう。

【テキスト（教科書）】
竹之内禎ほか編著『情報資源組織演習：情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』，ミネルヴァ書房，2016

【参考書】
小林康隆編著『NDC の手引き：「日本十進分類法」新訂 10 版入門』（JLA 図書館実践シリーズ； 32）、日本図書館協会、2017
今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』第 4 版、樹村房、2022

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、演習課題 20%，実力問題 60%として，以下の点を評価します。
1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して，各主題分野に応じた適切な分類記号を与えることができるか
2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して，各主題分野に応じた適切な件名を与えることができるか
3)『日本目録規則』（NCR）に従って，各種情報資源に対する目録データを作成できるか

【学生の意見等からの気づき】
復習のポイントをわかりやすく示すようにします。

【その他の重要事項】
「情報資源組織論」を履修済みまたは履修中であることを前提として授業を進めます。

【授業中に求められる学習活動】
C,D,E,F,G

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn subject analysis, classification method, cataloging skills.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Master the "Nippon Decimal Classification" (NDC).
② Master the "Basic subject heading table" (BSH).
③ Master the "Nippon Cataloging Rules" (NCR).
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours. To prepare, check the text, check the handouts, and check the terms. In the review, let's confirm what you learned in class.

【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 60%、Short reports : 20%、in class contribution: 20%

図書館演習

山口　洋

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
司書課程の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、基礎科目に関する領域の課題を選択し、応用かつ実践的授業と位置付け講義や演習を行う。具体的には、公立図書館を中心に図書館の提供サービスの意義や、市民にとって公立図書館とは何かを考え、司書として必要な知識と考え方を習得することを目指す。また授業を通して、自分はどの様な司書を目指すのか？ そのことを常に考えてもらいます。

【到達目標】
①司書として必要な知識を身につける
②図書館の現状を理解し、自ら情報を収集し、分析できる
③図書館に関する諸課題について理解し、自らの考えを持てる
④司書として就職するための具体的なキャリアデザインを描けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は演習である。学習支援システム hoppii を活用してレポートの提出、フィードバックを行う。また授業資料も hoppii で配信する。前期は、図書館に関する基礎的事項の演習を行い、図書館実習に参加予定の学生のサポートも行う。夏休みに図書館見学（日野市立図書館など）を実施予定。後期は、日野市立図書館等の見学経験を基に、図書館に関する基本文献の輪読、検討、討論を行い、公共図書館活動に理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講師及び受講生の自己紹介　（各自の図書館体験を語る） 他者の図書館体験を学ぶ。図書館の機能、図書館の種類とその根拠法令について確認する。
第 2 回	図書館学の五法則を検討する	テキスト『生きるための図書館』を読む
第 3 回	身近な図書館とは何か	テキスト『生きるための図書館』を読む
第 4 回	新しい図書館像を創る	テキスト『生きるための図書館』から
第 5 回	図書館の自由	最近の事例を調べて検討する
第 6 回	図書館司書とは何か	図書館員の倫理綱領を読む
第 7 回	図書館サービスの種類	公立図書館の各種サービスを確認する
第 8 回	図書館の業務分析 1	実際の図書館評価資料を読み込む
第 9 回	図書館の業務分析 2	図書館評価を検討する
第 10 回	図書館の管理形態の多様化	具体的な管理形態について検証する
第 11 回	公立図書館調査 1	図書館施設や立地を調査
第 12 回	公立図書館調査 2	図書館活動を調査
第 13 回	公立図書館調査 3	調査結果を報告する
第 14 回	日野市立図書館事前調査	図書館見学の準備をする
第 15 回	日野市立図書館見学の結果を報告する	見学の結果を意見交換する
第 16 回	市民の図書館の歴史	中小レポートの意義を考える
第 17 回	市民の図書館の実践 1	日野市立図書館の業務報告 1 を輪読
第 18 回	市民の図書館の実践 2	日野市立図書館の業務報告 2 を輪読
第 19 回	市民の図書館の実践 3	日野市立図書館の業務報告 3 を輪読
第 20 回	市民の図書館の実践 4	日野市立図書館の業務報告 4 を輪読
第 21 回	『市民の図書館』を読む 1	公共図書館とは何かを考える
第 22 回	『市民の図書館』を読む 2	貸出をのばすための活動を考える
第 23 回	人と本を結ぶ活動	テキスト『生きるための図書館』を読む
第 24 回	『図書館のめざすもの』を読む 1	アメリカ社会に役立つ図書館の十二か条
第 25 回	『図書館のめざすもの』を読む 2	図書館友の会の「めざすもの」を検討する
第 26 回	図書館における雇用形態の課題を検討	司書の雇用形態と課題について考える
第 27 回	ワークショップ	これからの図書館像を考える
第 28 回	目指すべき図書館、司書	ワークショップまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み期間中に日野市立図書館等への見学を予定。また希望者は図書館実習（都立図書館等）や図書館のインターンシップに参加できる可能性もある（詳細はガイダンスで説明）

【テキスト（教科書）】
竹内悊著．生きるための図書館：一人ひとりのために．岩波書店, 2019, 238p，(岩波新書, 新赤版 1783)，ISBN 978-4-0043-1783-8
竹内悊編訳．図書館のめざすもの．新版．日本図書館協会, 2014, 83p，ISBN 978-4-8204-1410-0
今まど子, 小山憲司編著．図書館情報学基礎資料．第 4 版, 樹村房, 2022，154p，ISBN978-4-88367-365-0
適宜プリントを配布

【参考書】
日本図書館協会編．市民の図書館．増補版．日本図書館協会，1976，168p，ISBN4-8204-7600-9

【成績評価の方法と基準】
最終レポート 50 %、課題（小レポート）及び受講報告（コメントペーパ）等 40 %、平常点（出席・取組等）10 %に換算し、合計で 100 点。60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
今年度新規担当のため記載なし

【学生が準備すべき機器他】
授業外の学生からの連絡や質問には hoppii を利用する

【その他の重要事項】
「図書館情報学概論Ⅰ」「図書館制度・経営論」「図書館サービス概論」を履修済み、または履修中であることが望ましい。
初回授業には必ず出席すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn about progressive learning of the library science.
【Learning Objectives】
The goals of this course.
① Acquire necessary knowledge as a librarian.
② Understand the significance of existence of the library as public service.
③ Consider about the problem of the public library.
④ Let's create the carrier design as the librarian.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours. Depending on the content of the lecture, we will instruct you to investigate terms and matters in advance. Use textbooks, and reference books for preparatory learning. Also, in the review, try to organize your knowledge so that you can explain the important matters of the lesson contents by yourself.

【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Final report:50%、Short reports:40%、in class contribution:10%

社会教育経営論

谷岡　重則

配当年次／単位：2～4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の子ども・若者・大人が自立と共同の担い手として豊かな人間的な発達をするために、現代の地域社会の諸課題と社会教育実践、学習権保障に着目して、自治体社会教育はどのような学習の支援と条件整備・計画・経営マネジメントの視点が求められているか考察する。

【到達目標】
多様な地域課題に取り組む子ども・若者の自立支援の今日的課題、NPO など市民活動と社会教育の関係性、成人の学習ニーズの捉え方、大人が学ぶことの意義、社会教育職員の力量形成などについて、実践事例に基づいて理解を深め、社会教育に関する計画づくりと経営マネジメントに関する基礎的な力量を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テーマごとの授業資料に基づいた講義と関連動画の視聴、質疑応答を基本としながら、リアクションペーパーによる振り返りと応答の時間をとる。必要に応じて、グループディスカッションなどを行い、各自が行う取材レポートの準備と報告、期末レポートの発表と意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の視点と進めかた 計画論と経営論の視点 自己紹介とグループワーク
2	地域における青少年の居場所づくり	多様な環境に置かれている子どもたちが共にいきるために、どのような「居場所」が求められているのか考える。
3	子どもの安心・安全のための防犯学習	地域で取り組む防犯マップづくりの実践を通して、こどもの権利への視点と課題について学ぶ。
4	地域の落書き問題の取り組みから学ぶ	落書き消しに取り組んだ実践を通して、地域課題解決型学習の特徴について学ぶ
5	高校生の地域参加とボランティア活動から学ぶ。	高校生の自主的な地域活動への参加を通して、市民教育の視点を学ぶ
6	ボランティア活動の魅力と課題	ボランティア概念の変遷、戦後日本におけるボランティア活動の歴史から、その可能性と限界について検討する。
7	日本における NPO の発展と行政との協働	災害ボランティアの組織化から NPO への展開、NPO が担う「新しい公共」とは何か。行政との関係性をめぐる課題。
8	大人の地域活動への参加と課題	高齢者の地域参加や PTA 活動への参加と現状を通して、ワークライフバランスなどの社会的な諸条件の課題について学ぶ。
9	成人教育論（アンドラゴジー）の視点から学ぶ。	大人の学習の特徴、自己主導型学習、自己変容型学習の意義と課題について学ぶ。
10	多文化共生と対話的な学習の意義	多様な文化、価値観を社会的背景に持つ人々と対話的な学習の意義について考える。
11	都市型公民館像の探求	戦後の初期公民館像と「三多摩テーゼ」（「新しい公民館像を求めて」）に描かれた公民館像から学ぶ。
12	本と人をつなぐ図書館	戦後の地域文庫、親子読書運動から公立図書館づくり運動へ。公立図書館の現代的な役割について学ぶ。
13	地域とつながる博物館づくり	公立博物館の実践を通して、地域文化・歴史に根ざした公立博物館の現代的な役割について学ぶ。
14	中間レポート各自の報告。「社会教育施設の事業計画と予算、職員体制を調べる」	各自の報告と意見交換、コメント
1	長野県における公民館像の探求	「長野県らしい公民館像にみがきをかけよう」（2012 年）を読む。
2	長野県松本市、飯田市の公民館と「地域づくり」の取り組みから学ぶ。	自治体政策における「地域づくり」と公民館の役割、位置づけについて学ぶ。
3	「公民館主事」の実像と期待される専門職像	公民館主事の職務と身分任用制度。教育機関の専門職員として期待される役割とは何か。
4	教育委員会における社会教育主事の仕事	教育委員会の専門職と行政職としての矛盾葛藤とはどのようなものか。
5	社会教育士に期待されていること	社会教育主事と社会教育士はどう違うのか。称号としての社会教育士制度の評価をめぐる論点。
6	「コミュニティ・スクール」の実践と課題	地域社会と学校づくりの原点と法制度としての「コミュニティ・スクール」
7	新型コロナ感染症予防と社会教育施設の運営	コロナ禍における社会教育施設運営の在り方、対面とオンライン、リスクガバナンスを考える。
8	公民館の事業方針、事業計画から学ぶ。	西東京市公民館の事業計画の 4 つの基本方針から学ぶ。「開かれた公民館」「問いかける公民館」「地域とともに」「地域の中につながりを」
9	自治体の社会教育委員の会議答申から学ぶ。	川崎市社会教育委員の会議答申「地域をつなぐ拠点としての社会教育施設を求めて」
10	住民の学習の自由と公民館	さいたま市「九条俳句」訴訟から学ぶこと
11	第 9 期中央教育審議会答申を読む。	「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」2018 年 12 月中央教育審議会答申のポイント
12	教育委員会における社会教育事業の評価、計画づくり、予算編成のマネジメントの視点	事業評価における行政評価と教育評価の違い、総合計画と教育計画の調整、社会教育主事としての立ち位置
13	社会教育の仕事とはどのようなものか。	学びのための空間をつくる、住民主体の学びの組織化を支援する、権利としての学びを支える仕組みをつくる
14	「公民館」の可能性、魅力とは何か。	各自の期末レポートの報告と意見交換、コメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から身近な社会教育施設やさまざまな学習活動、社会教育事業に興味をもち、自主的に参加して体験を積んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義時に、適宜、講義内容に合わせたレジメと資料を提示する。

【参考書】
　社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第７版）2005 年、（第８版）2011 年、（第９版）2017 年。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート、期末レポートをそれぞれ２５％程度、毎回の講義での討議等への貢献度を５０％程度で、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムによる授業資料と「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline (in English)】
In order for today's children, youth, and adults to develop themselves as independent and collaborative leaders, we will consider what kind of learning support, condition development, planning, and business management perspectives are required in local government social education, focusing on the various issues of modern local communities, social education practices, and the guarantee of the right to learn.
Deepen understanding based on practical cases of contemporary issues in supporting the independence of young people who are tackling various regional issues, the relationship between civic activities such as NPOs and social education, how to perceive the learning needs of adults, the significance of learning by adults, and the formation of competence of social education staff, and acquire basic competencies related to Learning outside of class hours Methods and criteria for grading
Conduct a survey of the social education plan and social education facilities (staff structure and projects) of the local government of your choice, and compile an interview report.
Based on grading method
Comprehensive evaluation of class attendance and attitude toward initiatives (50%), press reports, and final reports (50%).
planning and business management related to social education.

社会教育総合演習（実習を含む）

谷岡　重則

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観察・調査・参加を通じて社会教育を体験的に学び、地域に主体的な学びを生み出す仕組みや問題意識を深める視点を探る。子どもや若者の居場所づくり、自立支援、成人教育など、幅広い生涯学習の場で必要とされる実践力を養成するための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
自分自身の学びの体験や自己形成を振り返り、社会教育という学びの意義に気づく。社会教育の現場に体験的に参加し、観察・考察したことをレポートにまとめ、、人々が主体的な学びを創り出すために求められている社会教育的な視点を獲得する。社会教育事業の企画・運営実施・評価などのマネジメントの基礎的知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
自治体の社会教育、NPO や市民活動などの実践を広く視野に入れて、各地の実践事例から学ぶ。地域の社会教育施設や関心のある市民活動などの実習先を決定して参加し、実習報告書を提出する。（実習は必修）　各自の関心に基づいて、研究テーマを設定し、社会教育講座（事業）のプログラム・デザインを企画し、所定の様式に従ってレポートにまとめ報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 社会教育の資格と仕事	授業の目的と進め方 実習、講座等の参加に向けた準備について 受講生の自己紹介など
2	社会教育に出会うということ	社会教育の先輩たちのメッセージから
3	小中学校、高校時代の学びの体験を振り返る	学ぶことの面白さとつまらなさ　自分にとってどのような学びが必要なのか
4	公民館の仕事	西東京市公民館の事業計画、名取市公民館職員の研修報告から学ぶ。
5	各自の社会教育実習に向けて	各自の実習先、講座等の参加に関する調査、日程調整、準備など
6	教育委員会の社会教育主事の仕事	ある社会教育主事の論考「社会教育主事として 35 年働いて」から学ぶ
7	子どもの遊びを支える仕事	子どもの居場所づくりとプレイワーカーの仕事
8	若者の居場所と自立支援を支える仕事	NPO における生きづらさを抱える若者たちの支援
9	多文化共生と地域における日本語学習	飯田市公民館の日本語学習の実践から学ぶ
10	各自の社会教育実習等の経過報告	各自の実習先、講座等の参加に関する経過報告
11	住民参加型の講座づくり実践から学ぶ	「子どもの貧困」に取り組む西東京市公民館講座の実践から学ぶ
12	市民団体と社会教育施設の協働による講座づくりから学ぶ	東京都板橋区における生涯学習センター講座の実践から学ぶ
13	各自の社会教育実習、講座参加等の報告	各自の実習報告、講座等の振り返りと事後のかかわりについて
14	後期の課題レポートに向けて	各自の関心に基づいて、研究課題テーマを検討する
15	社会教育実習、講座参加等の振り返り	実習や参加を通して感じた問題意識の確認と共有化
16	研究課題テーマに関する情報・資料の検索	各自の関心に基づいて、研究課題テーマを探る
17	課題レポート「私の講座プラン」について	各自の研究課題テーマに基づく、講座企画書の提案について説明
18	研究課題テーマに関する問題意識の共有化	各自の研究課題テーマの報告と意見交換
19	社会教育講座のプログラム・デザイン①	テーマに関する社会的な現状と講座企画の視点
20	社会教育講座のプログラム・デザイン②	講座実施の目的と到達目標を描く　全体のプロセス・デザイン
21	社会教育講座のプログラム・デザイン③	課題解決のためのアイデア出しと簡易 KJ 法によるコンテンツの整理
22	社会教育講座のプログラム・デザイン④	ワークショップの技法とファシリテーションスキル
23	社会教育講座のプログラム・デザイン⑤	住民参加型講座の意義と持ち方
24	「私の講座プラン」進捗状況の報告と意見交換	各自の「私の講座プラン」のテーマと問題意識
25	社会教育講座のプログラム・デザイン⑥	対話型学習の意義と方法
26	社会教育講座のプログラム・デザイン⑦	社会教育講座の評価の視点と方法
27	課題レポート「私の講座プラン」	各自の「私の講座プラン」の発表と意見交換
28	社会教育職員の採用と任用制度　授業の振り返り	授業全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会教育施設（公民館など）の調査・見学、講座参加、地域の情報収集、社会教育実習、記録作成。課題レポート「私の講座プラン」の提出等。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料配布。参考文献は授業内で提示。

【参考書】
『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』社会教育推進全国協議会編　エイデル研究所　2017 年
その他、必要な参考文献など授業内で提示。

【成績評価の方法と基準】
授業内での討議、実習・講座参加等への積極的参加 (70%)、実習レポート等提出物 (30%) を総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【学生が準備すべき機器他】
授業がオンラインになった場合はパソコン（カメラオン）で授業を受けられる環境が望ましい。

【その他の重要事項】
実習参加や講座参加、施設見学など、授業時間外の週末等を利用する場合が多々あります（受講生の予定により調整します）。

【Outline (in English)】
Through observation, survey, and participation, we will learn about social education experientially, and explore perspectives that deepen the attractiveness of creating independent learning in the community and awareness of issues. The goal is to acquire the basic skills necessary for developing the practical skills required in a wide range of lifelong learning settings, such as creating a place for children and young people, supporting independence, and adult education.

生涯学習支援論

栗山　究

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは一人ひとりが自分自身の人生を主体的に生きるために、いつでもどこでも自らの実際生活に即して相互に学びあう営みを続けています。
授業ではそうした生涯学習の基本的な特徴を探り、誰もが生きやすい社会をつくろうとしている地域住民の学びあいの実践と関連づけながら、地域の学習活動を支える人びとの基盤となる理論や実践に関する知識や技法を習得し、住民の学びあいを支える人たちの役割を考察します。

【到達目標】
(1) 私たちが地域で学んでいることの意味を捉えられるようになり、その概要を説明できるようになります。
(2)（1）で捉えられた学習者相互の学びあいを支援する人たちの役割を理解し、そこでのより良い学びあいを促す条件整備のあり方や技法を主体的に考えられるようになります。
(2) で理解した考えを、これからの多様な実践の場面で活かしていけるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（グループワーク・ディスカッションなど）を組み合わせて進めていきます。春学期の初頭から演習形式の展開（相互学習）が中心となりますので、自分なりに学習した内容をふりかえり、その内容を探究していこうとする姿勢や行動は積極的に応援していきます。レポート課題も授業内の相互学習を通してフィードバック（共有）していきます。
少人数の受講者で構成される社会教育主事資格課程科目（社会教育士の称号取得含む）であるという例年の特徴を活かし、授業内での相互学習を踏まえ、可能な限り実際の社会教育施設等を訪問し、住民・社会教育職員とともに学習を深めていく機会等を用意したいと考えています。従って、下記の「授業計画」は、受講者人数・受講者相互の問題意識や興味関心の程度および現場の条件に応じて柔軟に変更していく可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会教育職員のおかれる現在を確認し、昨年までの事例を参考に授業の進め方を話し合います
2	基本用語の確認　生涯学習・社会教育	受講者各位の教育経験をふりかえり、本講義で使用する専門的な基本用語の内容を確認します
3	学習論の基礎①　成人の学習	ノールズのアンドラゴジー概念から成人の学習を支える考え方を考察します
4	学習論の基礎②　相互学習	受講者相互の話しあいの意味を考え、この授業での取り組みを検討します
5	生涯学習支援の事例に学ぶ①　例： NPO・民間事業者での学びあい	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
6	生涯学習支援の事例に学ぶ②　例：公民館での学びあい	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
7	生涯学習支援の事例に学ぶ③　例：博物館での学びあい	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
8	生涯学習支援の事例に学ぶ④　例：若者・青年の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
9	生涯学習支援の事例に学ぶ⑤　例：子育て世代の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
10	生涯学習支援の事例に学ぶ⑥　例：高齢者の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
11	生涯学習支援の事例に学ぶ⑦　例：障害のある人たちとともにある学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
12	生涯学習支援の事例に学ぶ⑧　例：在住外国人とともにある学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
13	生涯学習支援の事例に学ぶ⑨　例：ジェンダーに関する学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
14	中間のまとめ	これまでの学習を踏まえて各自の夏休みの課題を考えます
15	実際の学習講座の参画体験①　事例のもちより	実際に参加・体験してきた生涯学習支援の現場を報告しあいます
16	実際の学習講座の参画体験②　内容の検討	生涯学習支援の現場で行われていた学習支援の方法を検討しあいます
17	実際の学習講座の参画体験③　課題の抽出	生涯学習支援の現場で行われていた学習支援上の課題を検討しあいます
18	社会教育職員の役割	学習者の学びに寄り添う公務労働者の役割を検討します
19	学習支援者の力量形成	学習支援者はどのような役割を果たしているかを考えます
20	実際の社会教育事業の実践事例分析①	地域社会における住民の学びの諸相を検討し、学習講座づくりを展望します
21	実際の社会教育事業の実践事例分析②	NPO、社会教育関係団体との協働のあり方を考えます
22	実際の社会教育事業の実践事例分析③	講座に参画する学習者の学習課題を検討します
23	実際の社会教育事業の実践事例分析④	学習者主体の学びの条件整備のあり方を考え、その展開方法を検討します
24	実際の社会教育事業の実践事例分析⑤	学習支援者が提供する／した学習素材を検討します
25	実際の社会教育事業の実践事例分析⑥	学習者の学びあいと地域社会での実践の関わりを考えます
26	実際の社会教育事業の実践事例分析⑦	企画運営会議での学びあいと成立した講座との関係を考えます
27	実際の社会教育事業の実践事例分析⑧	講座を踏まえた新たな学習課題と地域社会での実践の展開を考えます
28	全体のまとめ	この授業での学習をどう生かしていくかを考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、受講者各位の関心に即して、教員が指定する文献・実践記録などを輪読し、検討する予定です。
秋学期は、持続可能な地域社会づくりに関する現代的課題の学習を取り扱った実際の社会教育事業の実践記録「3.11 以後の社会とエネルギー問題」を事前に配布する予定です。
それぞれ、授業当日までに読んできて、自身の考えを整理してきてください。回によっては、受講者相互にレジメを作成して臨んでいただく場合もあります。
受講者各位の関心に応じ、春学期の学習内容を継承し、通年を通じた学習として展開していく場合もあります。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回テーマに応じて適宜、授業内で指示するほか、担当教員がレジメを作成して配布します。

【参考書】
必要に応じて、各回の授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業（相互学習、学外授業の場合は当該授業を含む）への積極的な参加（40 %）と、夏休みと学年末のレポート課題（各 30 %）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
初回の授業で通年授業の大まかな進め方・授業運営方針をガイダンスします。社会教育固有の方法論ともいわれる相互学習を意識しながら授業は展開しますので、受講を希望される学生は、必ず出席するようにしてください。
なお、相互学習のもつ意味は、授業内で学習していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業初回の案内は４月に入りましたら、学習支援システム「HOPPII」を通して通知しますので、必ず確認してください。

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事の任用資格ならびに社会教育士の称号を取得するための文部科学省令で定められる「社会教育に関する科目」群の必修専門科目の一つに位置づきます。
本授業では、公立の社会教育施設で事業を担当していた教員の実務経験に基づき、そこでの教育活動（学習支援）の実際について解説する機会を適宜、設けていきます。

【Outline (in English)】
In this class, we will learn the basic characteristics of adult learning and understand that various types of learning are produced in our lives in contemporary society, as they relate to themselves and to the educational practices of their respective communities.
Therefore, based on specific examples, we will discuss the following two perspectives. The first is the role and scope of "adult and community education" in confronting the various problems of contemporary society. The second is the role and significance of adult and community education staff and learning facilitators who support residents' interactive learning.
【Learning Objectives】
By the end of the course, you should be able to do the followings:
A. Capture and outline the meaning of what we are learning in our community.
B. Understand the role of those who support mutual learning among learners and be able to proactively consider conditions and methods to promote better learning among learners.
【Learning activities outside of classroom】

During the spring semester, you will read and review literature assigned by the teacher based on your own interests. In the fall semester, we will be analyzing practical records of adult and community education projects that deal with learning about contemporary issues for a sustainable society.

You are encouraged to read them and organize your thoughts before the day of class. In addition, depending on the session, you may be asked to prepare resumes for each other.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Overall evaluation will be based on active participation in class (40%) and reports from the summer vacation and the end of the school year (30% each).

博物館概論

金山　喜昭

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育や学術、文化施設としての博物館について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】
博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法、関連法令などを取り上げる。
最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	博物館とは何か？ 博物館の定義などについて概説する。
第 2 回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。。
第 3 回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第 4 回	博物館学史	博物館学の学史を概観する。
第 5 回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第 6 回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第 7 回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第 8 回	博物館の資料論	博物館が取り扱う資料について解説する。
第 9 回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第 10 回	博物館と地域社会Ⅰ	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第 11 回	博物館と地域社会Ⅱ	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。 博物館学芸員による特別講義
第 12 回	博物館と災害	現代の災害のリスク管理について解説する
第 13 回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第 14 回	総括	授業内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。
東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーであるために常設展を無料で見学できるので活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】
金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）
金山 喜昭『公立博物館をＮＰＯに任せたら－市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）
金山 喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題提出）（40 %）
課題レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline (in English)】
Outline)
This course aims to understand “What is a museum? as a cultural facility and learn its social role and significance.
（Learning Objectives)
The goals of this course is for students to become museum literate.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be do preliminary research on the museums discussed in each class.
Your required study times is at least two hours for a class.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in this class will be decided based on the following.
Ordinary points (homework submission) (40%), Assignment report (60%)

博物館資料論

田中　裕二

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】
博物館を、「資料」という観点から理解することを目ざす。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通した教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期第 1 回目はオンラインで実施。配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらう。次回の講義の冒頭で質問や疑問について全員に対して回答し、情報の共有化を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（オンラインで実施）	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第 2 回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第 3 回	博物館の一次資料	博物館の一次資料について具体的に学ぶ。
第 4 回	博物館の二次資料	博物館の二次資料について具体的に学ぶ。
第 5 回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第 6 回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第 7 回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第 8 回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第 9 回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第 10 回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第 11 回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第 12 回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第 13 回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第 14 回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関連した事例を各自で調べておくこと。授業内で活発な議論となるよう発言を促します。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを課す予定です（その際、若干の入館料が発生する可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】
授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加度（コメント・ペーパーの記入と課題の成果など）： 50 %
期末レポート： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義が終わった後に提出してもらっているリアクション・ペーパーを読むと、博物館資料に対して関心が高い学生が多いことがわかった。感想コメント、疑問質問は次回の講義で回答することを今年度も引き続き実施していきたい。

【Outline (in English)】
Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports and in the class contribution ： 50%.

視聴覚教育Ⅰ

原田　雅子

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館は多様な視聴覚教材（実物、データなど）を用いて教育を行う場であるため、現在博物館が扱うアナログ／デジタル情報についてデータの利活用も含めて俯瞰し、博物館で実施されている視聴覚教育法の概要と特徴を知る。また一部を体験することで、博物館での教育手法やその意義について学び、博物館または学校などの教育現場で生かせる知識を習得する。

【到達目標】
博物館で行われている視聴覚教育のありかたや様々な手法について知り、考えることで、適切な場面で必要な手法を行える。
また、博物館資料データの取り扱い・利活用の方法、著作権法などのメディアリテラシーの基礎を知ることで、教育現場におけるデータの取り扱いを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と参加者によるディスカッションを行う。また、可能な場合は、校外実習として博物館で行われる教育手法を体験する。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。
課題（レポートや試験）に関しては、提出当日あるいは次回の授業においてフィードバックを行う。授業中のフィードバックが困難な場合は、メールによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義：博物館の機能	イントロダクション：博物館の役割と種類を俯瞰し、それぞれの役割と種類における情報媒体の在り方を知る。
2	講義：博物館と視聴覚教育の歴史	近現代の博物館教育の歴史を振り返り、その中で視聴覚教育がどのように発展してきたかをたどる。
3	講義：博物館での情報の記録	博物館は情報を集積する場所であるが、そこでどのように情報が収集、保存され、また、記録・管理されるのかを知る。
4	講義：博物館の収蔵品・展示物と情報デジタル化	博物館では現在は多くの収蔵品の情報をデジタル化しているが、それによるメリット・課題を、実際に博物館がポータルサイト等を通じて公開しているデータを通じて考える。
5	講義：博物館の収蔵品・展示物情報、研究データの利活用	デジタル化された博物館情報の中でも、とくに 3D 情報や位置情報など、21 世紀になって新たに注目されているデータの収集・活用をとりあげる。
6	講義：博物館の視聴覚教材	実際に博物館でどんなものが視聴覚教材として使われているかを考え、分類し、その分類の特徴に基づいてそれぞれの教材としての意義を考察する。
7	講義：博物館と様々な立場の人々の視聴覚教育	博物館はそもそも生涯学習の場として学齢期のみならずあらゆる世代・立場（病気や障がい、貧困の有無など）の人々の教育を目的としている。それらの事例にスポットを当て、博物館がしている教育、できる教育を考える。また、点字を打つ実演を行うことで、視覚偏重になりがちな博物館の在り方について考える。
8	講義：博物館と知的財産・メディアリテラシー	博物館での情報の発信の際にとくに重要になる著作権などの関連法規の基礎知識を学ぶ。
9	講義：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムの体験	（可能な場合は博物館を訪れ、）教員が用意したブログに投稿する形の学習プログラムを実施する。鑑賞教育の一つ、Visual Thinking Strategy についても紹介する。
10	演習：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムについての考察	前回博物館で実施した学習プログラムの作品についてディスカッションを行い、その意義を考察する。また、学習プログラムそのものの改善点についても考察を行う。
11	講義：情報でつながる博物館	実際に博物館で行われた研究の中で、インターネットやテレビなどの媒体が効果的に使用された例や、ゲームやクラウドファンディングなど、新しい媒体を通じて博物館が基盤を強めていく取り組みを紹介する。
12	講義：自分の行いたい視聴覚教育を企画してみよう	博物館教育における未来予測に関する資料を紹介し、これまでの内容を踏まえて、自分が実施したい視聴覚教育プログラムについて考え、企画書や指導案を作ってみる。
13	講義：これからの視聴覚教育を考える	前回作成した企画書・指導案の内容の共有を行い、これまでの講義を振り返る。博物館における視聴覚教育とは何かを考える。
14	まとめ	テストを行うことで、全体の理解度を確認する。また、その内容について解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることで、講義の内容が理解しやすくなります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】
①平常点（30%）、②講義期間中の提出課題（30%）、③講義最終回に実施するテスト（40%）による。
合計 60%以上得点した場合に合格。ただし、①～③のうち１つでも０%のものがあれば不合格。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
対面授業であってもパソコンを使用する。PowerPoint を多用するので、Microsoft Office などのオフィスツール搭載のパソコン推奨。

【Outline (in English)】
Course Outline
Since museums are places where education is conducted using a variety of audiovisual materials (real objects, data, etc.), this course provides an overview of the analog and digital information currently handled by museums, including the utilization of data, and an overview of the audiovisual education methods implemented in museums and their characteristics. By experiencing some of these methods, students will learn about the educational methods used in museums and their significance, and acquire knowledge that can be used in museums and schools.
Learning Objectives
The goals of this course are to
(1) Understand the meaning of audiovisual education and various methods used in museums.
(2) Obtain basic skills about how to handle and utilize museum data and the basics of media literacy, such as copyright law, in order to understand how to handle data in the field of education.
Learning Activities Outside of Classroom
Students will be expected to find time to look at museums' website and visit museum exhibits to better understand the content of the lecture.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be calculated according to the following process,
(1) Ordinary score (30%), (2) Assignments submitted during the lecture (30%), and (3) Test at the end of the lecture (40%).
Students will pass if they score 60% or more in total. However, students will fail the course if any of the items (1) through (3) are not completed.

視聴覚教育Ⅱ

原田　雅子

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における情報提供のコンテンツの制作実習を通じ、多様な来館者に向けた情報発信のために、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、提供する情報を整理して発信できるようになることを目的とする。

【到達目標】
博物館において扱う情報の意義及び活用方法を理解する。
教育に関わる視聴覚メディアについて、実際にコンテンツを作成してみる中でその特性を理解し、情報発信において活用する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館における情報提供のコンテンツ作成実習を通じ、多様な来館者に向け、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、情報発信することを学ぶ。受講人数やコンテンツ作成の進行具合等により、授業計画は変更される可能性がある。
課題（レポートや試験）に関しては、提出当日あるいは次回の授業においてフィードバックを行う。授業中のフィードバックが困難な場合は、メールによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	博物館展示における情報発信	多様な学びのニーズに合わせた情報の提供について学ぶ。
2	情報発信の事例紹介	携帯情報端末利用、3D モデル利用などの導入事例を元に、効果的な利用法を考える。
3	情報発信の対象設定	情報を伝える対象と目標の設定について学ぶ。
4	ソフト実習	コンテンツを制作するソフトウェアの使い方を学ぶ。 ソフトウェアは受講者の状況等に応じて使用するものを変更する場合がある。
5	情報デザイン I	情報デザインの基本的な考え方を学ぶ。
6	情報デザイン II	情報デザインの基本的な考え方を学ぶ。
7	コンテンツ作成のための全体構成・素材準備	情報を伝えたい対象を特定し、コンテンツ全体の構成を考える。情報を伝えるために必要な素材を集める。
8	コンテンツ編集	これまでに集めた素材を編集する。
9	博物館コンテンツの体験	（可能な場合は、）実際に博物館を訪れ、博物館のコンテンツ利用を体験する。
10	コンテンツ作成の中間発表	中間発表と、相互評価を行う。
11	コンテンツの修正	評価をもとに修正点を整理し、コンテンツの更新を行う。
12	完成したコンテンツの講評	全体の構成をチェックし、完成したコンテンツの発表と相互評価を行う。
13	コンテンツの改善	作成したコンテンツの課題の抽出と改善を行う。
14	理想の博物館コンテンツを考える	博物館が行うべき情報発信の姿について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館における情報発信の演習を行うので、時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることをすすめます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】
①講義の中で作成したコンテンツおよびレポート（70%）、②平常点（30%）の合計が
60%以上で合格。①②のいずれかが０点の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
対面授業であってもパソコンを使用する。PowerPoint を多用するので、Microsoft Office などのオフィスツール搭載のパソコン推奨。

【Outline (in English)】
Course Outline
Through hands-on training in the production of content for information provision in museums, the objective is for participants to be able to set targets and learning objectives, select appropriate information, and organize and disseminate the information to be provided in order to disseminate information to a variety of visitors.
The goals of this course are to
(1) Understand the meaning and utilization of information at museums.
(2) Understand the characteristics of audiovisual media related to education through the actual creation of content, and acquire the ability to utilize them in the transmission of information.
Learning Activities Outside of Classroom
Students will be expected to find time to look at museums' website and visit museum exhibits to better understand the content of the lecture.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be calculated according to the following process,
(1) Content and report created in the lecture (70%),
(2) Normal score (30%).
Students will pass if they score 60% or more in total.
If either of ① or ② is zero, the student will fail the course.

グローバル社会のローカリティ／地域社会学

中筋　直哉

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前世紀の国民国家に組み込まれた地域社会とは異なる、グローバル化した現代社会におけるローカルな場所の実態と意味を、主に社会学の方法に基づいて理解する。とくに場所の間を移動していく人びとの生活のリアリティに重点を置く。

【到達目標】
・新しいローカリティの可能性と困難を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
・新しいローカリティを踏まえた社会形成についての自らの考えを論理的に表明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面で実施。学習支援システムで講義資料と音声・動画を事前配布する。質疑応答は指定した時間に学習支援システムを使って行う。課題については授業中に期末試験については試験後に、受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	ローカリティとは何か 1	国民国家の構成要素としての地域社会
3	ローカリティとは何か 2	グローバル化による地域社会の脱構築
4	ローカリティの諸形態 1	親密圏の解体と再生
5	ローカリティの諸形態 2	農山漁村の生存戦略
6	ローカリティの諸形態 3	世界都市と分極化
7	ローカリティの諸形態 4	境界と辺境をめぐるゲーム
8	事例研究的講義	新しいローカリティの典型事例の紹介
9	事例をめぐる討論	グループディスカッション
10	人びとの移動と定着 1	移民・難民たちのレガシーズ
11	人びとの移動と定着 2	リアリティ・トランジットとアート
12	人びとの移動と定着 3	旅する信仰と思想
13	ローカリティの未来 1	新しい市民社会形成の方途の探究
14	ローカリティの未来 2 ※別途定期試験を実施	重要論点の復習と質疑、討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容の予習復習の他、「今日の課題図書」のうちいくつかを読むことが必要。授業の中盤に A4×1 枚程度のリポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
リポートの出来が 35 % (提出しないと D)、論述式の期末試験が 55 %。授業参加の総合的評価が 10 %。試験解答において、現代社会のローカルな生活に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】
理論的説明をよりゆっくりとていねいに行うよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【その他の重要事項】
コースの専門的科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline (in English)】
(Course outline)This lecture aims to study making local society below globalization by sociological perspective.
(Learning Objectives)The goals of this lecture are sociological understanding of the policy for local society below globalization.
(Learning activities outside of classroom)Reading some directed books and writing a report.
(Grading Criteria /Policy)Positivity of classroom:10%,Report: 35%, Final Exam:55%.

マス・コミュニケーション論

藤田　真文

配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マス・コミュニケーション理論の代表的な研究の問題意識を理解し、現代社会にマスメディアが与える影響を考察していきます。特に本講義では、メディアコンテンツ（内容）への影響に着目し、映像資料なども使いながら理解を深めていきます。

【到達目標】
受講生が、マス・コミュニケーション理論の代表的な研究の問題意識を理解できている。マスメディアのメディアコンテンツ（内容）への影響を理解できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
マス・コミュニケーション理論の代表的な研究を講義形式紹介していきます。毎回リアクションペーパーを通じ受講者自身で講義内容を振り返ってもらいます。中間でマス・コミュニケーション理論の指定書籍をまとめるレポートを書いてもらいます。また、定期試験でマス・コミュニケーション理論に対する理解度を試します。リアクションペーパーとレポートについては、授業中にコメントをしてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プロパガンダ研究	戦後マスコミ研究の出発点
第 2 回	弾丸効果モデル	マスメディアの効果を強調した研究
第 3 回	メディアイベント論	メディアが作り出す国家的イベント
第 4 回	限定効果モデル	マスメディアの効果への懐疑
第 5 回	普及過程論	情報の社会的浸透過程
第 6 回	中範囲の理論	議題設定理論
第 7 回	強力効果論捉えなおし	沈黙のらせんと第三者効果、培養理論
第 8 回	社会的責任論	メディアの倫理的責任
第 9 回	能動的受け手論	物語論を基礎にした映画・ドラマなどの分析
第 10 回	カルチュラルスタディーズ	物語論を基礎にしたバラエティ番組などの分析
第 11 回	デジタル時代への示唆	インフルエンサーなどへの応用
第 12 回	非言語コミュニケーション	メディアコンテンツとの関連性
第 13 回	言語コミュニケーション	メディアコンテンツとの関連性
第 14 回	社会的構築主義	フレーム分析など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しません

【参考書】
稲増一憲（2022）『マスメディアとは何か　「影響力」の正体』中公新書、968 円

【成績評価の方法と基準】
①中間レポート＝ 30 %　第８回までの範囲で書籍を指定
②定期試験＝ 50 %
③毎回の課題＝ 20 %

【学生の意見等からの気づき】
前年度在外研究のため今年度はありません

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is designed to help students understand the problematic nature of representative studies of mass communication theory and to examine the impact of mass media on contemporary society. In particular, this lecture will focus on the influence on media content, and will use video materials to deepen understanding.
【Learning Objectives】
The student is able to understand the problematic nature of representative studies of mass communication theory. The student is able to understand the impact of mass media on media contents.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
(1) Mid-term report=30% Books in the range up to the 8th session are designated.
(2) Periodic examinations = 50% (3) Assignments for each class session = 20%.

福祉社会学Ⅰ

平野　寛弥

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉が社会の中でどのような意味や機能をもつのかについて学ぶ．具体的には，日本の福祉政策および周辺の諸政策について概説し，日本の福祉政策の現状についての基本的理解を図る．あわせて，福祉政策が現代社会において直面している諸課題を検討するとともに，それを克服するために近年検討されている新しい政策構想について紹介し，その含意について解説する．

【到達目標】
1）既存の福祉政策及び関連政策の内容や目的について理解する．
2）福祉政策が現在直面している課題について理解する．
3）これからの福祉政策のあり方について各々の見解を持つ．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
配布するレジュメに沿って講義する。あわせて購入していただく教科書は副読本として使用する．教科書に重要事項は記載されているため，事前に眼を通しておいていただき，そのうえで受講してもらうことになる．
講義では，口頭での補足説明に注意を傾けるようにすること．適宜メモを取ることは理解にとって極めて効果的である．この講義で取り扱う基本的な用語・事柄についてはその意味するところを確実に理解することが重要である．なお，授業計画は進捗状況や受講生の関心に合わせて，適宜修正することがあるのであらかじめご了承願いたい．なお，授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更する可能性もあるのであらかじめご了承願いたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉政策の定義と目的，機能
2	福祉政策の実際①：子ども家庭福祉	児童手当をめぐる変遷，保育サービスと待機児童問題，児童虐待の現状
3	福祉政策の実際②：障害者福祉	自立生活運動のインパクト，障害者総合支援制度
4	福祉政策の実際③：高齢者福祉	高齢化の現状，老齢年金制度，介護保険制度
5	福祉政策の実際④：低所得者福祉	生活保護制度，生活困窮者自立支援制度
6	関連政策①：健康政策	医療保険制度，健康の社会的要因，「予防」の持つ意味
7	関連政策②：住宅政策	公的住宅の供給，ホームレス「対策」
8	関連政策③：教育政策	高等教育の無償化，就学支援制度，奨学金
9	福祉政策の現代的課題①：グローバリゼーション	権外国人労働者・移民の権利と生活保障，日本の入国管理制度の問題点
10	福祉政策の現代的課題②：ケア	家族・コミュニティの不安定化に伴うケアニーズの充足をめぐる困難， 再生産される性別役割分業と「女性活躍」，ケアの社会化
11	福祉政策の現代的課題③：持続可能性	経済成長と福祉政策の関係，気候変動と脱成長
12	新たな福祉政策①	ベーシックインカム
13	新たな福祉政策②	合理的配慮
14	新たな福祉政策③	エコウェルフェア：エコロジズム・脱生産主義・脱人間中心主義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め，理解を深める．
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます．

【参考書】
武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房．

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、授業毎に設定する課題の提出 40 %，期末レポート 60 % で行う．

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーへの応答を引き続き積極的に行う．

【その他の重要事項】
・日頃から福祉政策の動向に関心を持つようにし，情報収集を怠らない
・疑問については文献や資料で確認する
・授業時に紹介された参考文献を読む

【Outline (in English)】
In this course, students will learn about the meaning and functions of welfare (policies, systems, practices) in society. Specifically, the course outlines Japan's welfare policy and related policies, and aims to provide a basic understanding of the current state of welfare policy in Japan. At the same time, we will examine the various challenges that welfare policy faces in contemporary society, introduce new policy concepts that have been considered in recent years to overcome these challenges, and explain their implications.

福祉社会学Ⅱ

平野　寛弥

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在，日本を含む先進諸国では多様な社会政策が展開されており，その下で人々は生活している．その意味で，このような「福祉国家」はわたしたちの生活を規定する基本的な枠組みとなっている．しかし，そこには無数の規範や価値が反映されており，その如何によって生活のあり方は大きく左右されるものでもある．そこで本科目では，福祉政策の歴史的展開や理論的・思想的根拠について学ぶとともに，現代の福祉政策に向けられる批判や直面している課題について検討する．

【到達目標】
1）社会政策やひとの「福祉」についての理解を深める
2）さまざまな視点からそれらのあり方を検討し，自分なりの見解を持つことを目指す．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
配布するレジュメに沿って講義する。あわせて購入していただく教科書は副読本として使用する．教科書に重要事項は記載されているため，事前に眼を通しておいていただき，そのうえで受講してもらうことになる．
講義では，口頭での補足説明に注意を傾けるようにすること．適宜メモを取ることは理解にとって極めて効果的である．この講義で取り扱う基本的な用語・事柄についてはその意味するところを確実に理解することが重要である．なお，授業計画は進捗状況や受講生の関心に合わせて，適宜修正することがあるのであらかじめご了承願いたい．なお，授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更する可能性もあるのであらかじめご了承願いたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	現代社会における福祉政策
2	福祉政策の歴史①	救貧法から福祉国家の形成へ
3	福祉政策の歴史②	戦後福祉国家の黄金時代
4	福祉政策の歴史③	福祉国家の危機と再編
5	現代の福祉国家①	西ヨーロッパ諸国・アメリカ・日本
6	現代の福祉国家②	東アジア諸国・東ヨーロッパ諸国・南アメリカ諸国
7	福祉政策の理論・思想①	産業化論と福祉レジーム論，脱商品化と脱家族化
8	福祉政策の理論・思想②	シティズンシップ論：人権との違い，自由主義的伝統と市民共和主義的伝統，社会的権利の正当化をめぐる議論
9	福祉政策の理論・思想③	ジョン・ロールズの正義論とアマルティア・センの潜在能力アプローチ
10	福祉政策をめぐる論点①	貧困；貧困の諸概念，剥奪，日本における貧困の様相
11	福祉政策をめぐる論点②	社会的排除と包摂：排除言説と包摂戦略の諸類型
12	福祉政策をめぐる論点③	自立と依存：ケアとは何か，相互依存と関係的自律
13	福祉政策をめぐる論点④	再分配と承認：平等と差異を再検討する
14	福祉政策をめぐる論点⑤	自由とセキュリティ：監視国家と市民間の相互監視，ナッジ，認知的パターナリズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め，理解を深める．
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特に指定しません．講義は毎回の配布資料に沿って進めます．

【参考書】
個別のテーマに関するものについては各授業時に適宜紹介するが，授業全体を通じて関連するものとしては以下の 2 冊を挙げておく．
『ここから始める政治理論（有斐閣ストゥディア）』（田村哲樹・松元雅和, 乙部延剛, 山崎望著，2017 年，有斐閣）
『現代福祉国家と自由：ポスト・リベラリズムの展望』（金田耕一著，2000 年，新評論）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、各回に設定する課題の提出 40 %，最終レポート 60 % で行う．

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーへの応答を引き続き積極的に行う．

【その他の重要事項】
・日頃から福祉政策の動向に関心を持つようにし，情報収集を怠らない
・疑問については文献や資料で確認する
・授業時に紹介された参考文献を読む

【Outline (in English)】
Today, people in developed countries, including Japan, are living under a variety of welfare policies. In this sense, the "welfare state" has become the basic framework that defines our lives. However, it also reflects a myriad of norms and values, and the way we live our lives is greatly influenced by how these norms and values are applied.
In this course, we will learn about the historical development of welfare policy and its theoretical and ideological basis, as well as examine the criticisms of contemporary welfare policy and the challenges it faces.

博物館経営論

金山　喜昭

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の経営の現状とその課題や解決策を学ぶ。

【到達目標】
博物館の適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館や美術館の運営形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。実際の博物館の経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深める。
最終授業では、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館経営とは何か？	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第 2 回	博物館の経営基盤	博物館の経営基盤について概説する。特に，組織体や職種のほか，関連する行財政制度や人材育成面について，その特徴を解説する。
第 3 回	博物館経営の現状Ⅰ（公立博物館）	公立博物館について，財務管理，施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ，施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 4 回	博物館経営の現状Ⅱ（民間博物館）	民間博物館について，財務管理，施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ，施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 5 回	指定管理者制度と博物館経営①	NPO 指定管理館の経営・企業指定管理館の経営・財団法人指定管理館の経営をみる。
第 6 回	指定管理者制度と博物館経営②	博物館の経営調査を NPO 指定管理館の経営・企業指定管理館の経営・財団法人指定管理館の経営をみる。
第 7 回	独立行政法人博物館、地方独立行政法人博物館の経営と課題	東京国立博物館・国立科学博物館、地方独立行政法人の経営状態と課題や展望について解説する
第 8 回	博物館行政と博物館経営	博物館経営に関する制度を解説する。
第 9 回	インバウンド観光と博物館経営	博物館経営における観光の考え方や展望について解説する。
第 10 回	博物館と地域コミュニティの連携①	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の事例を扱う。
第 11 回	博物館と地域コミュニティの連携②	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の事例を扱う。
第 12 回	博物館評価と博物館経営	博物館の経営状況について調査・分析し，その成果をまとめる。
第 13 回	博物館経営の展望	博物館法改正と今後の博物館の在り方を展望する。
第 14 回	本授業の総括（授業内試験）	本授業の内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金山喜昭 編『転換期の博物館経営』（同成社、2020）

【参考書】
金山喜昭『博物館と地方再生』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）、レポート課題（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline (in English)】
(Outline)
This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.
（Learning Objectives）
The goals of this course is for students to understand the management and administration of museums, and to develop basic and applied skills in museum management.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be do preliminary research on the museums discussed in each class.
Your required study times is at least two hours for a class.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in this class will be decided based on the following.
Ordinary points (homework submission) (40%), Assignment report (60%)

博物館経営論

杉長　敬治

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と日本の博物館の経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】
博物館の根拠法である博物館法が制定された 1951 年、博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。経営環境の変化に伴い、博物館に求められている役割や期待は、大きく変わってきました。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館経営に関する基本事項について講義し、受講生には、博物館を視察した成果を踏まえてレポートを提出してもらいます。受講生のリアクションペーパー等でのコメントは、講義内容の理解を深めるために活用します。また、受講生の質問には、授業内又は学習支援システムを活用して回答します。
新型コロナウイルス感染症により授業をオンラインで行うことになった場合には、学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス－博物館経営の基本概念と博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館の目的・使命がどのように設定されているかについて学習する。また、目的・使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこととその背景）について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の動向について学習する。
5	国立博物館の経営－現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、国立博物館の経営上の課題について学習する。
6	公立博物館の経営－現状と課題	指定管理者制度、地方独立行政法人制度を中心に、公立博物館の現状と課題について学習する。
7	私立博物館の経営－現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
8	博物館におけるマーケティングについて	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本概念とマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
9	博物館の広報活動－現状と課題	博物館の広報活動の現状と求められている広報戦略（ブランド戦略を含む）について学習する。
10	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力－現状と課題	博物館の支援組織（友の会・後援会）とボランティア）について学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
11	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
12	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理について・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめとして、授業と課題を通して受講生が考えたことを共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。受講生は、学習支援システムに掲載した資料や教科書の関連部分、参考書に目を通して講義を受講してください。参考書は、他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでいます。受講生は、授業期間中博物館をできるだけ視察し、博物館を見る眼を鍛えてください。

【テキスト（教科書）】
教科書「転換期における博物館経営」（金山喜昭篇、同成社、2020 年 4 月 22 日発行、価格 2,700 円+税）を使用します。教科書で扱っていない内容は、学習支援システムに資料を掲載します。

【参考書】
①ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、②マネジメント、P．F．ドラッカー、ダイヤモンド社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一、稲葉郁子、日本経済新聞社、④文部科学省の社会教育調査（https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/）、⑤博物館学・美術館学・文化遺産学基礎概念事典、フランソワ・メレス他、東京堂出版、⑥ザ・ミュージアム；世界の知と美の殿堂、O・ホプキンズ、河出書房新社、⑦その他（授業内で適宜紹介します。）

【成績評価の方法と基準】
博物館経営についての理解の度合いを判定するため、レポートにより評価します。配点は、①授業期間中に提出す課題レポート（授業時に示す課題から受講生が５題を選択して提出）が 50%、②学期末（第 14 回授業時）に提出するレポートが 50 %です。②のレポートは、ｉ受講生が博物館を調査（実地調査を含む）し、経営分析を行うもの、ii 教科書と講義内容を踏まえて日本の博物館について考察するものから選択してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容に関する質問には、授業時又は学習支援システムを使って回答します。受講生が、授業環境に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する諸連絡は、学習支援システムで行います。各回の授業の前後に必ず学習支援システムにアクセスしてください。

【その他の重要事項】
この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目のひとつです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館の経営に関心のある方の受講も念頭に置きながら、授業を進行していきます。①質問やご意見は、授業への参画のための重要なツールで、授業より興味深いものにする上で重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く” そして “考える” がセットになった行動が必要不可欠です。皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館現場や生涯学習・文化行政での実務経験を踏まえて、博物館や国の博物館政策・文化政策の状況を伝えていきたいと思います。

【Outline (in English)】
（Course outline）Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums.The goal of this subject is to acquire the basic management knowledge that museums need to meet the expectations of society.
（Learning Objectives）The aim of this course is to acquire the basic knowledge necessary for museum management.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）Grading will be decided based on term-end report (50%)、short reports(50%).

博物館資料保存論

今野　農

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における基本的な機能の１つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の 保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講 義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】
講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識が習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管 理」に関する知識が習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資 源の保護」に関する知識が習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤が形成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。また、各回にリアクションペーパーの提出を課し、記載された重要な事項や質問については、各回の講義冒頭で取り上げて議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第 2 回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第 3 回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第 4 回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第 5 回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第 6 回	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第 7 回	博物館における環境管理・温湿度管理	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第 8 回	有害物質管理と照明管理	汚染物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第 9 回	有害生物管理	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）について解説する。
第 10 回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第 11 回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第 12 回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第 13 回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第 14 回	まとめ・学芸員の役割	授業のまとめとして、資料保存に果たすべき学芸員の役割について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・石﨑武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー： 70%（内、平常点 50%程度、各回コメント 20%程度）、最終試験： 30%。

【学生の意見等からの気づき】
例年に比べて昨年は、理解度などの評価が低下したため、この点は水準の向上を図る。一方で、難解であったとの反応や授業時間外の学習活動については、より多くの学生が親しめるように努める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides students with basic knowledge of preservation of the museum collections. The aria of this course is preservation of the museum collections, environmental agents of museums, and preservation of historic and natural properties.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings;
− acquire knowledge of proper handling, storage, exhibit, restoration, and packing and shipping techniques of museum objects.
− acquire knowledge of controlling environmental agents (e.g., temperature, relative humidity, light, and air pollution) and Integrated Pest Management.
− acquire knowledge of preservation and conservation of historic monuments and heritages, and protection of the natural environment.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by reading references.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the followings;
Term-end examination: 30%, Short reports : 20%, in class contribution: 50%.

博物館資料保存論

清水　玲子

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】
博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。
到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に着けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・ppt による資料を提示しながら、実施する。
・講義後に、リアクションペーパーを毎回提出。
・ワークショップを実施予定。
・第 1 回目の講義 URL の案内は Hoppii のお知らせ機能から送付。
・第 1 回目の講義とワークショップ 2 回以外の講義は、オンデマンドの予定。
・ワークショップの日程により、授業内容は前後することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
講義	オリエンテーション	オンライン講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明
講義	博物館資料と学芸員	博物館資料と学芸員の役割を考える
講義	資料の梱包と輸送	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について
講義	資料の環境①	資料を保存する環境について、劣化要因として温度と湿度に関して
講義	資料の環境②	資料を展示する際の環境を中心に、劣化要因となる光、総合的病害虫管理（IPM ： Integrated Pest Management）について
講義	文化財保護の歴史	近代以降の文化財保護の法制度の変遷について
講義	文化財と博物館	保護から活用へ文化財の位置づけが大きく変化する中で、博物館の役割とは何か。
講義	資料の修復と保全	資料の修復の現場について、事例を見ながら現状に触れる。
講義	ワークショップ①	SDGs とは何かを自分ごととして考える
講義	ワークショップ②	博物館と SDGs について考える
ワークショップ	資料の取扱い①	資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ①
ワークショップ	資料の取扱い②	資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ②
講義	資料の取扱い③	資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ③
講義	まとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・原則、授業後にリアクションペーパーを提出してもらうが、その他については、必要に応じて告知する。
・本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】
『歴史を未来につなぐ：「3・11 からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019 年 5 月
金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017 年 3 月
奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会 (地域づくりの基礎知識 1)』神戸大学出版会、2018 年 1 月
吉田 正人『世界遺産を問い直す』山と渓谷社、2018 年 8 月
*その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】
・講義終了後に、理解の程度を確認する為のリアクションペーパーを提出。
小課題 50 %　期末課題 50 %　にて評価する。
＊詳細は、第 1 回目の講義（オリエンテーション）で説明する。

【学生の意見等からの気づき】
他の出席者との関係性が希薄になるという学生からの意見があったので、ワークショップを取り入れ、お互いに意見交換したり、共に何かを考える時間を設けながら進める予定である。

【学生が準備すべき機器他】
PC で受講することが望ましい。講義資料の容量が重い為、スマホやタブレットだと負荷がかかりすぎる可能性があります。

【Outline (in English)】
Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

博物館展示論

大山　裕

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類がこれまで歩んできた歴史や、その営みのなかで育まれた文化を伝える技術としての展示について、その多様な手法と効果、これからの可能性について学びます。

【到達目標】
１．博物館展示とは何かを理解し、他の展示との違いを知る。
２．博物館展示における多様な表現を知り、その特徴を理解する。
３．展示室を構成する展示ケースや展示台などの各種の展示什器や展示手法の特性を理解し、展示の目的や展示資料に適した展示空間をつくれるようになる。
４．展示表現の意義や効果、その可能性ついて考え、博物館の理解者、博物館の未来を支える人材となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	展示とは何か１	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ。
第 2 回	展示とは何か２	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ。
第 3 回	博物館における学び１	生涯学習、学校との連携、地域づくり、ダイバーシティなど、博物館の社会的役割について学ぶ。
第 4 回	博物館における学び２	子どもや高齢者、障がい者、外国人など多様な来館者に対応する展示手法、参加型展示、教材について学ぶ。
第 5 回	展示空間の構成１	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ。
第 6 回	展示空間の構成２	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ。
第 7 回	展示の芸術性１	展示の芸術性について表現方法を学ぶ。
第 8 回	展示の芸術性２	物語性・共感や感動を与える展示表現を学ぶ。
第 9 回	展示の科学性１	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ。
第 10 回	展示の科学性２	エアタイトケース、収蔵庫等、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ。
第 11 回	展示の解説と造型１	展示解説パネルの方法、映像解説等について学ぶ。
第 12 回	展示の解説と造型２	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型等について学ぶ。
第 13 回	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ。
第 14 回	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ。最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】
里見親幸　「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】
特に無し。

【成績評価の方法と基準】
授業後の感想文５０％、複数回実施する課題レポート５０％によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
参加者からのフィードバック（感想文、質問等）を大切にして授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【その他の重要事項】
特に無し。

【Outline (in English)】
You will learn about the history of humankind, the various methods and effects of exhibition as a technique to convey the culture nurtured in the process, and the future possibilities.

博物館展示論

松丸　裕之

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間の情報メディアとしての展示、特に博物館における展示とはどのようなものか、ここでは展示の基本的な概要をはじめ博物館展示の特性・企画・デザイン・製作の進め方について実践例を通じて学ぶ。授業では、博物館の展示の現場に携わる多様な専門家からその実践について話しを聞くことも予定している。また講義の他、実際の展示施設での学びや、展示企画構成を実践するグループワークも予定している。

【到達目標】
①博物館展示の特性について理解を深める
②情報メディアとしての展示を構成するストーリー・演出要素等について理解する
③展示がどのように構成し出来上がっているかを理解する
④小規模の展示を企画・構成することができるようになる
＊尚、事前に博物館概論・博物館資料論等を履修し博物館概要について理解しておくことを推奨します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
予め用意するパワーポイントをもとに講義を進める。
各回終了後にリアクションペーパーを提出するとともに、施設の実地見学を予定している。またグループワークでは受講生を任意にグループ分けし、与えられたテーマをもとにグループで企画構成を行いプレゼンテーションし、最後に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要説明、進め方、グループ決め等。
第 2 回	博物館展示概論-博物館展示とは何か	博物館展示の特性・役割、諸類型等について展示の歴史を通じて学ぶ。
第 3 回	博物館展示の流れ	博物館展示を支える人々、展示の構成・プロセス等についてワークショップ・展示評価を含め実際例をもとに学ぶ。
第 4 回	様々な博物館展示	国内外の多様なテーマによる博物館展示のあり方について学ぶ。
第 5 回	博物館展示の技術 Ⅰ 企画する	博物館展示の企画とはどのようなものか、どのように組み立てるのかを実際例をもとに学ぶ。
第 6 回	博物館展示の技術 Ⅱ デザインする	博物館展示のデザイン・設計とはどのようなものか、どのように行いどこにこだわるのか等について実際例をもとに学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第 7 回	博物館展示の技術 Ⅲ 製作する	展示を実際に作り上げる上での留意点等について実際例をもとに学ぶ。
第 8 回	博物館展示のエレメント Ⅰ実物資料と展示ケース・照明	博物館展示における主要な要素である実物資料の取り扱いについて、その展示方法と合わせて学ぶ。
第 9 回	博物館展示のエレメント Ⅱ展示解説・グラフィック	展示の主要な解説手段であるグラフィック及び様々な解説手段について学ぶ。
第 10 回	博物館展示のエレメント Ⅲ模型・造型	博物館展示をわかりやすく表現する手段としての模型・造型・レプリカ（複製）等について、その実際例を通じて制作過程と留意点等について学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第 11 回	現地学習	都内の施設を実地見学・学習予定。 ＊ 6/24 の補講を予定
第 12 回	博物館展示のエレメント Ⅳ映像・音響	近年急速に発展する博物館展示における映像等のあり方・事例について、その実際例をもとに学ぶ。
第 13 回	グループワーク	事前に与えられたテーマをもとにグループ毎にディスカッションし、企画・構成を検討　まとめ作業を行う。 尚、事前の４回程度の講義の後半でグループ毎にミーティングを行うことを予定。
第 14 回	まとめ（プレゼンテーション・講評）・期末テスト	博物館展示をめぐる今後の課題・役割についてまとめを行う。 最終企画案をまとめ、グループ毎にプレゼンテーションし講評する。期末テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
３館以上のミュージアム（博物館・資料館・科学館等）に行き、展示の構成・ストーリー・演出・空間の特徴について確認・まとめておくこと。
またそれ以外にも積極的に各種施設見学を行うこと。
（当大学はキャンパスメンバーズ会員のため東博等無料で見学が可能）

【テキスト（教科書）】
「博物館展示の理論と実践」里見親幸　2014 年　同成社
2800 円+税

【参考書】
「展示論～博物館の展示をつくる～」日本展示学会　2010 年　雄山閣

【成績評価の方法と基準】
出席 (各回リアクションペーパーと小テストを予定）40%、グループワーク・プレゼンテーション 20%、レポート 20%、期末テスト（教科書・講義内容から出題）20%

【学生の意見等からの気づき】
受講者からのフィードバックを大切に授業運営を進める。

【その他の重要事項】
・第 11 回「現地学習」は、6/24 の補講にて行います。（このため 5/6 は休講します）
詳細は講義の中で説明します。
・尚、担当講師は展示会社にて 30 年以上博物館展示計画の実務を行ってきており、これらの実践を通して博物館展示を様々な角度から見ていきます。

【Outline (in English)】
Through practical examples, students will learn about exhibitions as information media for space, especially museum exhibitions, including the basic outline of exhibitions, the characteristics of museum exhibitions, and how to plan, design, and produce them. In the class, we also plan to hear about the practices of various experts involved in museum exhibition sites. In addition to lectures, there are also plans for learning at actual exhibition facilities and group work to put exhibition plans into practice.

博物館教育論

渡邊　祐子

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ミュージアムにおける教育活動の理念、活動の基礎となる学習理論、国内外のミュージアムの具体的な事例に関する講義を通して、ミュージアムの教育的な役割と意義について理解を深めます。

【到達目標】
実際のミュージアムの利用体験と照らし合わせながら講義の内容について理解を深め、ミュージアムの教育活動に必要とされる基礎的能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は、講義と演習によって構成されます。また、授業内での発表や調べ学習の他、場合によってはリアクションペーパーの提出があります。提出された課題等に対しては、授業内でフィードバックを行います。
※授業形態 (対面 or オンライン) を予定から変更する場合は、各回の授業や学習支援システム（Hoppii）でアナウンスをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の目的、進め方、計画、評価などの概要について説明します。
第 2 回	博物館教育とは何か	ミュージアムとは何か、“博物館教育”（museum education）とは何かについて学びます。また、なぜミュージアムにおいて教育が重視されるようになったのか、歴史をたどりながら理解していきます。
第 3 回	博物館教育の学習理論	ミュージアムでの学びにみられる特徴について、学校教育などとの比較をふまえて理解していきます。
第 4 回	教育資源としての展示	ミュージアムでの実物教授の学び（object-based learning）について理解し、教育的な活用事例を見ていきます。
第 5 回	展示見学	ミュージアムの展示を見学し、調べ学習をします。
第 6 回	ミュージアムと来館者をつなぐ①	ミュージアムの資料や展示を生かしたプログラムの実践実例を知り、プログラムの企画・立案のプロセスについて学びます。
第 7 回	ミュージアムと来館者をつなぐ②	ミュージアムが教育活動のために作成している教材やウェブなどの媒体、アーカイブの事例を知り、制作のプロセスを学びます。
第 8 回	ミュージアムと来館者をつなぐ③	ミュージアムで活躍する市民（アート・コミュニケータ）の役割と活動について学びます。
第 9 回	ワークショップ体験	ミュージアムで実践されているワークショップと同じ内容の活動を授業内で体験します。
第 10 回	プログラム・メイキング①	教育プログラムを立案するためのプロセスを理解したところで、グループごとに与えられたテーマに沿った企画を考えます。
第 11 回	プログラム・メイキング②	グループごとに与えられたテーマに沿った企画内容を考え、企画案を作成します。
第 12 回	グループ発表①	グループごとに作成した企画案を発表します。（前半）
第 13 回	グループ発表②	グループごとに作成した企画案を発表します。（後半）
第 14 回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では、ミュージアムの見学や、その体験をもとにしたプログラム案の企画・発表を予定しています。そのため、授業内容と合わせて各館のホームページを閲覧して多様な教育プログラムについての知識を深めたり、授業内で紹介する博物館教育に関する報告書、文献等を読んだりするための、準備学習及び課題が適宜課されます。
授業外の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布します。

【参考書】
J.H. フォーク・L.D. ディアーキング『博物館体験』（雄山閣出版）
G.E. ハイン『博物館で学ぶ』（同成社）ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %と、期末試験 50 %（グループ発表及び試験）を合計して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
基礎的な理解を深めるための講義の他、調べ学習、グループワーク、プレゼンテーション等、参加型授業の側面も重要視していきたいと思います。

【その他の重要事項】
東京都美術館で子どものための博物館教育を行ってきました。
現場の経験をもとに、国内外の先進的な事例を具体的に取り上げ、多様性を尊重した「博物館の教育」づくりの基本や方法を伝授します。
参考：東京都 東京都多文化共生ポータルサイト「やさしい日本語」活用事例 2021 年 3 月
https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki_tabunka/tabunka/tabunkasuishin/files/0000001620/13_museum-start.pdf

【Outline (in English)】
This course surveys the principles and practices of museum education. It explores the kinds of learning that occur in museums and how educational programming can engage diverse audiences.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50%, in class contribution 50%.

博物館教育論

山下　治子

配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】
①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しあう。
　リアクションペーパーなどによる感想や質問などについては、授業のなかで紹介したり、答えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。 美術館での学び、ワークショップ
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。 自然史系博物館での学び①
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。 　特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。 　自然史系博物館での学び②
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
参考として、『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】
雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
（授業への積極的参加, リアクションペーパー ）（50%）＋レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline (in English)】
This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
(participation) (50%) + Short reports (50%)

博物館実習Ⅰ

田中　裕二

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館学芸員として必要な実務に係る諸技能を実習で学ぶ。

【到達目標】
博物館に係る実践的な技能や知識に限らず、学芸員としての心得を身につけることができる。学芸員の職務は多岐にわたるが、その中でも特に、資料の取り扱い方や、資料の記録・整理・展示方法を中心に、博物館運営に関わる実践的な能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期第１回目はオンラインで実施。対面を原則とする。実習の場所が変更になることがあるので、常に Hoppii を確認しておくこと。課題、リアクションペーパー等は全て、学習支援システム Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	事前指導	実習全体の事前指導を行うガイダンス。博物館学芸員の仕事・実務について概観する。
第２回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：凧）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第３回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（凧）の整理・実測（１）
第４回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（凧）の整理・実測（２）
第５回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（凧）の整理・実測（３）
第６回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（凧）の整理・実測（４）
第７回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第８回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第９回	博物館資料の取り扱いⅦ	文書類等の調査・観察・記録（１）
第10回	博物館資料の取り扱いⅧ	文書類等の調査・観察・記録（２）
第11回	博物館資料の取り扱いⅨ	文書類等の調査・観察・記録（３）
第12回	博物館資料の取り扱いⅩ	文書類等の調査・観察・記録（４）
第13回	博物館資料の取り扱いⅩⅠ	文書類等の調査・観察・記録（５）
第14回	博物館見学会	実地調査。東京及び関東近郊の博物館で学芸員から解説を受け、実態を理解する。
第15回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料（民具）について解説
第16回	コレクション調査Ⅰ　（調査報告）	夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第17回	コレクション調査Ⅱ　（調査報告）	夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第18回	コレクション調査Ⅲ　（調査報告）	夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第19回	コレクション調査Ⅳ　（調査報告）	夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第20回	博物館資料の整理Ⅰ	収集した資料のクリーニング。
第21回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第22回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第23回	博物館資料の梱包	資料の梱包資材・梱包作業
第24回	博物館資料の展示実技Ⅰ	美術資料（掛軸・巻子・画帳）の取り扱いと展示作業
第25回	博物館資料の展示実技Ⅱ	美術資料（掛軸・巻子・画帖）の取り扱いと展示作業
第26回	展示企画　Ⅰ	グループに分かれて民具を使った展示を企画する。
第27回	展示企画　Ⅱ	キャプションの執筆、パネルの作成、民具の展示を実施する。
第28回	事後指導	実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み期間中に資料（民具）の収集調査をしてもらいます。実地調査に必要な旅費交通費や入館料など各自の負担となります。収集調査した結果は授業内で発表してもらう予定です。詳細については授業内で周知します。

【テキスト（教科書）】
随時プリントなどを配布する。

【参考書】
随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (50 %）と課題の提出（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
本授業は 24 名を上限とする。なお、初回のガイダンスで希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は授業内で指示するが、資格課程実習準備室の掲示、学習支援システムなど常に確認すること。

【Outline (in English)】
This course aims to undertake a practicum for practical operations as a curator works for a museum. Learning objectives: Development and practical experience with handling, acquisition, documentation and display relating with museum activities. Leaning activities outside of classroom: collect a folk craft in a summer session. Visit permanent and special exhibitions as many as possible. Grading criteria/policy: submitted works 50%, participation in practicum 50%.

博物館実習Ⅰ

金山　喜昭

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の実務に関わる業務を実習する。

【到達目標】
博物館にかかわる実務を中心に学習しながら、学芸員としての心構えや技能を培うことができる。そのために、実際に資料を取り扱い、資料の観察・記録・整理・展示のほか、博物館運営に関わる実践的能力を身につける。将来、博物館などの文化施設のみならず、文化・教育関連、地域や NPO 等の分野でも活用できるスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期には大学のコレクションを用いた実務実習と教材製作を行う。後期には各種の資料の取り扱いや資料の製作を学ぶ。この授業では、博物館活動の基礎となる実習を行う。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：凧）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（凧）の整理・実測（1）
第 4 回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（凧）の整理・実測（2）
第 5 回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（凧）の整理・実測（3）
第 6 回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（凧）の整理・実測（4）
第 7 回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料（凧）の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第 8 回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（石器）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 9 回	博物館資料の取り扱いⅦ	アーカイブ実習（1）
第 10 回	博物館資料の取り扱いⅧ	アーカイブ実習（2）
第 11 回	博物館資料の取り扱いⅨ	アーカイブ実習（3）
第 12 回	博物館資料の取り扱いⅩ	アーカイブ実習（4）
第 13 回	博物館見学会	現地調査。東京及び近郊博物館での学芸員からの業務解説で実態理解。
第 14 回	事後指導	実習全体の総括・講評・指導
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する。
第 16 回	コレクション調査Ⅰ　（調査報告）	夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査Ⅱ　（調査報告）	夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査Ⅲ（資料化実習）	夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査Ⅳ（資料化実習）	夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理Ⅰ	拓本（実習）
第 21 回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の整理Ⅳ	博物館関連講座の取材・記録・資料化
第 24 回	博物館資料の梱包	資料の梱包・運搬
第 25 回	博物館資料の展示実技	美術資料（掛軸・画帖）の取り扱いと展示体験
第 26 回	教材製作実習・篆刻Ⅰ	篆刻・文字・落款の解説、製作
第 27 回	教材製作実習・篆刻Ⅱ	篆刻の製作
第 28 回	事後指導	課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み中に資料収集をすることや、篆刻はホームワークとする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントなどを配布する。

【参考書】
随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点と課題の提出によって評価する。
平常点 50 %、課題 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course aims to undertake a practicum for practical operations at museums.
（Learning Objectives）
The goals of this course are practical matters related to museums.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be collect materials during the summer vacation and to visit museums outside of class days.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on practical training report and submission of assignment.

博物館実習Ⅱ

小西　雅徳

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における特別展をふくむ企画展の実施は学芸員活動の花形の一つです。この授業では企画展実施過程の手法を学びつつ、日本の博物館での現状にも触れていきます。例えばコレクションの関係や館規模・組織等の問題から、集客性に重点をおいて企画展を重視する傾向が何故あるのかを考えていきます。企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、学生各人の企画力やグループ討議を通じて企画展実施のノウハウを学びつつ、博物館の裏方を支える学芸員の世界をのぞいてみましょう。

【到達目標】
企画展を実施するには様々な専門性に加え、多様な価値観や社会観を基本とした企画展実施への工程がある。受講生にはその実際の手法をテキストや画像あるいは実資料を手に取りながら実体験的に学んでいきます。企画展実施までの手法を課題発表の繰り返しにより、受講生の豊かな発想や視点を加えつつ、博物館現場の実際とをシミュレーションしていきます。同時に博物館学という基礎能力の構築と豊かな企画展創造への個々人のスタイルを引き出していきたいです。後期授業では個々人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想・発表して企画展実施計画までの到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業内容は、前期と後期とを通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程と手順、③学生個々人の企画展案発表、④グループ企画展発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが博物館の展示状況をスライド等で紹介し、博物館資料の古代鏡等の実資料にも触れます。後期は各人の企画展発表やグループ発表準備にあてます。発想を重視した企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制をグループワークを通じて模擬体験します。発表はパワーポイントとなります。レポート課題を随時課していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス　博物館展示と学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や七つ道具等の実情を紹介します。
第 2 回	博物館展示の時代的、地域的変遷推移や、日本と海外の企画展の違いについて考える	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証しつつ、海外と日本の学芸員のスタイルについて紹介します。
第 3 回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順―その１－展示のための素材探し、種-ヒントの探し方を考える。
第 4 回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみること	企画展実施までの工程手順―その２－成功した企画展例を基に、自分なりにシミュレーションしてみる。
第 5 回	スライド（海外博物館の展示状況）	欧米博物館・美術館の展示状況をスライドで解説します。
第 6 回	展示構想と企画書　企画展を構想する①	展示構想の内容と要点について説明し、企画書に盛り込む内容を整理する。課題として企画書を作成準備する。
第 7 回	展示設営（展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示レイアウト－展示導線と照明計画について説明する。パワポ資料提示。
第 8 回	レポート課題　企画展を構想する	前回までの展示の進め方を参考に自分が取り組んでみたい企画展を構想し提出してください。
第 9 回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員が存在する理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。ライターとしての学芸員像を提示する。
第 10 回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。またサイン作成も重要。
第 11 回	展示図録・パンフレット等の作成手順及び情報端末導入について	展示図録・パンフレット等の作成手順。大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。
第 12 回	借用交渉と調書	学芸員の力量は資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。資料をみて調書を作成する。
第 13 回	企画展発表Ⅰ①	各回 10 名程度に分け、パワポ 5 枚程度を作成し発表する。
第 14 回	企画展発表Ⅰ②	パワポ 5 枚程度を作成し発表する。発表終了後、後期の発表課題について事前説明を行う。
第 15 回	資料目録の作成手順と資料保存修復の仕方について	展示の第一歩は出展目録の作成にある。展示資料の 1 次候補から 2 次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始め、また、展示を実施する際の資料の修復等について説明する。
第 16 回	企画展を構想する②	前期発表を肉付けした企画展の構想について説明する。
第 17 回	企画展発表前事前相談	各人の取り組みについて相談し、課題を克服する。
第 18 回	企画展発表Ⅱ－①	各回 7 名程度に分け、パワポ 15 枚程度を作成し発表する。
第 19 回	企画展発表Ⅱ－②	パワポ 15 枚程度を作成し発表する。
第 20 回	企画展発表Ⅱ－③	パワポ 15 枚程度を作成し発表する。
第 21 回	グループ企画展実施①　グループ紹介と自己の主張について	5 人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第 22 回	グループ企画展実施②　グループ企画展から発表題を絞り込む	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第 23 回	グループ企画展実施③　展示企画の具体像の作文化	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 24 回	グループ企画展実施④　教育普及と観覧者の希望する展示とは何かを考える	企画展における教育普及のあり方を考え、更に集客方法や展示の仕方と広がりを考える。
第 25 回	グループ企画展実施⑤　ミュージアムグッズについて	博物館の魅力の一つとしてグッズがある。独自のグッズを考えてみよう。
第 26 回	グループ企画展実施⑥　最終発表に向けた調整を行う	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。パワポ内容やレジュメ原稿を整理する。
第 27 回	発表　グループ数が多い場合には、発表順を決め 2 回に分けて実施する場合がある	各グループが 15 分程度で発表する。パワーポイントを用いて発表する。1 年間の成果を問う。
第 28 回	発表評価と企画展の将来的展望について（まとめ）	発表案について評価すると共に、日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。企画展発表のためにはいろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を最低 3 回程度課しパワポ等で発表を行います。最新の展示状況を俯瞰しながら自分の企画展発表のシーズ（種）を探していきましょう。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業時に配布します。

【参考書】
特別展図録や展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】
出席 7 割以上確認の上、成績は課題発表等から評価していく。学生自身のオリジナリテイを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。前期の出席や評価についても適宜課題等を通じて確認していきます。

【学生の意見等からの気づき】
机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけください。

【学生が準備すべき機器他】
グループ討議では PC を用意していただきます。個人用に加え、必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有として⊠を活用してほしいですが、最近ではスマートフォンでやり取りするケースも多く実際その使用を認めています。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
Learn how to organize exhibitions at the museum.In the first half the lesson,you will learn various steps besed on the text.In the second half,we will organize a group and present a special exhibition. At the same time,learn about the differences between the world and japan in their approach to museum activities.

博物館実習Ⅱ

杉山　享司

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画から展覧会チラシ（フライヤー）の制作までを通して、学芸員の仕事の実際について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】
この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を立案して展覧会の企画書にまとめ、最終的にそれを展覧会チラシ（フライヤー）として完成させ、発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要となる知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学習支援システムを通して資料を配布し、それに基づきながら対面形式による実習授業を進めていきます。当該の授業回のねらいや目的を提示しますので、受講生は配布された資料や参考動画を視聴し、各自に与えられた課題（企画書や展覧会チラシ）に取り組んでください。なお、その際にはデザイン思考に基づく視点を取り入れ、教師や受講生同士による質疑応答を重視しながら授業を進めます。多様な意見を取り入れながら合意形成をはかることで、新たな視点や考え方のヒントが得られることでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や目的、その進め方について説明する
2	博物館と学芸員	博物館の使命や意義、学芸員の役割やその仕事について解説する
3	日本における博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、日本において博物館がどのように発展していったのかを解説する
4	公立博物館の活動紹介	東京国立博物館の概要と収蔵する資料について紹介する
5	私立博物館の活動紹介	日本民藝館の歴史とその概要について紹介する
6	海外における博物館の歴史と活動の紹介	海外における博物館の歴史を紐解きながら、大英博物館の概要について紹介する
7	企画展の開催とその意義について	企画展の歴史やその意義、そして開催方法などについて解説する
8	展覧会実施までのプロセス①	展覧会（企画展）の立案から企画書の作成までの過程を解説する
9	展覧会実施までのプロセス②	出品交渉などの準備から展覧会実施までの過程を解説する
10	展覧会企画書の作成とデザイン思考について	展覧会実施までのプロセスを理解した上で、企画書の作成方法や注意点について解説し、企画書を実際に作成してみる。併せて、展覧会企画とデザイン思考との関連について解説する
11	受講生による 1 回目の企画書案の発表	受講生による 1 回目の「展覧会企画書案」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
12	受講生による 2 回目の企画書案の発表	受講生による 2 回目の「展覧会企画書案」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
13	受講生による 3 回目の企画書案の発表	受講生による 3 回目の「展覧会企画書案」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
14	13 回目に統合	同上
15	受講生による 1 回目の企画展の企画書（修正案）の発表	受講生による 1 回目の「展覧会企画書」（修正案）の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
16	受講生による 2 回目の企画書（修正案）の発表	受講生による 2 回目の「展覧会企画書」（修正案）の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
17	受講生による 3 回目の企画書（修正案）発表	受講生による 3 回目の「展覧会企画書」（修正案）の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
18	「展覧会企画書」発表の総括	受講生各自の発表を基にして問題点や課題を整理し、企画内容の充実化を図る。併せて授業内で実践してきたデザイン思考についての理解を深める
19	企画書を基にした展覧会チラシ（フライヤー）の作成とデザイン思考について	展覧会チラシ（フライヤー）の作成方法やその際の注意点について解説し、併せてデザイン思考に基づく作業について確認する
20	受講生による 1 回目の展覧会チラシ案の発表	完成した企画書に基づき作成した展覧会チラシ案の 1 回目の発表。そして、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
21	受講生による 2 回目の展覧会チラシ案の発表	完成した企画書に基づき作成した展覧会チラシ案の 2 回目の発表。そして、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
22	受講生による 3 回目の展覧会チラシ案の発表	完成した企画書に基づき作成した展覧会チラシ案の 3 回目の発表。そして、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
23	展覧会の実見（学外での実習）	学芸員の案内を受けながら、東京都内の博物館施設で開催されている展覧会を見学する
24	受講生による 1 回目の展覧会チラシ（修正版）の最終発表	展覧会チラシ（修正版）の 1 回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
25	受講生による 2 回目の展覧会チラシ（修正版）の最終発表	展覧会チラシ（修正版）の 2 回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
26	受講生による 3 回目の展覧会チラシ（修正版）の最終発表	展覧会チラシ（修正版）の 3 回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
27	授業のまとめと解説	展覧会企画のプロセスや学芸員の役割と仕事について改めて解説し、本授業を通して学んだことを受講生にリアクションペーパーとして提出してもらう
28	27 回目に統合	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するよう心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】
レジュメを授業中に配布します。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の課題「企画書の作成と発表」の評価 40 %、秋学期の課題「展覧会チラシ（フライヤー）の制作と発表」の評価 60 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
当授業は「実務経験のある教員による授業」に該当しており、教員は美術館の学芸員として長年にわたり現場に携わっています。そこで、この授業では出来るだけ現場で得た新しい情報や知識を伝えるとともに、学芸員や博物館の仕事に関する質問についても応えていきたいと思います。

【Outline (in English)】
An exhibition which is one of the basic items of curator's activities.
In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

博物館実習Ⅲ

金山　喜昭

配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは、博物館の実務実習である。博物館で働く学芸員に触れることで、専門的で多様な技能を身につけることをめざす。

【到達目標】
博物館に関する基礎知識や基本的技能をベースに、博物館での館務体験を通して、博物館の業務を理解するとともに、学芸員として求められる実践的能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講前年度までに「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」の 9 科目全てを取得した者のみを対象に、2 週間（10 日間）以上の館務実習を実施する。
実習先としては、(1) 全国の博物館における館園実習コース及び (2) 法政大学博物館展示施設での展示実習コースを選択する。受け入れ先の博物館の都合により、実習日数が 10 日を満たない場合は、不足分を秋学期に学内での学芸員実務で補う。このほか、実習前後に計 5 回の事前（実習ガイダンス）・事後（実習発表会）の指導のほか、個別の面接指導・課題指導等を実施する (全員が対象)。
なお、新型コロナ感染拡大の影響に伴い、今後の予定や、変更等が生じた場合は資格課程準備室等からメール等で連絡をする。
最終授業となる実習報告会では、実習のまとめや振り返りだけでなく、学芸員となるための準備や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	博物館実習Ⅲ（館務実習）の事前指導。概要、受講条件・年間スケジュール、受講及び応募に向けての準備学習を指導。
実習前②	事前指導	受講生の志望に即した実習計画の設定、応募施設の選択等に関する個別面談指導。
実習前③	事前指導	実習計画を踏まえた博物館学芸員実習希望登録書・身上書等の作成・提出。
実習前④	事前指導	「博物館実習Ⅲ」の履修登録手続等の確認、学内学外実習の応募先の決定、実習計画・関連書類の整備。
実習前⑤	事前指導	博物館実習の事前指導。（実務実習の方針、実習にのぞむ心構え・姿勢、事前準備・予習事項）
実習中	館園実習（10 日間）	現場の学芸員によるガイダンス等を行う。 学内実習の場合は担当教員によるガイダンスを行う。 ・実習館の見学、説明。 ・展示企画、準備、実施などを行う ・資料整理を行う。 ・教育普及活動。 ・実習授業の反省会。
実習後①	事後指導	事後指導ガイダンス。実習を終えての礼状、実習成果報告及びプレゼンテーションに関する指導。
実習後②	事後指導	実習成果・考察を明示した報告課題（実習日誌・実習レポート・年度報告書用レジュメ）とプレゼンテーション用電子資料のまとめ・提出。
実習後③	事後指導	受講者全員による実習成果の発表会。 実習授業全体の振り返りと総評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を事前に読むこと。
実習する館を事前に下調べする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
随時指示する

【成績評価の方法と基準】
実習先での評価 (50%)。
ガイダンスを含めた平常点 (20%)
課題提出物（30%）

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
その他の重要事項
*第 1 回ガイダンス【受講準備】（前年度 12 月）
*個別指導【施設選択、希望実習館への問い合わせ、提出書類作成、応募】
*第 2 回ガイダンス【登録、学内・学外実習先の決定】（4 月）
*第 3 回ガイダンス【事前指導】（7 月）
*実地実習
*実習先への礼状の送付
*第 4 回ガイダンス【報告準備】（10 月）
*事後指導・実習報告会および情報交換会（12 月上旬に市ヶ谷キャンパスで開催予定）形式：各自制作のレジュメおよびパワーポイントによる成果発表。
なお、本講座に関する指示・通知に関しては、各ガイダンスならびに資格課程実習準備室の掲示板等で常に確認するようにしてください。

【学内実習】
学内実習の実務実習は、春学期（6 月）及び秋学期（10 月～11 月）にそれぞれ 10 日間実地する。学外の各博物館の都合で実習日数が 10 日に満たない場合、不足分を秋学期の学内実習で補う。

【Outline (in English)】
(Outline)
The theme of this course is a practicum for practical operations at a museum. This course aims to learn communication skills as a member of society as well as professional and diverse skills by training with the professionals at a museum.
（Course outline）】
This course aims to undertake a practicum for practical operations at museums.
（Learning Objectives)
The goals of this course are practical matters related to museums.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be do preliminary research on the museum where you will be practicing.

（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in this class will be decided based on the following
Evaluation at the museum (50%), Ordinary points including guidance (20%), Assignment submissions (30%)

メディアと人間Ⅰ／比較文化論Ⅰ

李　舜志

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアと人間が切っても切り離せない関係で結ばれていることを学び、メディアの分析、設計、表現に資する基礎的な知見を習得する。メディアと人間Ⅰは基礎編として主に各メディアの特徴とその歴史を学び、メディアと人間Ⅱでは応用編としてメディアについての哲学や理論を扱う予定である。

【到達目標】
書物やラジオ、映画などの各メディアがどのように誕生し、人間社会にどのような影響を与えたのかを大まかに理解する。それにより自分なりの「メディア観」を作り上げていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に、各回ごとに具体的なメディア（書物やラジオ、漫画など）を取り上げつつ、その歴史的意義を考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
2	文字（アルファベット）の誕生	アルファベットの誕生が人間社会に与えたインパクトについて学ぶ。
3	書物の誕生	ヨーロッパにおける書物の誕生を例に、書物の生産・流通・消費が人間社会に与えた影響について学ぶ。
4	学校の誕生	書物をはじめとする「教育メディア」を取り上げつつ、学校の誕生について学ぶ。
5	絵本の誕生	子ども向け絵本の誕生にまでさかのぼり、子ども観の変遷と現代的課題を学ぶ。
6	ラジオの誕生	ラジオの誕生がもたらしたインパクトについて、政治利用に焦点を当てつつ学ぶ。
7	写真の誕生	写真が誕生当時与えたインパクトと、加工が容易になった現代における写真の意義について学ぶ。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	映画の誕生	ニュースや娯楽、プロパガンダなど、黎明期の多面的な映画について学ぶ。
10	テレビの誕生	絶大な影響力を誇ってきたテレビの、その隆盛と衰退について学ぶ。
11	ビデオゲームの誕生	商業的・文化的に絶大な影響力を持つビデオゲームについて、その歴史と独自性について学ぶ。
12	インターネットは民主主義の敵か	インターネットの持つ政治的なポテンシャルがどのように議論されているかについて学ぶ。
13	「人間」の条件	メディアが「人間」の条件であることを把握し、メディアの変化に伴い「人間」もまた変化することを理解する。
14	期末試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
佐藤卓己『現代メディア史　新版』、岩波書店、2018 年。
吉見俊哉『メディア文化論　メディアを学ぶ人のための１５話　改訂版』、有斐閣アルマ、2012 年。
石田英敬『大人のためのメディア論講義』、筑摩書房、2016 年。

【成績評価の方法と基準】
中間試験： 50 %
期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The goals of this course are to learn the relationship between media and human being and acquire knowledges and skills regarding analyze, design and expression of media.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on midterm exam(50%) and final exam(50%).

メディアと人間Ⅱ／比較文化論Ⅱ

李　舜志

配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアと人間が切っても切り離せない関係で結ばれていることを学び、メディアの分析、設計、表現に資する基礎的な知見を習得する。メディアと人間Ⅰは基礎編として主に各メディアの特徴とその歴史を学び、メディアと人間Ⅱでは応用編としてメディアについての哲学や理論を扱う予定である。

【到達目標】
メディアについて、これまでどのような哲学、思想、理論が構築されてきたのか、概観する。その際、ポピュラー音楽や写真、ビデオゲームなど、具体的なメディア作品や実践を取り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
メディアについての哲学や理論について、具体的な作品を取り上げつつ考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
2	美と政治	とくにナチスに焦点を当て、美と政治の関係について分析する。
3	ヴァルター・ベンヤミン：複製技術時代の芸術作品	ヴァルター・ベンヤミンの複製技術論について、当時の芸術動向や政治状況を念頭に置きつつ分析する。
4	アドルノとホルクハイマー：啓蒙の弁証法	アドルノとホルクハイマーをはじめとしたフランクフルト学派の、特に文化産業論について分析する。
5	ジークフリート・クラカウアー：映画の理論	ジークフリート・クラカウアーの『映画の理論』について分析する。
6	ローラ・マルヴィ：フェミニズム映画	ローラ・マルヴィによる映画の構造についてのフェミニズム的考察を分析する。
7	アイドル：労働としての消費	アイドルについて、とくに SNS 時代の労働と消費が混合した活動について分析する。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	スーザン・ソンタグ：他者の苦痛へのまなざし	スーザン・ソンタグの写真論を取り上げ、他者の苦痛を写真を通してまなざすことの問題点について分析する。
10	アレクサンダー・ギャロウェイ：カウンター・ゲーミング	アレクサンダー・ギャロウェイのカウンター・ゲーミングを取り上げ、ビデオゲームの芸術的・政治的側面について分析する。
11	ジョセフ・ヒース：啓蒙主義２．０	ジョセフ・ヒースの『啓蒙主義２．０』を取り上げ、理性的な活動をメディアがどのように支えるのか、分析する。
12	ハルムート・ローザ：加速する社会	ハルムート・ローザの『加速する社会』や加速主義の議論を、メディアの観点から分析する。
13	ベルナール・スティグレール：技術と時間	ベルナール・スティグレールの『技術と時間』を参照し、メディアについて分析する。
14	期末試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
中間試験（第二回～第七回から出題）： 50 %
期末試験（第九回～第十四回）のレポート： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
必須ではないが、メディアと人間Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】
The goals of this course are to understand the theories regarding relationship between media and human being.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on midterm report(50%) and final report(50%).

表象文化論 A

髙橋　愛

配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は自らが生きる世界を多様なシステムを通じて表象し、その行為によって、たえず文化を創造、展開してきた。本授業の目的は、さまざまな文化事象の歴史的文脈や時代の政治的・社会的背景を検討し、表象を成り立たせている諸要素や様態について考察することである。

【到達目標】
本授業では、言語テクスト、絵画、写真、映画、建築などのジャンルを横断しながら、個々の作品がいかなる歴史的・社会的文脈において制作され、いかなる装置によって表象されたのかを考え、文化事象を読み解く方法を提示する。それを手がかりとして、受講生は各自が関心を持つ対象にアプローチし、広い視野をもって、解析する。さらに、自ら適切に表現することもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・講義形式で授業を進める。各回の授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の説明、導入
2	中世①	キリスト教の文化とロマネスク聖堂
3	中世②	都市の発展とゴシック建築
4	ルネサンス	フランス・ルネサンスとユマニスム
5	古典時代①	絶対王政とヴェルサイユ宮殿、ロココ文化
6	古典時代②	啓蒙思想と『百科全書』、市民社会における文化
7	近代①	ナポレオンの時代と芸術
8	近代②	近代都市パリと印象派
9	近代③	ポスト印象派とコレクション
10	近代④	ジャポニスム
11	近代～現代	パリ万博とエッフェル塔、歴史的建造物
12	現代（20 世紀）	グラン・プロジェにみる新たな首都の相貌
13	現代（21 世紀）	今世紀における文化の継承と発展、課題
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で関連文献や映画、美術作品、開催中の展覧会などを紹介するので、積極的に読み、鑑賞する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
単位認定で考慮されるのは、授業での学習状況と参加度（リアクションペーパーの内容も含む）、学期末試験である。評価はそれらの総合点を 100 点満点として行われる。成績評価の内訳は、学期末試験 50 %、平常点 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
2023 年度も授業に関連するテーマのニュースに注目し、最新情報を伝えていきたい。

【Outline (in English)】
The main aims of this course are to help students understand the various phenomena in Europe and deepen knowledge of cultural representation. Before/after each class meeting, students are required to spend two hours to understand the course content. Upon successful completion of the course, they will be able to comprehend the basic concepts of these topics, as well as to approach their own subject. Grading will be based on term-end examination (50%) and in class contribution (50%).

表象文化論Ｂ

濱中　春

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では､スイスの作家ヨハンナ･シュピーリの『ハイジ』(1880-81 年）とその翻訳や挿絵、アニメ、映画などによる翻案を対象として、物語作品の構成要素や表現形式、翻訳や翻案による作品の変容について考えるとともに、物語作品へのアプローチの方法を学ぶ。

【到達目標】
･「作者の意図」や「登場人物の心情」といった観点を超えて物語作品に分析的にアプローチする方法を習得する。
･物語作品を構成する要素や、メディア（媒体）による表現方法の違い、翻案による作品の変容について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学期の前半にはシュピーリの『ハイジ』、後半にはその翻訳や挿絵、翻案作品をとりあげる。授業は基本的に講義形式でおこなうが、受講生同士で意見交換する機会も設ける。
質問や意見、課題へのフィードバックは、授業中および学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方と『ハイジ』の概要
2	作者と時代	シュピーリの生涯と 19 世紀のスイス、ヨーロッパ
3	ジャンル	ビルドゥングス・ロマン、児童文学、少女小説
4	作品分析（1）	アルプスとフランクフルト
5	作品分析（2）	自然と健康
6	作品分析（3）	鉄道・郵便・電信
7	作品分析（4）	宗教という主題
8	翻訳	『ハイジ』の翻訳
9	図像	『ハイジ』の図像化
10	絵本	言葉とイメージが語る『ハイジ』の物語
11	アニメーション	アニメ『アルプスの少女ハイジ』
12	映画（1）	映像化された『ハイジ』（1）
13	映画（2）	映像化された『ハイジ』（2）
14	ツーリズム	『ハイジ』の「聖地巡礼」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
･シュピーリの『ハイジ』を教科書として指定された版で読む。
･授業で紹介された参考文献を読んだり、映像作品を見る。
･レポート課題に取り組む。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ヨハンナ・シュピリ『アルプスの少女ハイジ』松永美穂訳（角川文庫、2021 年）

【参考書】
ちばかおり・川島隆『図説　アルプスの少女ハイジ』増補改訂版（河出書房新社、2022 年）
その他、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート 40 %、期末レポート 40 %、平常点 20 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が授業に能動的に参加する機会を増やしたい。

【Outline (in English)】
This course introduces students to elements and forms of the narrative work and ways of approaches to it. As examples it takes Johanna Spyri's "Heidi" (1880/81) and its translations, illustrations, and adaptations such as animations and movies. Students will be expected to read Spyri's "Heidi" and the references and to watch the films outside of classroom. Your required study time is two hours for each class meeting.
Grading will be decided based on mid-term report (%), term-end report (40%), and in-class contributions (20 %).

美術史（日本）A

稲本　万里子

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
平安時代後期に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明する。さらに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。
視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握する。

【到達目標】
授業で取りあげた絵巻の基礎知識を習得し、技法と表現法について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期に制作された「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「伴大納言絵巻」を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。
また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている“展覧会”というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、美術史概説	授業内容の説明
第 2 回	美術史概説	美術史の研究方法・ジャンル・時代区分
第 3 回	展覧会の見方	独立行政法人化と指定管理者制度の問題
第 4 回	絵巻概説、「源氏物語絵巻」Ⅰ	絵巻の形態、鑑賞法、「源氏物語絵巻」概説
第 5 回	「源氏物語絵巻」Ⅱ	「源氏物語絵巻」柏木第一段〜御法段、情景選択法
第 6 回	「源氏物語絵巻」Ⅲ	「源氏物語絵巻」竹河第一段〜橋姫段、早蕨段〜東屋第二段
第 7 回	「源氏物語絵巻」Ⅳ	「源氏物語絵巻」蓬生段・関屋段、若紫段、諸問題の検討
第 8 回	「信貴山縁起絵巻」Ⅰ	「信貴山縁起絵巻」概説、飛倉巻
第 9 回	「信貴山縁起絵巻」Ⅱ	「信貴山縁起絵巻」延喜加持巻、尼公巻
第 10 回	「信貴山縁起絵巻」Ⅲ	「信貴山縁起絵巻」諸問題の検討、レポートの書き方
第 11 回	「伴大納言絵巻」Ⅰ	「伴大納言絵巻」概説、上巻、中巻
第 12 回	「伴大納言絵巻」Ⅱ	「伴大納言絵巻」下巻、諸問題の検討
第 13 回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第 14 回	授業のまとめⅡ	各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。ただし「源氏物語絵巻」については、『源氏物語』の内容を講義する時間がないので、あらかじめ物語のあらすじを把握しておくことが望ましい。参考書に記した『すぐわかる源氏物語の絵画』が便利。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。プリントは Hoppii にアップするので、各自でダウンロードすること。

【参考書】
入門書として、田口榮一監修、稲本万里子・木村朗子・龍澤彩『すぐわかる源氏物語の絵画』（東京美術、2009）、稲本万里子『源氏の系譜―平安時代から現代まで』（森話社、2018）、佐野みどり『じっくり見たい『源氏物語絵巻』』（小学館、2000）、泉武夫『躍動する絵に舌を巻く 信貴山縁起絵巻』（小学館、2004）、黒田泰三『思いっきり味わいつくす伴大納言絵巻』（小学館、2002）。
各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の筆記試験 80 %、リアクションペーパー 20 %。
筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】
毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業の場合は、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC 推奨。

【その他の重要事項】
時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。
本務校の都合により対面授業がオンライン授業に変更になる場合は、Hoppii から連絡する。

【Outline (in English)】
Course outline
In this class, basic knowledge will be explained mainly on narrative scroll from the Late Heian period. Furthermore, I will explain what kind of techniques and expressions are used, and examine various issues such as the production date and the client.
Students will appreciate picture scrolls, understand techniques and expression, and grasp the current state of art history research in order to learn techniques for analyzing visual images from various angles.
Learning Objectives
Become able to explain the basic knowledge of narrative scrolls covered in class, and be able to explain techniques and expressions.
Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.
Grading Criteria /Policy
Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

美術史（日本）B

稲本　万里子

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明するとともに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。秋学期は、どのような社会がどのような視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）を作り出したのかという問題に重点をおいて講義を進める。
この授業の目的は、視覚表象をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握することである。

【到達目標】
授業で取りあげた絵巻の基礎知識を習得し、技法と表現法について説明することができる。
どのような社会がどのような視覚表象を作り出したのか説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主など、視覚表象と社会をめぐる諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	美術史概説、絵巻概説	美術史の研究方法、ジャンル、時代区分、絵巻の形態、鑑賞法
第 3 回	「鳥獣人物戯画」	「鳥獣人物戯画」の鑑賞と検討
第 4 回	「病草紙」	「病草紙」の鑑賞と検討
第 5 回	似絵	似絵作品の鑑賞と検討
第 6 回	「華厳宗祖師絵伝」	「華厳宗祖師絵伝」の鑑賞と検討
第 7 回	「北野天神縁起絵巻」	「北野天神縁起絵巻」の鑑賞と検討
第 8 回	「平治物語絵巻」	「平治物語絵巻」の鑑賞と検討
第 9 回	「男衾三郎絵巻」	「男衾三郎絵巻」の鑑賞と検討、レポートの書き方
第 10 回	「一遍聖絵」	「一遍聖絵」の鑑賞と検討
第 11 回	「春日権現験記絵巻」	「春日権現験記絵巻」の鑑賞と検討
第 12 回	「伊勢物語絵巻」	「伊勢物語絵巻」の鑑賞と検討
第 13 回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第 14 回	授業のまとめⅡ	様式の展開と各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。プリントは Hoppii にアップするので、各自でダウンロードすること。

【参考書】
入門書として、若杉準治編『絵巻物の鑑賞基礎知識』（至文堂、1995）、榊原悟監修、佐伯英里子・内田啓一『すぐわかる絵巻の見かた』（東京美術、2004）。
各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の筆記試験 80 %、リアクションペーパー 20 %。
筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合は、スライドを映写するため、PC からの受講を推奨する。対面授業の場合は、教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。学生が準備すべき機器はない。

【その他の重要事項】
時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。
本務校の都合により対面授業がオンライン授業に変更になる場合は、Hoppii から連絡する。

【Outline (in English)】
Course outline
In this class, basic knowledge will be explained mainly on narrative scroll from the Late Heian period to Kamakura period. Furthermore, I will explain what kind of techniques and expressions are used, and examine various issues such as the production date and the client. In the fall semester, lectures will focus on the question of what kind of society created what kind of visual image.
Students will appreciate picture scrolls, understand techniques and expression, and grasp the current state of art history research in order to learn techniques for analyzing visual images from various angles.
Learning Objectives
Become able to explain the basic knowledge of narrative scrolls covered in class, and be able to explain techniques and expressions.
Become able to explain what kind of society produced what kind of visual image.
Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.
Grading Criteria /Policy
Written exam 80% at the end of the semester, reaction paper 20%.

美術史（西洋）A

安藤　智子

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】
芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の鑑賞者の特徴、美術制度や社会状況を踏まえた上で、多角的・重層的に捉える視点を持って、芸術作品を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業当日に資料をアップした上で講義を行う。
講義では、パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。
授業の最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。
春学期は西洋美術史を学習する上での基礎編、秋学期はその応用編といった構成になっている。できれば秋学期も通じ、１年間受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報 美術史の学習方法・参考文献
第 2 回	美術史の基礎概念	美術におけるジャンルとは？
第 3 回	美術史の基礎用語	絵画鑑賞の基礎となる概念及び造形的な要素を説明する
第 4 回	絵画のジャンル① 神話画・宗教画	ギリシア神話や聖書に典拠した絵画や時事的な絵画まで、物語や出来事を表現する絵画を見ていく
第 5 回	絵画のジャンル② 寓意画	「アレゴリー」という概念を説明しながら、寓意画を読み解く
第 6 回	絵画のジャンル③ 肖像画・風景画・風俗画	物語画以外のジャンルの絵画について外観する
第 7 回	物語から表象へ	聖書の主題である「受胎告知」を例にとり、テキストから絵画イメージへの変換の過程を検証する
第 8 回	王侯貴族の絵画	ロココの芸術を中心に、主に王侯貴族がパトロンであった時代の絵画を見る
第 9 回	フランス革命期の絵画	新古典主義の絵画を中心に、フランス社会が変容した時代の絵画を検証する
第 10 回	ロマン主義の絵画	時事的な主題を扱った作品や人間の暗部に焦点を当てたロマン主義の絵画を紹介する
第 11 回	都市と自然①	文化が花開く都市を描いた作品と農業が営まれる自然を描いた作品を対比して見る
第 12 回	都市と自然②	とくに都市改造計画で一新したパリの様子や人々の姿を描出した絵画を考察する
第 13 回	美術制度と芸術	１９世紀中葉からのパリの美術制度と俯瞰し、展覧会と芸術作品の関係性について考察する
第 14 回	まとめと質疑応答	これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館にできるだけ出向いて、常設のコレクションや企画展に展示されている実際の美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』を部分的に読み１章につき要約をすることを中間か期末の課題とする。
授業では教科書は使用せず、参考文献を授業中に適宜紹介する。

【参考書】
『世界美術大全集　西洋編』、小学館、19-24 巻、1993-96 年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997 年
三浦篤『まなざしのレッスン１―西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001 年
三浦篤『まなざしのレッスン 2 －西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015 年
E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007 年日本語版初版。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（３０％）学期末レポート（４０％）と、平常点（主に授業で紹介した作品に対するコメント、３０％）を参考に成績評価を決定する。
芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。平常点には授業内コメントを含む。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけアート作品を見る機会を増やしてもらうために、授業中に開催中の展覧会の紹介する。また状況が許せば展覧会見学も実施したい。

【Outline (in English)】
Course Outline: Focusing on modern and contemporary art created in Europe, especially in France, we will study artworks from multiple points of view.
Learning Objectives: The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.
Learning Activities Outside of the Classroom: If possible, students should go to museums voluntarily to see artworks, based on the knowledge they learn in the class.
Grading Criteria/Policy: The final grade will be decided according to brief comments written by students at the end of each class (30%) and papers submitted in the middle and at the end of the course (30% and 40% respectively).

美術史（西洋）B

安藤　智子

配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】
芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。
芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業当日に資料をアップした上で講義を行う。
パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。
授業最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要 美術史へのアプローチ
第 2 回	美術史の基礎概念と基礎用語	作品主題のジャンル 造形性を表す用語の確認
第 3 回	筆触の多様性〜印象主義から新印象主義へ	美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する
第 4 回	視点とパースペクティブ〜セザンヌからキュビスムへ	絵画空間における視点、及びパースペクティヴに着目し、１９世紀後半から２０世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を確認する。
第 5 回	素朴さへの憧れ〜ゴーガンとゴッホ	近代社会の進歩や工業化に反発し、非西洋文明のイメージを具現化したゴーガンやゴッホの絵画を検証する
第 6 回	異文化との出会い①	１９世紀にイギリスやフランスで開催された万国博覧会から異国の文化が波及する過程を追う
第 7 回	異文化との出会い②	主に１９世紀のフランス美術が日本の彩色木版画（浮世絵）から受けた影響について紹介する
第 8 回	写真と絵画	１９世紀に登場した写真が及びした視覚芸術への影響を考察する
第 9 回	アヴァンギャルド芸術①	２０世紀初頭の、フォーヴという美術運動、それに続く西欧社会の軍国主義を反映したイタリア未来派の絵画について考察する
第 10 回	アヴァンギャルド芸術②	２０世紀初頭に現出した美術運動であるダダとシュルレアリスムについて解説する
第 11 回	抽象絵画	対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を考察する
第 12 回	美術市場の形成	１９世紀から２０世紀にかけて、画商やコレクターの活動を参照し、個人コレクションが形成される過程を見る
第 13 回	美術鑑賞と美術批評	美術作品を見る立場にある鑑賞者の視点に立って、鑑賞形態や作品を批評することについて考える。とくにゴッホという画家の伝説化について検証する
第 14 回	双方向の授業によるディスカッション	これまでの総括 芸術と社会との関係性を包括的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できれば、春学期と通年で履修してください。
様々な美術館の展覧会に出向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
E.H ゴンブリッチ『美術の物語』を部分的に読み、その中の１章を要約する課題を出す予定です。
また授業の内容に沿って参考図書を適宜紹介していきます。

【参考書】
世界美術大全集　西洋編』、小学館、19-24 巻、1993-96 年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997 年
三浦篤『まなざしのレッスン１―西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001 年
三浦篤『まなざしのレッスン 2 －西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015 年
E.H. ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007 年日本語版初版。

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合は、中間レポート（３０％）学期末レポート（４０％）と、平常点（主に授業で紹介した作品についてのコメント、３０％）を参考に成績評価を決定する。
　芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の内容に沿って、開催中の展覧会を紹介する。
状況が許せば、展覧会見学を行いたい。

【Outline (in English)】
Course Outline: Focusing on modern and contemporary art created in Europe, especially in France, we will study artworks from multiple points of view.
Learning Objectives: The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.
Learning Activities Outside of the Classroom: If possible, students should go to museums voluntarily to see artworks, based on the knowledge they learn in the class.
Grading Criteria/Policy: The final grade will be decided according to brief comments written by students at the end of each class (30%) and papers submitted in the middle and at the end of the course (30% and 40% respectively).

考古学概論

古庄　浩明

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】
日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。
授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援室システムに課題を提出していただき、そのフィードバックは学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答は授業中および学習支援システムを利用して行う。授業には資料も利用する。授業のプリントは「古庄浩明の講義ノート」（https://wacoffee.blogspot.com/）から各自ダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。
毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	考古学とは何でしょう	考古学の定義
第 2 回	世界考古学の大まかな歴史	世界考古学史
第 3 回	日本考古学の大まかな歴史	日本考古学史
第 4 回	考古学の資料収集 1	遺跡の発見
第 5 回	考古学の資料収集 2	遺跡の発掘
第 6 回	何が残っているか	考古資料とその種類
第 7 回	時代決定法 1	層位学
第 8 回	時代決定法 2	型式学
第 9 回	科学的年代測定法	放射性炭素年代測定法 年輪年代測定法 磁気年代測定法
第 10 回	分布論 1	ミクロの研究
第 11 回	分布論 2	マクロの研究
第 12 回	製作技法	石器の製作技法 土器の製作技法
第 13 回	用途論 遺跡の保存	機能と用途 遺跡保存の実例 文化財保護
第 14 回	授業の総括	期末テスト 60 分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、教科書・参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
古庄浩明 2021『第 2 版　考古学の世界－初めて考古学を勉強する方のために』三恵社
ISBN 978-4-86693-380-1 C1020　定価 1650 円（本体 1500 円＋税 10 %）

【参考書】
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 %とし、期末試験による評価を 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【学生が準備すべき機器他】
ネット環境とディバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.
To be able to explain the process of academic development of archaeology, especially in Japan.
To be able to understand the process of development of archaeological methods.
To be able to understand the relationship between archaeology and related sciences.
Students will understand the methods and ideas of archaeology mainly from the perspective of academic history, and consider the broad historical picture that can be assembled from material culture.
The class will be conducted in a face-to-face lecture format. The class may be conducted on-demand depending on the situation. The distribution of materials, submission of assignments, feedback, etc. will be done through the learning support system and other means. Specifically, students will be asked to submit assignments to the Learning Support Office system, and feedback will be sent back to each student via the Learning Support System. Questions and answers to them will be given in class and via the learning support system. Materials will also be used in class. Students will be able to download and use class handouts from "Hiroaki Furusho's Lecture Notes" (https://wacoffee.blogspot.com/). They are protected, and the protection key will be provided in class.
Students will be asked to submit a small report after each class.
50% of the evaluation will be based on a short report based on in-class assignments, and 50% will be based on the final examination.
An internet environment and a terminal (computer, smart phone, pad, etc.) are required. I will use a learning support system or other means to distribute materials and submit assignments.

日本考古学

古庄　浩明

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本考古学の歴史について理解することを目的とする。日本考古学がどのような学史をたどって成立してきたかを理解し、日本考古学の現状と課題を理解する。

【到達目標】
日本考古学の成り立ちを理解し、現在の考古学の学問的位置と状況について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は授業中および学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答は授業中および学習支援システムで行う。授業では資料も利用する。授業のプリントは各自「古庄浩明の講義ノート」（https://wacoffee.blogspot.com/）からダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。プリントを授業中に配布する場合もある。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	近代以前の考古学 近代日本考古学の誕生	考古学以前 大森貝塚とモース
第 3 回	民族論	コロボックルと 先住民族
第 4 回	実証主義の萌芽	層位学 弥生土器の発見 古墳時代
第 5 回	大正時代の考古学	鳥居龍蔵 喜田貞吉
第 6 回	型式学のはじまり	濱田耕作 松本彦七郎
第 7 回	実証的研究	加曽利貝塚 姥山貝塚
第 8 回	旧石器論争	国府遺跡 直良信夫と明石原人
第 9 回	弥生文化の研究	様式論
第 10 回	科学的歴史研究	ひだびと論争 社会構成体論
第 11 回	縄文土器と弥生土器の編年研究	山内清男 森本六爾
第 12 回	戦後の日本考古学	岩宿遺跡と登呂遺跡 相沢忠洋
第 13 回	ニューアーケオロジー（プロセス考古学）と考古学の現在	ルイス・ビンフォード
第 14 回	総括 期末試験（60 分）	全体のふりかえりと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料やノート・参考書等をよく読み、各時代の研究の流れを理解する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
勅使河原彰 1995『日本考古学の歩み』名著出版
古庄浩明 2013『「日本」のはじまり－考古学から見た原始・古代』和出版
Hiroaki FURUSHO 2022『Beginning of Japan』kindle

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 %とし、期末試験による評価を 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
配付資料やノートをよく読み、時代背景も鑑みて学史を理解してほしい。現代の学史的解釈だけではなく、できるだけその時代の論文や図録を使って、当時の研究者の文章や図版に触れ、時代背景とともに解説するようにした。

【学生が準備すべき機器他】
ネット環境とディバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to understand the history of Japanese archaeology. To understand how Japanese archaeology has been established through its academic history, and to understand the current status and issues of Japanese archaeology.
Understand the origins of Japanese archaeology and be able to explain the current academic position and status of archaeology.
Classes will be conducted in lecture format. On-demand lectures may be given depending on the situation. Distribution of materials, submission of assignments, feedback, etc. will be conducted in class and through the learning support system. Specifically, students will be asked to submit assignments to the learning support system, and feedback will be sent back to each student via the learning support system. Questions and answers will be provided in class and via the learning support system.
Materials will also be used in class. Students will be able to download and use class handouts from "Hiroaki Furusho's Lecture Notes" (https://wacoffee.blogspot.com/). They are protected, and the protection key will be provided in class. Printed materials may be distributed in class.
Students are required to submit a small report after each class.
Students should carefully read the distributed materials, notes, and reference books to understand the flow of research in each period.
Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
50% of the evaluation will be based on a short report based on in-class assignments, and 50% will be based on the final examination.

民俗学Ⅰ

室井　康成

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本民俗学の創始者・柳田国男（1875 － 1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】
「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第 2 回	DVD『柳田国男―民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第 3 回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第 4 回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 5 回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 6 回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第 7 回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的位置づけを押さえます。
第 8 回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第 9 回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第 10 回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第 11 回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第 12 回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第 13 回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。
第 14 回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2 時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】
室井康成『柳田国男の民俗学構想』（2010 年，森話社）
室井康成『政治風土のフォークロア－文明・選挙・韓国』（2023 年，七月社）
岩本通弥他偏『民俗学の思考法－〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』（2021 年，慶応義塾大学出版会）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験 100 %）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の３～４回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.
【Learning Objectives】
Understanding Japanese folk-culture and the concept of folklore.
【Learning activities outside of classroom】
Reading the bibliography.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination;100%

民俗学Ⅱ

室井　康成

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本列島（北海道から鹿児島まで）の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡（戦死塚）が、管見の限り約１６００ヶ所存在する。場合によっては１０００年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、後期の対象ともなるが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探求する。

【到達目標】
過去に起きた戦争の死者をめぐる扱いは、時に国際問題へと発展することもある。そうした場合、直近の戦争の事例がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身に着けることで、日本文化の正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。
第 2 回	民俗学の基礎知識	「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。
第 3 回	壬申の乱をめぐる戦死塚	古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。
第 4 回	平将門の反乱の歴史的意義	平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。
第 5 回	「空飛ぶ首」の伝承	平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。
第 6 回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（1）	源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。
第 7 回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（2）	一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。
第 8 回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（1）	南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。
第 9 回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（2）	楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第 10 回	関ヶ原の戦いの戦死塚（1）	前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。
第 11 回	関ヶ原の戦いの戦死塚（2）	関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第 12 回	幕末・維新期の戦死塚	戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争（とくに鳥羽伏見の戦い）の事例を検討します。
第 13 回	彼我の分明－戦死塚をめぐる伝承の「近代」	戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。
第 14 回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、積極的に調べること。また授業外の学習は、テキストの通読（2 時間程度）および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『日本の戦死塚－増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022 年、1,540 円（税別）

【参考書】
テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験 100 %）。ただし、終講の３～４回前の授業時に、どのような内容が出題されるのかをお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
・Course outline
in japan, there are about 1,600 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.
・Learning Objectives
Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.
・Learning activities outside of classroom
Review resumes and read references.
・Grading Criteria /Policy
Written exam on the last day of the lecture

法政大学
HOSEI University